



MOMO

特別養護老人ホーム モモ

ショートステイ モモ

ケアハウス モモ

デイサービスセンター モモ

居宅サービスセンター モモ



PINO

コミュニティホーム ピノ

ショートステイ ピノ

コミュニティセンターピノ



NaNa

フレイグラントオリーブ ナナ

ケアステーション ナナ

2019 Annual Report
令和元年度事業報告



目 次

これからの課題 _____	1
施設ケアマネジメント（モモ） _____	5
特別養護老人ホームモモ _____	7
ショートステイモモ _____	17
施設ケアマネジメント（ピノ） _____	23
コミュニティホームピノ _____	25
ショートステイピノ _____	35
ケアハウスモモ _____	41
フレイグラントオリーブナナ _____	45
デイサービスセンターモモ _____	49
コミュニティセンターピノ _____	53
栄養と調理 _____	57
居宅サービスセンターモモ _____	67
ケアステーションナナ _____	79
委員会活動 _____	91
パブリックリレーション _____	101

F_{uture} S_{ubject}

これからの課題

●モモ拠点

高齢者福祉施設のみならず、法人の本体施設としての機能を発揮する事ができるよう、収支の安定はもとより、児童福祉施設とも協力し、本部業務上の役割分担・情報管理の強化・設備の有効活用などにも努めていく。

1. 特別養護老人ホームモモ

2019年度の新規入所者は17名だが、退所者も15名となり、年度内での満床には至らなかった。看取りを継続する事で、退所者を見越した新規入所者の面接等を行ないながら、少しでも空床期間を少なくしていく。

2019年4月1日付での嘱託医変更に伴い看取り体制が構築でき、年度内では看取りを8例実施出来ている。但し、加算取得要件を満たすまでには至っておらず、2020年度は看取り介護加算を取得できるように体制を強化していく必要がある。

職員人数の確保がままならず、個々の職員に負担がかかってしまっている。業務改善を行ないながら、現状にあった業務体制を日々更新していく必要がある。人数不足の中でも職員の介護技術・知識を育成する為の教育をしていき、介護職として個人の能力向上を図る。

2. ショートステイモモ

2019年度は2018年度に比べ、年間稼働率が108%と微増しているが、2017年のプライバシー強化（間仕切り）工事で2018年にかけて減少してしまった14.7%の減少を取り戻すには至っていない。

ショートステイ利用から特養本入居となった方が昨年度より11人増加している事から、施設に慣れて頂いた方が終の棲家として特養へ入居して頂ける体制作りは出来始めているが、それに伴い低下したショートステイの稼働率を取り戻すことができておらず、その落ち込みも顕著である。

2019年度に問い合わせを頂いた新規利用希望者の多数が、医療依存度の高い方、認知症による暴力や暴言、他利用者に対する影響等がある方々であり、今後安定した稼働率を維持する上でも、他施設で対応困難な利用者や、在宅看取り対応中の方でも受け入れられるような体制を作る必要がある。

認知症対応など、職員のスキルアップに良い研修があれば積極的に紹介し、研修に参加した職員を通じ介護職員の専門性を高め、質の高いサービス提供体制の確保に努めると共に、緊急・困難事例の受入なども可能な限り行ない、事業所の知名度や信頼性の向上を図る事がこれからの課題である。

3. ケアハウスモモ

現在、入居者の平均年齢が80歳代を超えており、入居者がケアハウスで自立した生活を長く送ることができるように、著しい体力低下や意欲低下を防ぐことが重要となる。その為、余暇活動の推進や、集団生活のマナー向上を目指して、入居者同士が良好な関係を築けるようにサポートしていく。

また、外出時や居室内で転倒などの事故が多く発生していることや、外出・外泊ができる事で感染症のリスクもあるため、リスクマネジメントや感染症対策で意識付けを行ない、安心・安全な生活を目指していく。

近年では待機者が少なくなってきたており、見学者や申込者も月に1件あるかないかの状況である。特に2人部屋の希望者が少なく、待機者調査でも返信が無い方もいる。待機者獲得の為にも、ケアハウス部会や他事業所との協同も重要になると考えられ、今後はそちらにも注力していく。

4. デイサービスセンターモモ

2019年度は、4月から徐々に登録人数・実利用者数が減少してしまった。1日の平均参加人数は、4月の24.8名に対し3月が19.1名となっている。

毎年、季節などの影響による平均参加人数の変動は年内でも生じているが、その幅を少なくし、かつ一定に保つ事が今後の目標となる為、引き続き他部署・他事業所と連携し、新規獲得・既存利用者の増回に努め、総合事業である「第1号通所事業」への正確で柔軟な対応も継続する。

2020年度は、日々の業務内容や一日の流れを修正し、必要な職員人数などにつき効率化を図り、対応できる職員が限定される送迎業務についてもどう対応していくのかが課題となる。

稼働率の維持と同時にサービスの質の維持・向上に努め、コミュニティセンターピノとの連携も円滑にし、双方の実績向上を図っていく。

5. 居宅サービスセンターモモ

長年目標にしていた特定事業所加算の算定には、常勤介護支援専門員と主任介護支援専門員を合わせて3名以上の配置が必要である。

主任介護支援専門員資格が2019年度中に事業所内職員により取得できたので、その資格を活かす為にもなるべく早く職員を3名体制に戻し、特定事業所加算の取得に向けた手続きを進めていく。

増収には実績の向上が欠かせないので、地域包括ケアシステムの構築も含めて、各高齢者支援センターとの連携を強化し、予防・介護の分け隔てなく新規の受け入れを行ない、公平中立を念頭に置いて質の高いケアマネジメント・利用者のニーズに合ったサービスの提供を行なう事で、登録人数の確保及び実績の安定を図っていく。

同時に、自法人施設サービス（特別養護老人ホームモモ・コミュニティホームピノ・ケアハウスモモ・フレイグラントオリーブナナ）の空き状況も把握し、入居相談・紹介等を行ない、各事業所の稼働率向上・安定にも協力出来るようにする。

●ピノ拠点

地域密着型特養・認知症対応型通所介護といった、報酬単価が高めの事業が集約されている一方、小規模であるが故に稼働率の低下により収入に与える影響はモモ拠点の比ではない。

また、報酬単価が高いという事は、従来型特養・通常デイとは異なる価値を見出す事が出来なければ、入居・利用希望者は集まらない。

2020年度はモモとは異なる価値を見出す為にも、職員配置をはじめ、今まで以上に様々な加算取得を視野に入れた運営が求められる。

6. コミュニティホームピノ

地域密着型特養として、地域に根差し、地域に開かれた施設作りが今後も重要となる。

2013年4月の開設から7年が経過したが、入居者の心身状況も低下し、ユニット体制としての職員配置もユニット1人対応が主となる現行の体制では、サービス提供に限界が見られている。

2019年度より可能となった看取り対応も、今後は加算取得が可能となる状態まで実施プロセスを構築し、一層の質の向上を図る必要がある。

雇用情勢も厳しい為、派遣社員が多数を占めている状況の中、サービスの質の向上・運営面の見直しが必要となっている。また、待機者の減少対策も積極的に図っていかねばいけない。

7. ショートステイピノ

2019年度の年間稼働率は、2018年度より若干ではあるが向上したものの、リピーターの確保・定着は依然困難で、近隣には他の事業所も多く存在しており、利用者の取り合いになっている面もある。

2020年度はサービスの質の向上を継続し、他事業所との違いを打ち出していけるようユニット職員とも連携を取り、リピーターの獲得のみならず、長期利用者の受け入れにも注力し、週末の利用集中を緩和する事で平日の空床減少に繋げていく。

8. コミュニティセンターピノ

認知症対応型のデイサービスとして2013年4月の開設より7年が経過したが、2019年度も厳しい運営状況であった。稼働率が50%を下回る状態が続いており、利用者登録数13名、1日平均利用4.7名と低迷しているため、利用者登録数の増加、利用日の増回を直近の課題と考え行動していく。

新規獲得の他、2020年度は定員（1日12名）の中で既存利用者の臨時参加受け入れの推進や増回依頼などのニーズにも柔軟に応えつつ、デイサービスセンターモモとの連携を図り、問題解決に取り組まなければならない。

●ナナ拠点

ケアハウスモモを有する当法人にとっては、同じ自立型施設ではあっても、費用負担面でケアハウスよりも高額となるフレイグラントオリーブナナの入居率を高めるためには、先述の「ピノ拠点がモモ拠点とは異なる価値を見出す」以上の努力が必要になる。

また、サービス付き高齢者向け住宅という点、世間一般では「身体介護サービスを必要な時に必要な分だけ受ける事ができる」印象が強く、24時間365日スタッフが常駐している施設も少なくない。

今後も、入居者獲得のためには「ケアハウスモモ以上」且つ「近隣のサ高住以上」の優位性を確立していく必要がある。

そのためには、地域密着型拠点の「ピノ以上」に、地域に根差し、地域に開かれた施設作りが求められる。

9. フレイグラントオリーブナナ

2017年4月の開設から3年が経過したが、2020年3月末時点の入居者数は18名と、採算ベースである稼働率70%以上の入居者数(23名)には未だ届いていない。

満室に向け見学会を開催していく等、引き続き施設の認知度を上げる努力が必要である一方、入居者の安心・満足度を高める対策に取り組まなければならない。

10. ケアステーションナナ

新規依頼も順調で、2020年3月末時点で48名の登録者がおり、2019年12月より稼働率は常に安定して90%超を維持している。

2018年9月に居宅介護支援事業所としての再開以降、開設3年目となる2020年度も、引き続き積極的に新規獲得を目指し、稼働率100%を目指していく。

自法人在宅サービスであるデイサービス・ショートステイの利用者が増えているが、モモ・ピノとも特定事業所集中減算の適用を考慮しても利用できる枠は未だ残されているため、公平中立を念頭に置いて質の高いケアマネジメント・利用者のニーズに合ったサービスの提供を行なっていく。

同時に、自法人施設サービスの特別養護老人ホームモモ・コミュニティホームピノ・ケアハウスモモ・フレイグラントオリーブナナの空き状況も把握し、需要がある方型への入居相談・紹介等を通して各施設の稼働率安定に協力出来るようにする。

介護保険法の改正があり、2021年4月より事業所の管理者が主任介護支援専門員でなければ事業継続が出来なくなる予定であったが、猶予期間が5年延長されている為、期間内の主任介護支援専門員の資格取得研修参加にも注力し、将来的な事業継続に繋げていく。

施設ケアマネジメント(モモ)

●会議開催日数

平均して3回/月、延べ41日/年の開催日数にて推移した。

2019年度は新規入所が12名と、2018年度より7名の減少となっているが、上半期に入所された方が多く、半年後開催の2回目の会議も年度内に開催された事から、開催日数の増加に繋がったと思われる。

2020年度も、利用者及びその家族主体でのスケジュールリング（介護保険更新時期との連動及び状態変化による）を継続していく。

●ケース会議の役割

家族の平均出席率は88%で、2018年度（89%）とほぼ同等の割合で推移している。

ケース会議を日常生活の様子を家族に伝える場、家族から入居前の生活歴等を伺う場として活用し今後のケアに繋げていく。

また、これまで同様に家族と施設職員との情報交換の場としての役割を担い、家族と職員間のコミュニケーションを図る場として重要な会議と位置づけ定期開催していく。

ケース会議は本人・家族の意向を確認し、今後のケアの方向性を定め、具体的に提供するサービスを提案し、同意を得る契約の場でもある。欠席の場合は極力直接説明後に同意を頂くようにし、やむを得ず郵送でやり取りする場合でも、ポイントを電話にて説明した後に送付する事としている。

会議開催日数

単位：日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延べ
2019年度	2	4	4	3	5	4	3	3	3	2	4	4	41
2018年度	2	2	3	3	4	4	2	4	4	4	3	4	39
2017年度	4	3	3	1	3	9	1	1	3	3	2	3	36

計画作成回数

単位：人

	初回	2回目	3回目	4回目	5回以上	延べ
2019年度	12	13	6	3	25	59
2018年度	19	13	1	6	26	65
2017年度	6	4	9	8	28	55

対象者数

単位：人

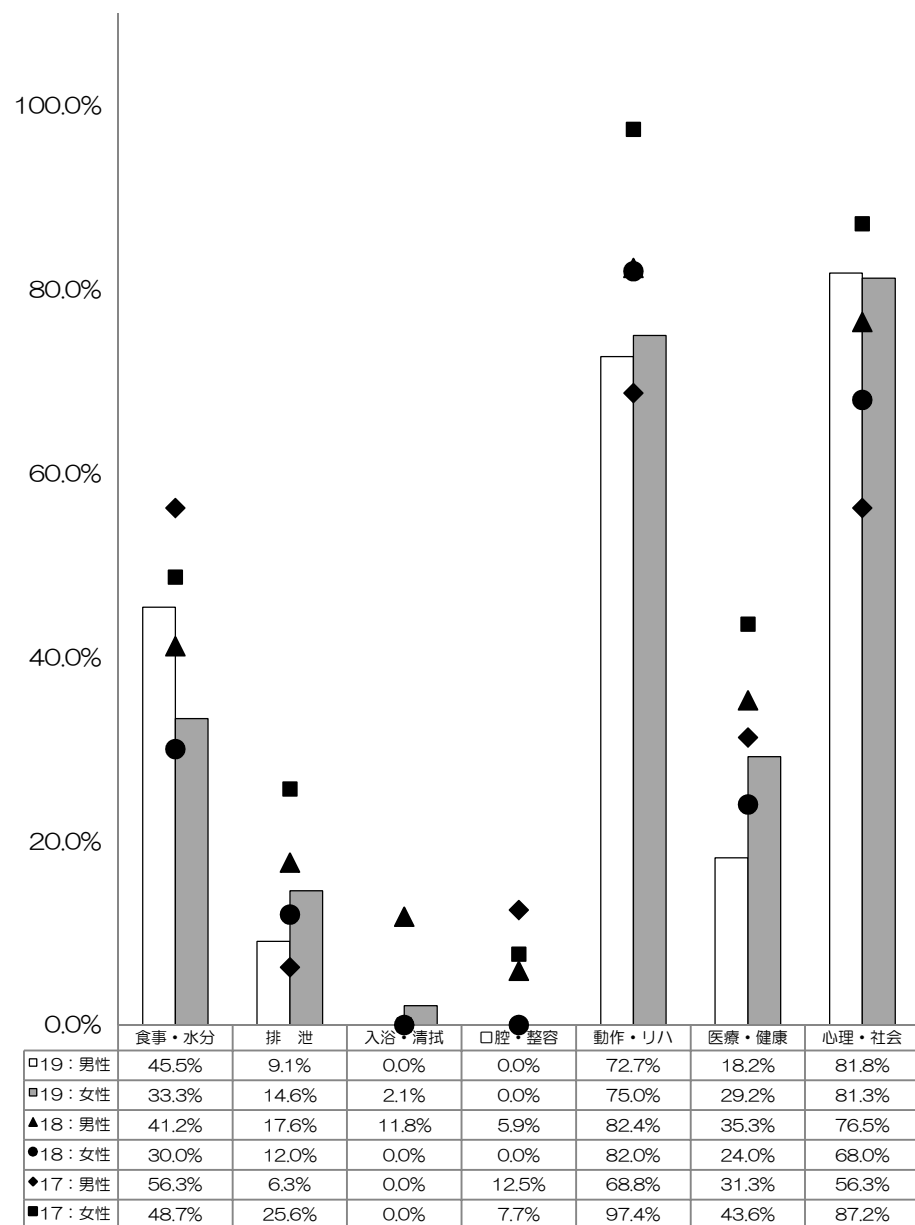
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延べ	平均
2019年度	2	6	7	6	8	7	3	3	3	6	4	5	60	5.0
2018年度	4	4	6	6	7	8	3	5	6	6	5	7	67	5.6
2017年度	6	5	4	4	6	8	2	1	4	5	3	7	55	4.6

家族（含：後見人等）出席率

単位：%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	100	100	86	83	88	100	67	100	100	100	75	60	88
2018年度	75	100	83	100	86	88	67	100	83	83	100	100	89
2017年度	83	100	75	100	100	87	50	100	75	80	100	100	88

項目別ケアプラン立案傾向（男女別 / 割合）



●ケアプラン立案傾向からみた入居者像

三団体方式における「ケアチェック表」を基に、当施設における課題分析・計画立案状況から入居者像を見出してみる。

※実数値はひとりあたり複数回答が存在するために省略。

※項目別の立案件数を、各年度の延べ対象者数で割ったものを%表示。

「動作・リハビリ」「心理・社会」面のニーズ（課題立案）の割合は2018年同様非常に高くなっている。

「動作・リハビリ」では認知症の進行とそれに伴う ADL 低下により、転倒・転落リスクが高い方が引き続き多い事を表している。

「心理・社会」では精神的な面でのフォローが必要な方に加え、余暇活動等による日常生活の充実を求める方が多い事も背景にあると思われる。

また、利用者の高齢化や看取り介護の実施により経口摂取が難しい方の入所継続が可能となった事に伴い、「食事・水分」「医療・健康」面のニーズも2018年同様の割合を維持している。

以上の事から、物理的にも心理的にも介助量が多い入所者の増加が継続しており、また、重度化も進んでいる事が表れている。

N Home ursing

特別養護老人ホームモモ

2019年度は看取りを開始した事で、家族にも安心して頂ける体制となり、療養型医療施設転院による退所者は減少した。

しかし、各入所者の身体状態低下は顕著であり、看取り対象者のご逝去や状態低下に伴う入院など、年度内での退所者が多く出てしまっている。

新規入居者は退所者よりも人数が多いが、新たに入居しても直ぐに退所者が出てしまう状況が続き、年度末での満床には繋がっていない。

2020年度も引き続き新規入居者数の確保を行なうと共に、看取り期からの退所に備え、早めに新たな待機者への声掛けをし、空床期間を少なくできるようにしていく。

職員不足も2018年度より継続しており、職員1人あたりの業務負担も増えてしまっている。少ない職員人数でも十分な介護が出来るように、既存の業務内容を変えて効率化を図らねば、状況を打破する事には繋がらない。

2020年度は、一層の業務改善や、職員教育を行なっていけるようにする必要がある。

●2019年度重点課題への達成度

① 空床ゼロに向けた待機者管理

2019年度は、新規入所者が17名、退所者が15名となり、退所人数より新規入所者が多かったが、2018年度から終末期に該当する入所者の増加が続いている事もあり、全ての空床ベッドを埋めるまでには至らなかった

新たな方が入居しても、状態低下されてしまった方や看取り対応の方がすぐに退居となってしまいう状況もみられてしまった。看取り体制ができていて、退居を見越した新規入所者への連絡・面接等も行なえるようになってきている為、今後も、空床期間を減らす努力を続ける。

また、満床に繋げていけるように、医療機関や各居宅支援事業所などと連携をとり、新規入居者の確保に繋げていく。

② 看取り介護体制の構築

2019年度は看取り介護体制を構築する事ができ、年度内で8名の看取りをさせて頂いている。まだ十分な対応が出来ているとは言い難く、課題も多いが、ご家族様からも良い意見を頂けている。

今後は、看取り介護加算を算定できるように、施設内で対応の整備を行ないながら、2020年度には看取り介護換算を算定できるように努め、職員の死生観の勉強など、看取りの研修を行なっていく。

③ 職員教育・職場環境改善の強化

2019年度は職員教育に十分な時間を割く事が出来なかった。職員不足も関係していたが、2020年度はきちんと既存職員の教育体制を構築し、少ない人数の中でも十分な業務を行なっていけるように体制を整えていく。

新たな入職者の確保も難しい状態であるが、非常勤・派遣職員等関係なく、誰が入職しても十分な教育が行なえるように、マニュアル作成・定期更新を強化し、職員の能力アップを図っていく。

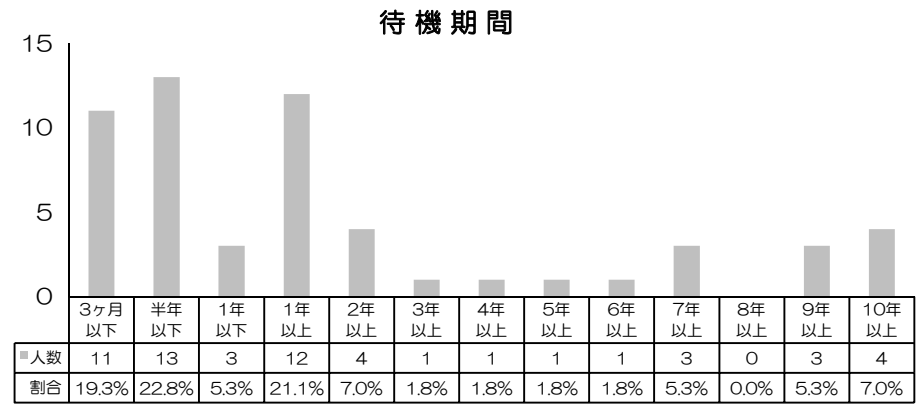
1. 入居待機状況

a. 地域別・待機期間別待機者

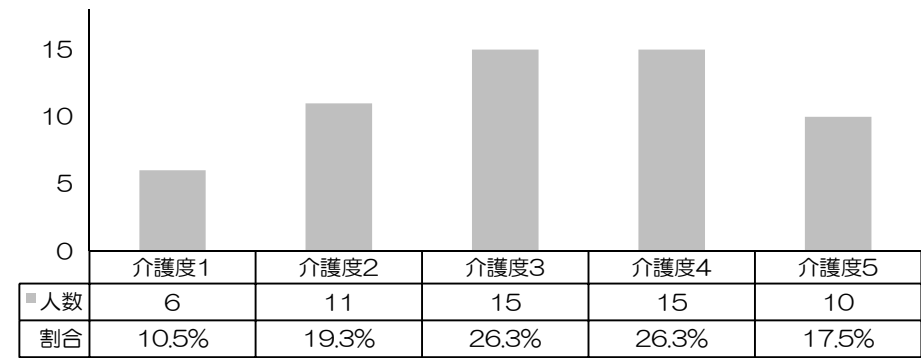
待機者数：57 人（男性：17 名・女性：40 名）

地域別数：区内/45 人・市内/7 人・市外/5 人

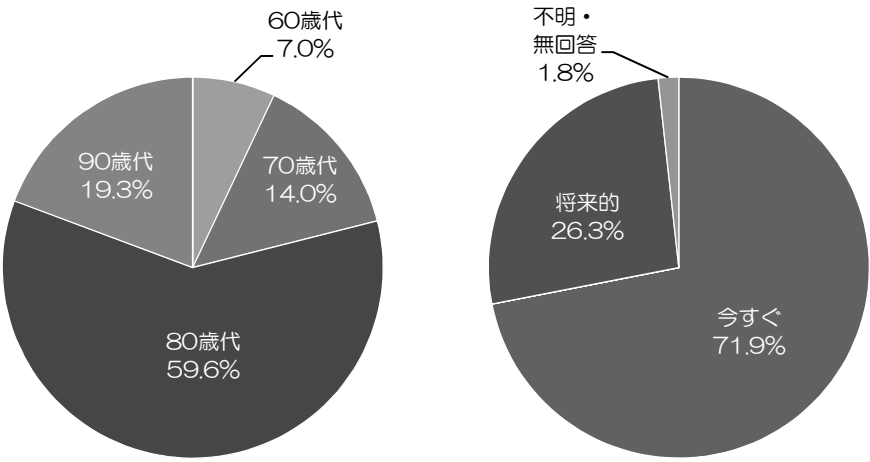
（2019 年度申込者：28 名）



b. 待機者介護度（除：要支援移行・期限切）



c. 待機者年齢・入居希望時期



入居希望時期 介護度別構成

単位：人

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
今すぐ入居したい	2	3	14	14	8	41
半年先ぐらいいは入居したい	0	0	0	0	0	0
1 年先ぐらいいは入居したい	0	0	0	0	0	0
将来的に必要なになった時に入居したい	3	8	1	1	2	15
不明・無回答	1	0	0	0	0	1
合 計	6	11	15	15	10	57

※2020 年度新規入居者 17 名における待機期間

平均：118.6 日間（最長：412 日間・最短：14 日間）

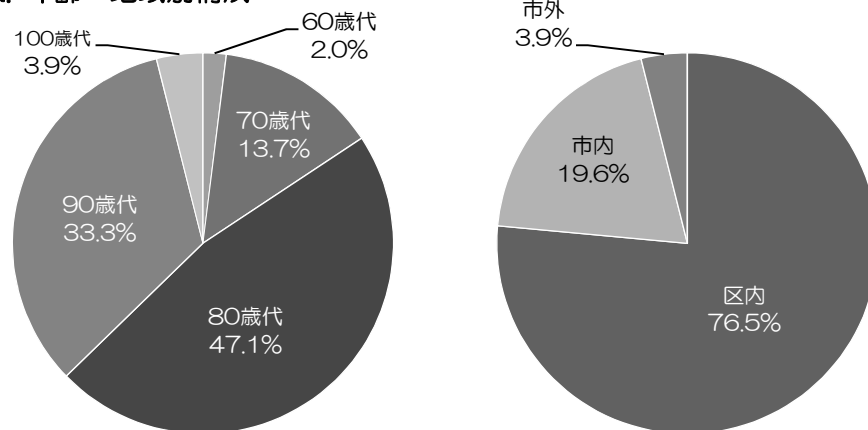
※2020 年 3 月 31 日現在の最長待機日数：6572 日間

2. 入居者の現況

(2019年度実績者延べ：66名)

待機者減少もあり、男性多床室1室を女性部屋へ転換。比較的介護度が低い方の入所も行なわざる得ない状況の為、全体の平均介護度としては、2018年度より低下している。高齢入居者の退所も目立つが、新規入所者の年齢も高く、平均年齢は殆ど変わらない状況となっている。

a. 年齢・地域別構成



●年齢構成 単位：人（延べ） / () 内は前年度数

	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計
男性	0 (0)	1 (0)	3 (10)	8 (11)	1 (2)	0 (0)	13 (23)
女性	0 (0)	0 (0)	7 (3)	19 (19)	23 (21)	4 (3)	53 (46)
全体	0 (0)	1 (0)	10 (13)	27 (30)	24 (23)	4 (3)	66 (69)

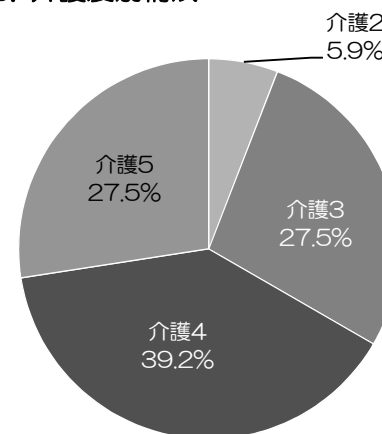
●地域 単位：人（延べ）

地域	男性	女性	合計
相模原	13 (17)	50 (47)	63 (64)
その他	0 (1)	3 (4)	3 (5)
合計	13 (18)	53 (51)	66 (69)

	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男性	89歳(93歳)	68歳(71歳)	81歳 7ヶ月(82歳9ヶ月)
女性	108歳(108歳)	72歳(71歳)	87歳 11ヶ月(88歳0ヶ月)
全体	108歳(108歳)	68歳(71歳)	86歳 11ヶ月(86歳4ヶ月)

※ () 内は前年度数値

b. 介護度別構成



待機者の減少の伴い、介護度4・5の方の入所確保が困難な状況にある。その為、介護度3の方でも新規入所獲得しており2018年度より全体の平均介護度は0.29低下している。

ただし、新規入所者の年齢が比較的高齢である為、今後、平均介護度は上昇すると考えられる。

全体

単位：人（延べ）

介護度	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	平均
男性	0	0	4	3	5	4.08(4.04)
女性	0	3	15	22	14	3.87(4.27)
合計	0	3	19	25	19	3.91(4.20)

※ () 内は前年度数値

2F（特養入居・短期入所混在）

単位：人（延べ）

介護度	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	平均	合計
男性	0	0	3	0	3	4.00	6
女性	0	2	4	8	2	3.67	16
合計	0	2	7	8	5	3.73	22

3F（特養入居のみ）

単位：人（延べ）

	介護1	介護3	介護5	合計
男性	0	1	2	6
女性	0	11	12	38
合計	0	12	14	44

c. 身体障害手帳

単位：人（延べ）

	重度		中度		軽度		合計
	1級	2級	3級	4級	5級	6級	
男性	1	0	0	0	0	0	1
女性	5	1	2	0	0	0	8
合計	6	1	2	0	0	0	9

内訳	肢体 不自由	心臓機 能障害	言語 障害	視覚 障害	聴覚 障害	精神 障害	合計
	4	4	0	0	0	1	

※重複認定障害者 3 名有り

d. 健康保険

単位：人（延べ）

後期高齢者医療	国保	健保	生活保護	合計
61	3	被扶養者	医療扶助	
		0	2	66

e. 介護保険負担限度額認定

単位：人（延べ）

第一段階	第二段階	第三段階	第四段階	合計
2	7	22	35	66

3. 入居者の生活状況

2020年度は、看取りの開始に伴い早期に療養型施設へ転院する入所者が減少し、比例して全体的な退所者数も減少すると思われたが、退所者は年間 15 名と 2018 年度に比べて大きな変化は見られなかった。

ただし、入院者数（実人数）が半数程度に低下した結果は見られており、背景には嘱託医が訪問医に変わり、早期往診・看取り対応が可能となった事で、延命治療等による入院者数の減少が考えられる。

看取り実施に伴い、新規入所者の確保等は2018年度に比べると計画的かつ確実にできていたが、突発的な退所が重なる等の影響もあり、2019年度内に満床に繋げる事は出来なかった。

2020年度は看取り対象者のみならず、突発的な退所者も念頭に、早めの打診により新規入所者の確保に尽力していく。

a. 入退所状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所	3	0	1	1	2	0	0	2	2	1	3	2	17
退所	1	1	0	0	1	3	1	3	1	2	1	1	15

※退所理由：看 取 り / 8 名
療養型医療施設転院 / 1 名
入 院 死 亡 / 4 名
ご 家 族 希 望 / 1 名
ケアハウス 入 所 / 1 名

b. 看取り

単位：人

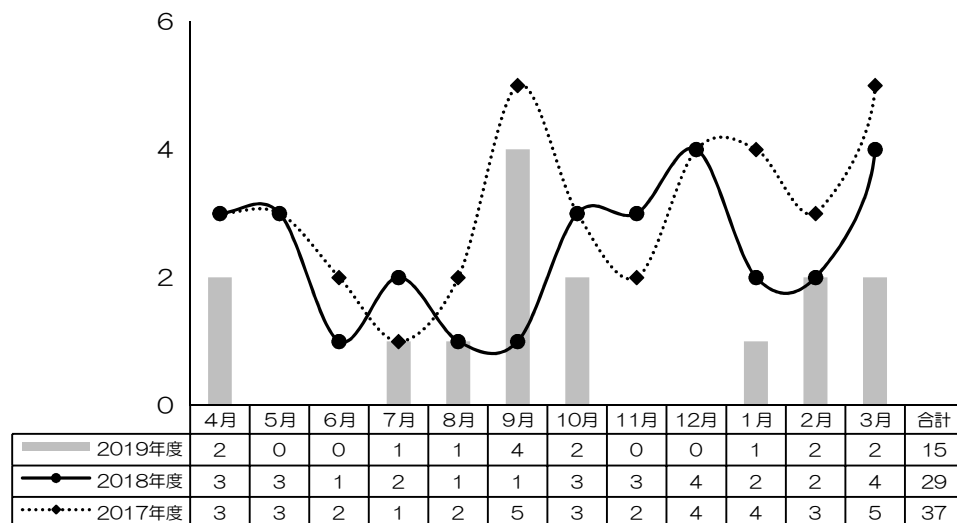
件数	年齢	性別	介護	在園日数	呼吸停止発見 (時刻)	死亡診断 (時刻)	ご遺体搬送 (時刻)	曜日 昼夜
1	92	女	5	3269日	2019.05.16 (21:00)	2019.05.16 (22:00)	2019.05.16 (22:55)	木 夜間
2	87	女	5	1497日	2019.08.11 (22:05)	2019.08.11 (22:57)	2019.08.11 (23:55)	日 夜間
3	108	女	3	4883日	2019.09.13 (12:30)	2019.09.13 (13:10)	2019.09.13 (14:40)	金 日中
4	82	男	4	312日	2019.09.22 (08:30)	2019.09.22 (09:35)	2019.09.22 (10:25)	日 日中
5	91	女	4	5063日	2019.11.03 (16:43)	2019.11.03 (17:45)	2019.11.03 (20:20)	日 夜間
6	98	女	3	2997日	2019.11.28 (15:05)	2019.11.28 (15:54)	2019.11.28 (19:10)	木 日中
7	91	女	5	1373日	2020.01.29 (15:15)	2020.01.29 (16:40)	2020.01.29 (18:20)	火 日中
8	102	女	3	375日	2020.03.17 (02:10)	2020.03.17 (03:10)	2020.03.17 (04:15)	火 夜間

嘱託医の交代により2019年4月1日より看取り対応が可能となった。
しかし、看取り計画書の作成をはじめとした諸条件を満たすまでには至らず、2019年度は加算取得には繋がらなかった。

嘱託医をはじめとした関係者（ご家族・葬儀社など）の協力も手厚く、呼吸停止発見からご遺体の搬送までは、曜日や昼夜の時間帯を問わず円滑に行なわれている。

c. 入院状況

単位：人



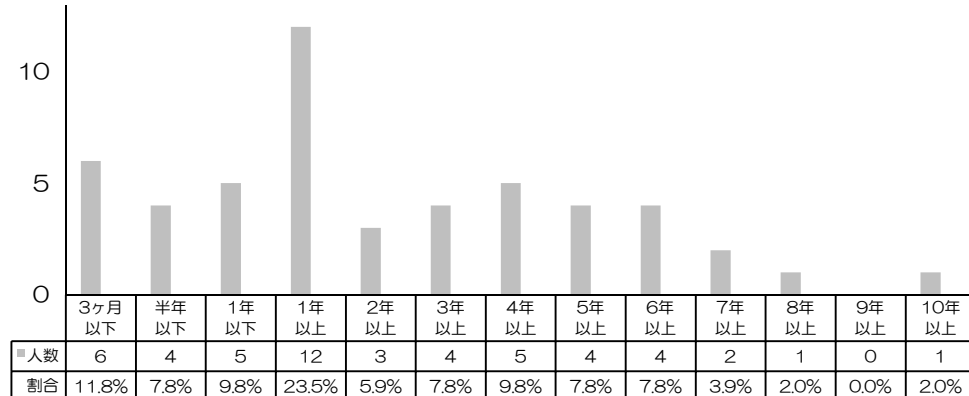
※2019年度延べ入院日数 463日

2018年度と比べて入院実人数は半数程に減少している。それに伴い、延べ入院日数も130日程度の減少になっているが、長期入院者の増加が要因で大幅な減少には至っていない。

看取りが開始となった関係もあり、療養型医療施設転院者は1名となっており、入院中であつてもご家族様の入延命を希望されない（施設での看取りを希望する）という意向により退院に至ったケースもあった。

d. 入居期間

単位：人

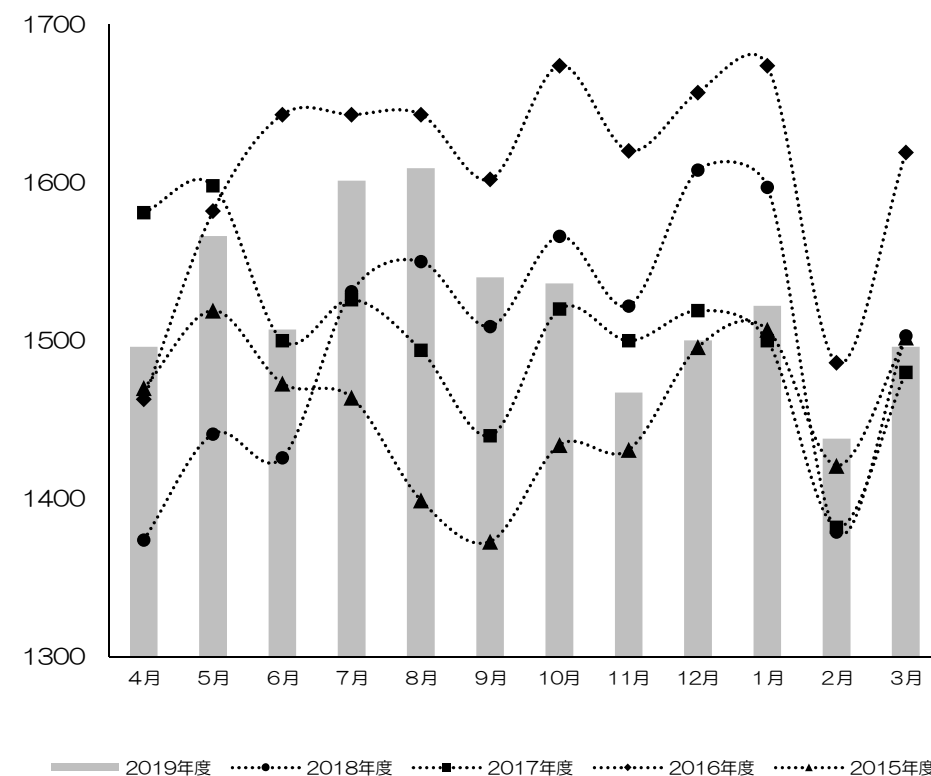


e. 在籍状況（入院・外泊を含む）

単位：人

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
2019年度	1496	1566	1507	1601	1609	1540	1536
2018年度	1374	1441	1426	1531	1550	1509	1566
2017年度	1581	1598	1500	1526	1494	1440	1520
年度	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比%
2019年度	1467	1500	1522	1438	1496	18278	101.5%
2018年度	1522	1608	1597	1379	1503	18006	99.8%
2017年度	1500	1519	1500	1382	1480	18040	93.4%

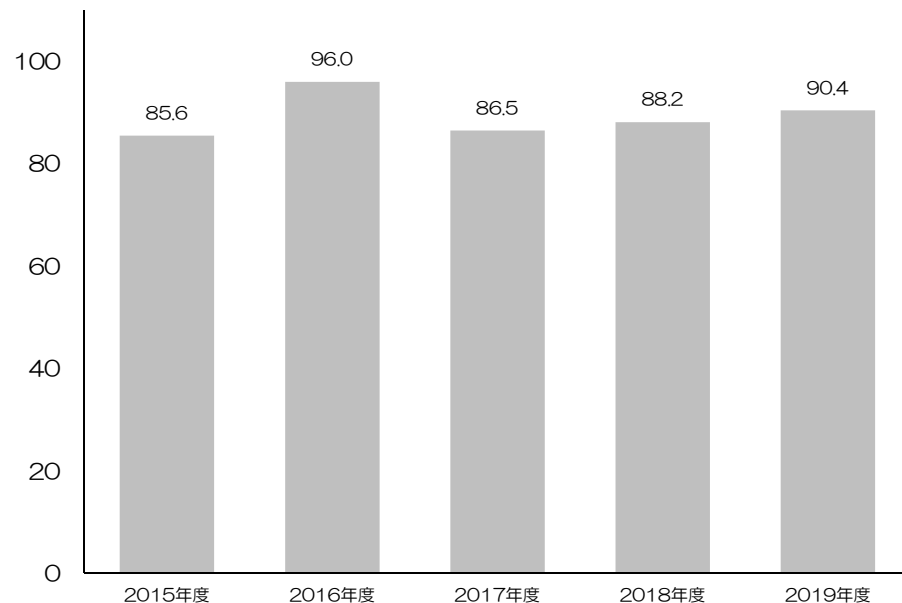
単位：人



f. 稼働率比較（入院・外泊を除く）

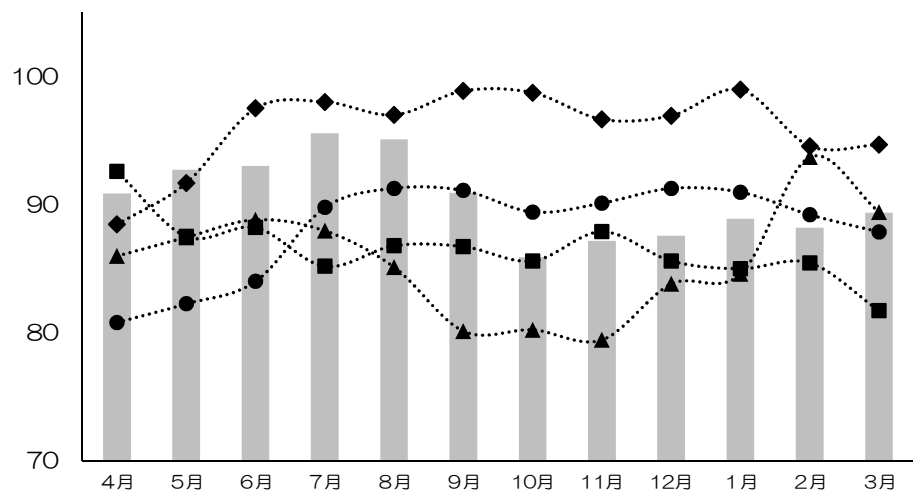
（年間平均稼働率）

単位：％



（月間稼働率）

単位：％



—— 2019年度 ●●●● 2018年度 ■■■■ 2017年度 ◆◆◆◆ 2016年度 ▲▲▲▲ 2015年度

g. 認知症の状況

単位：人

HDS-R 得点	正常範囲		準認知症		認知症			合計
	30～ 26点	25～ 21点	20～ 16点	15～ 11点	10～ 6点	5～ 0点	不能・ 未検査	
6月								
8月								
12月								

※2019年度は未実施

h. 日常生活動作状況

単位：人

看取り介護実施の関係もあり、介助量の多い方は増加している。

比較的介助量の少ない方であっても超高齢に当たる方も多く見られている為、今後介助量の増加・平均介護度の上昇が見込まれる。

項目	状態及び人数					
視力	普通/不明	47	弱視	4	全盲	0
聴力	普通	41	やや難聴	10	難聴	0
言語	普通	43	やや不自由	4	不自由	4
意思疎通	普通	34	多少困難	9	困難	8
食事	自立	34	一部介助	4	全介助	13
入浴	自立	5	一部介助	27	全介助	19
着脱衣	自立	5	一部介助	27	全介助	19
排泄	自立	7	一部介助	29	全介助	15
オムツ等	なし	7	パット等	37	オムツ	34
移動	自立	0	杖・歩行器	6	車椅子	45

※パット・オムツ併用者・夜間オムツ対応者あり

i. 外出・外泊の状況

単位：人

コロナウィルスの流行により2020年2月より面会制限を開始した事が影響し、面会及び外出・外泊に関しては昨年度より少ない印象がある。

来訪回数	0～ 10回	11～ 20回	21～ 30回	31～ 40回	41～ 50回	51～ 60回	61回 以上
	24	8	8	6	5	3	11

外泊	年末年始	0	その他	1	合計	1
外出	年末年始	5	その他	18	合計	23

※外出は家族・関係者によるもの。施設行事による外出は含まず。

j. 月例行事催行状況

種 別	実 施 頻 度	行 事 内 容
誕生会	月 1 回（第 4 日曜日）	当月の誕生者（SS含む）を祝福。
家族食事会	月 1 回（第 4 日曜日）	誕生者家族を招いて昼食を個別に楽しむ
レクリエーション	毎日	風船バレー・体操・談話・カラオケ・合唱 囲碁・将棋・オセロ・ボール遊び など
理髪室	月 1 回（第 2 月曜）	利用希望者（散髪・髭剃り（女性のみ））
喫茶室	月 1 回（第 1 日曜日）	普段とは変わった飲み物や甘味類を楽しむ
合唱会	月 2 回（第 1・3 日曜日）	昔懐かしい曲等伴奏に合わせての合同合唱

k. クラブ活動（月例）

種 別	実 施 頻 度	実 施 場 所
生け花	月 2 回（第 1・3 水曜日）	3 階リハビリコーナー・ボラ講師指導
書 道	不定期開催	3 階リハビリコーナー
音楽クラブ	月 3 回（第 1・3 水曜日）	1 階いろいろな部屋・ボラ講師指導

l. 会 議（定例/含：職員向け）

種 別	開 催 頻 度	検 討 内 容
特養課会議	月 2 回 （第 2・4 金曜日）	介護・看護・栄養・DT・SS 各部署間の 連絡調整及び認識統一
リーダー会議	月 1 回 （第 2 金曜日）	各フロアの状況報告・部署内連絡事項・ 予定/改善事項を検討
給食会議	月 1 回（第 4 水曜日）	食ごとにまつわる事項の検討
事故対策委員会	月 1 回（第 2 金曜日）	発生した事故の分析や事故防止の検討
拘束検討委員会	月 1 回（第 2 金曜日）	拘束状況代替策や改善の検討
ケース会議	年 1 回/一人 基本 状況変化時は随時	入居者の現況分析・ケア目標や計画検討
感染症対策委員会	1 回/3ヶ月 （第 2 金曜日）	流行性感染症/一般感染症についての対 策・予防等の検討
褥瘡対策委員会	1 回/3ヶ月 （第 2 金曜日）	褥瘡への対策・予防の検討
食中毒対策委員会	1 回/3ヶ月 （第 2 金曜日）	食中毒への対策・予防の検討
施設部会	月 1 回（毎週火曜）	特養/ケアハウスの施設における状況や 結果及び今後の対応策の検討

m. 苦 情

2019 年度は 1 件。

入居者の身体に原因不明の内出血の発生あり、施設内で原因の究明行なうも明確な原因は不明。様々な要因が考えられたが、家族への不信感へ繋がってしまう結果となった。

家族から相模原市高齢政策課への相談もあり、同課へは報告書を提出し聴き取り調査にも協力した。

家族希望により、当該入居者は外泊を経て退所の結果となった。

n. 年間行事/その他予定（入所者の生活に直接関わるもの）

開催日	行 事	内 容
4/ 1	花見外出	入居者と一緒に周辺の桜を見に行く。
5/ 7	春季健康診断	入居者の定期健康診断
6/ 9	風船バレー大会	東橋本ひまわりホーム、中の郷との交流試合
8/ 9	スイカ割り	入居者と一緒に、スイカ割りを楽しむ
9/ 8	神輿見学	近隣の御神輿来訪
9/21	カシオペア祭	法人全体のお祭りの開催
10/ 7~8	おやつレク	入居者と一緒におやつ作り
10/16	大野小施設見学	近隣の小学生との交流
10/27	施設対抗運動会	東橋本ひまわりホーム・中の郷との交流試合
11/16	鵜野森中学共学体験	近隣の中学生との交流
12/18	おやつレク	入居者と一緒におやつ作り
12/19	おやつレク	入居者と一緒におやつ作り
1/ 1~3	初詣	モモ館内（1F デイ活動室）に神社を作り初詣
1/19	餅つき大会	入居者と一緒に餅つきを楽しむ

※季節/祝日等に伴う「祝膳」は特養課行事としての記載を省略：栄養課報告にて代替え

※12/3 に協力医療機関によるインフルエンザ予防接種順次実施

4. 医務室

a. 疾患状況

単位：人（延べ）

疾患名	人数	疾患名	人数
心疾患	15（13）	歯科疾患	41（19）
消化器疾患	3（6）	ガン疾患	2（4）
脳神経疾患	2（3）	糖尿病	5（8）
精神科疾患	16（15）	高血圧症	15（27）
整形外科疾患	11（18）	慢性間接リウマチ	0（0）
腎機能疾患	2（3）	ホルモン疾患	0（0）
肝機能疾患	2（1）	老人性認知症	38（44）
脳血管障害	10（23）	泌尿器科疾患	1（3）
呼吸器疾患	3（5）	皮膚科疾患	14（13）

※（ ）内は前年度数値

b. 看護処置

単位：人（延べ）

処置内容	人数
創処置	10（12）
軟膏塗布	47（43）
点眼	20（15）
坐薬挿入	1（0）
湿布	1（5）
フランドルテープ	0（4）
吸入	0（0）
フットバス	0（0）

※（ ）内は前年度数値

c. 服薬管理

単位：人（延べ）

時間帯	人数
朝食時	48（47）
昼食時	30（30）
夜食時	45（51）
就寝前	14（17）
便秘時	40（46）

※（ ）内は前年度数値

d. 認知症行動障害

単位：人（延べ）

状態	人数	状態	人数
自傷行為	0（2）	人物誤認	0（0）
夜間せん妄	0（6）	作話	2（1）
興奮・奇声	5（3）	摂食異常	1（0）
徘徊	1（1）	盗癖・収集癖	3（3）
攻撃的行為	2（3）	被害妄想	2（4）
不潔行為	6（5）	躁鬱状態	0（0）

※（ ）内は前年度数値

e. インフルエンザ 予防接種

単位：人

入居者数	接種数
49	47

※未実施2名に関しては、入院後に退所となった為実施せず。

f. 医療管理者

単位：人（退居者含）

処置内容	人数
胃瘻（造設者含む）	0（0）
留置カテーテル	1（3）
膀胱瘻	0（0）
喀痰吸引	5（8）
褥瘡	7（0）

※（ ）内は前年度数値

g. 定期診察

提携医	精神科医	鶴野森歯科	相明会歯科
木曜日/月2回	月2回	利用なし	毎週水土

S_{hort-term} Stay

ショートステイモモ

2019年度の年間稼働率は52.3%で、2018年度比108%と、極僅かではあるが増加している。

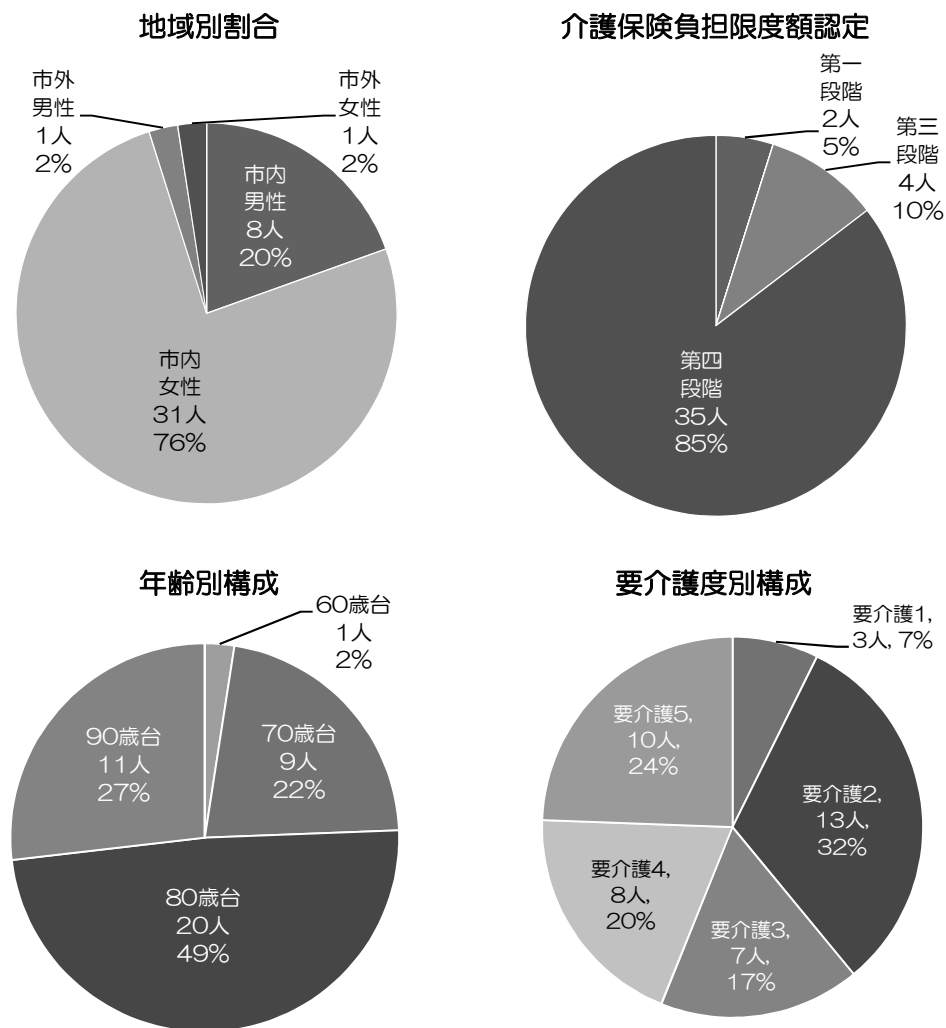
2018年度は6名であったが特養本入居移行者が、2019年度は18人（うち長期利用者7名）と増加し、他には家族希望での療養型施設への入居、家族から相談を受けて将来の特養入居を見据えての精神科入院紹介を行ったケースが各1件あった。

また過去に困難ケースを受け入れた居宅支援事業所からの紹介で相談の連絡をくださったケースもあったが、新規の問い合わせの多くが当事業所での受け入れ困難で、精神科入院が必要なレベルの介護者への暴力行為を有する方、認知症状により他利用者への攻撃がある方、幻視のある方、医療支援が当事業所での提供可能範囲を超えてしまう方など、契約に結び付かないケースが多くみられていた。

2017年より、男性利用者の減少に伴い男性用多床室を2人部屋1部屋のみに切り替え、希望の多い女性利用者の受け入れ拡充に取り掛かったが、やはり男性利用者の問い合わせは少なく、困難ケースが多いことから、今後も2人部屋1部屋にて対応を継続し、新たな男性契約者は2部屋と個室の利用で対応できる範囲で受け入れを行っていく。

今後も継続して職員の接遇・介護力・認知症対応力の向上を図り、利用者が安心・定期利用をして頂けるように、家族・関係機関に信頼を得ることを最重要課題として取り組む。

1. 利用者プロフィール（年度内実績者 41 名の内訳）※2020.03.31 現在



平均年齢：85.3 歳【最高齢：98 歳（男性） / 最年少：64 歳（男性）】

施設部関連 / ケア入居者（1 人）・特養本入居移行（18 人）

在宅部関連 / デイ併用（15 人）・居宅モモ/ナナ担当（延：6 人）

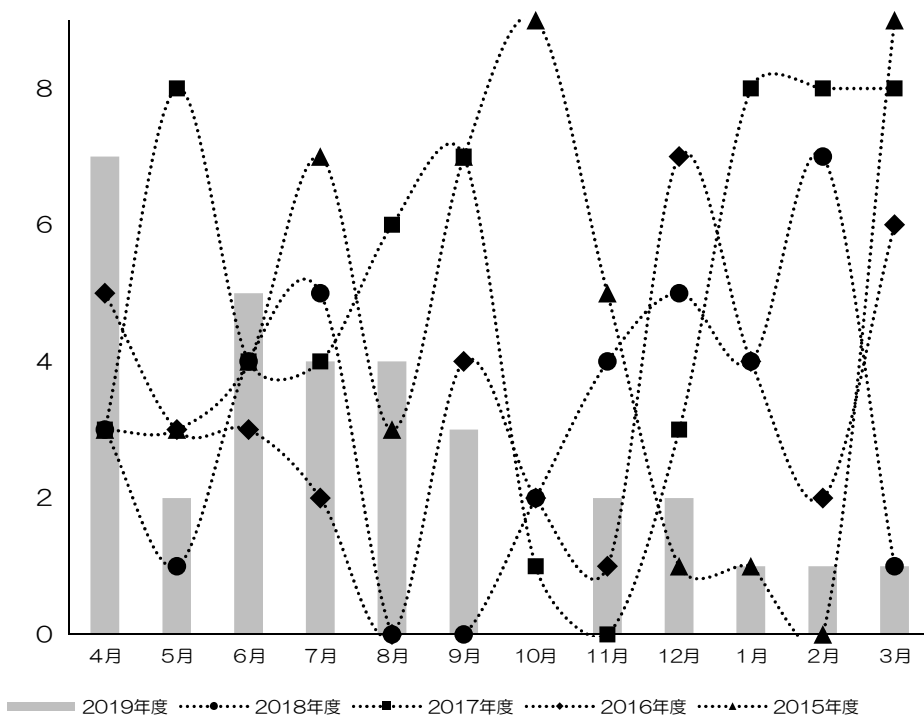
2. 年間の利用状況

a. 契約数

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	2	0	1	1	0	0	0	2	2	1	1	1	17
女	5	2	4	3	4	3	0	2	2	1	1	1	19
合計	7	2	5	4	4	3	0	4	4	2	2	2	36
前年	3	1	4	5	0	0	2	4	5	4	7	1	36

単位：件

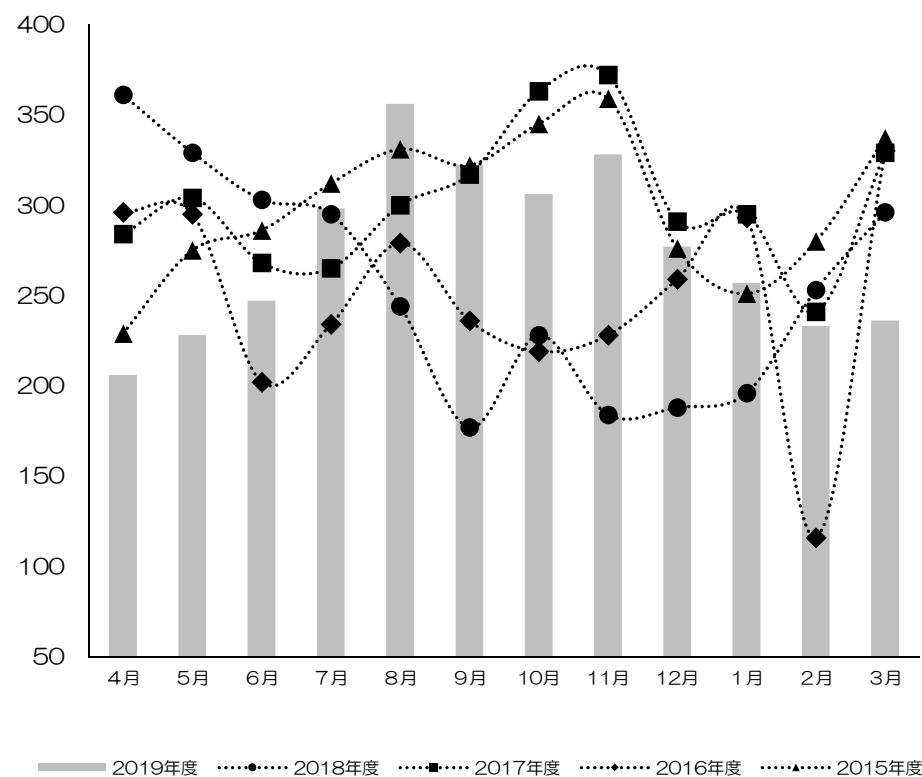


b. 稼働状況

単位：人

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
2019年度	206	228	247	298	356	322	306
2018年度	361	329	303	295	244	177	228
2017年度	284	304	268	265	300	317	363
年度	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比%
2019年度	328	277	257	233	236	3294	108%
2018年度	184	188	196	253	296	3054	84%
2017年度	372	291	295	241	329	3629	121%

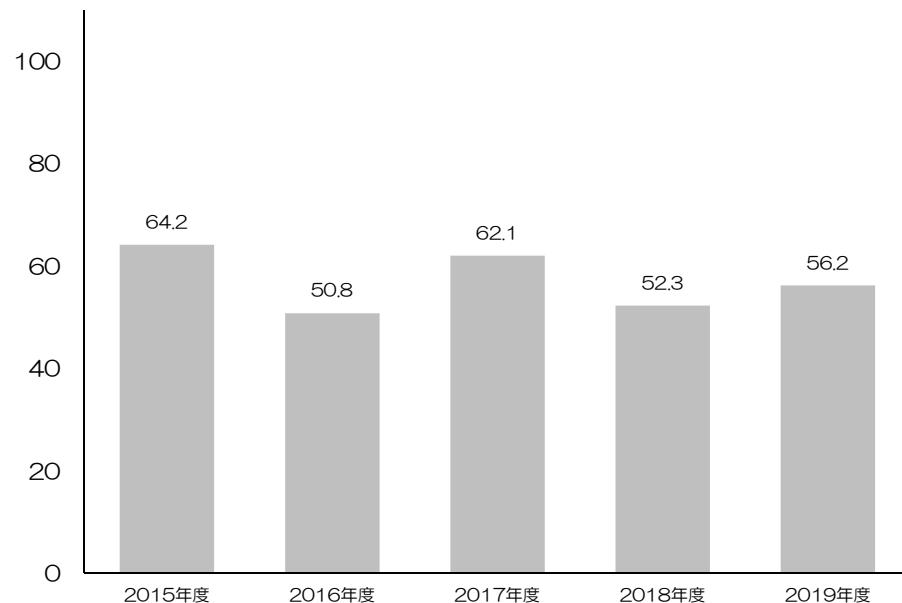
単位：人



c. 稼働率比較

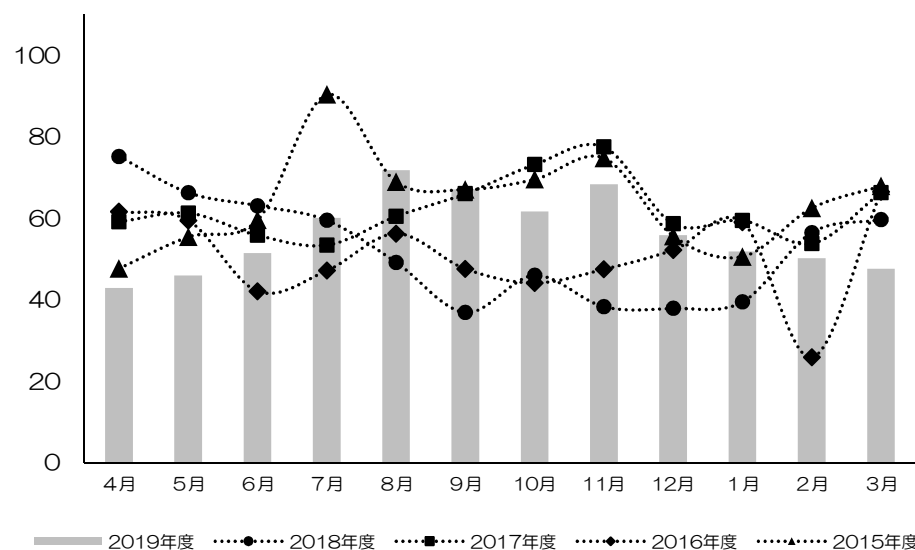
(年間平均稼働率)

単位：％



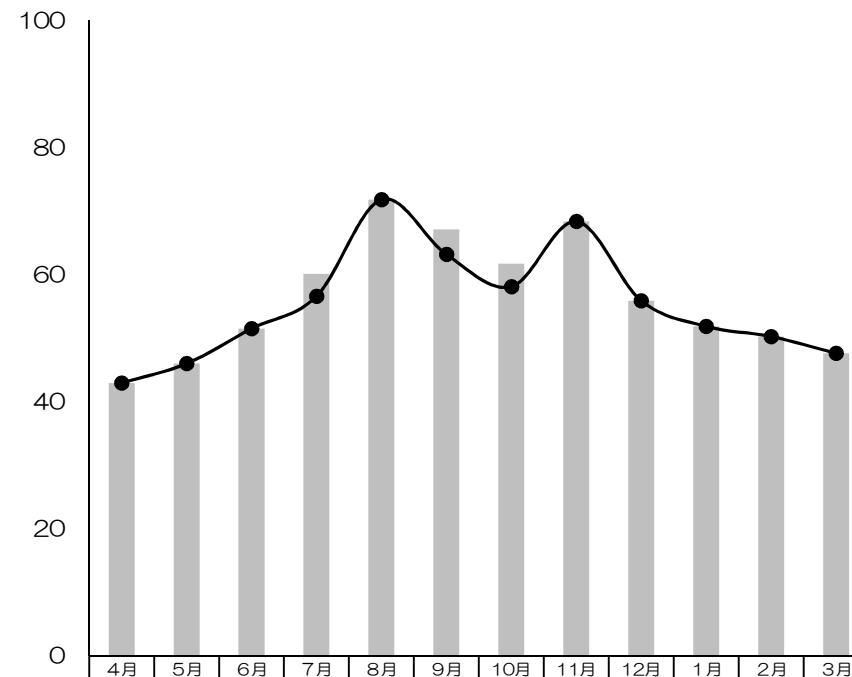
(月間稼働率)

単位：％



(定員比 / 満床比の比較)

単位：％

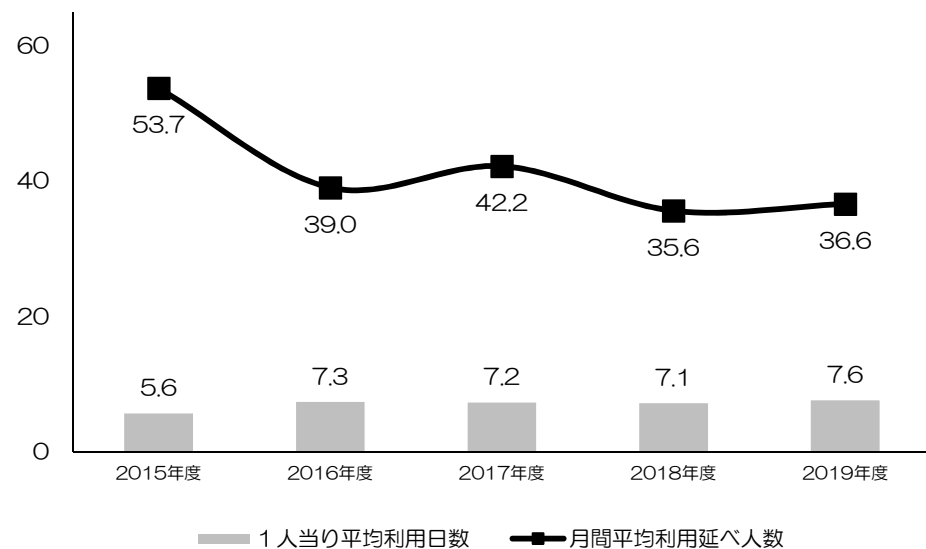


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定員比 %	42.9	46.0	51.5	60.1	71.8	67.1	61.7	68.3	55.8	51.8	50.2	47.6
満床比 %	42.9	46.0	51.5	56.5	71.8	63.1	58.1	68.3	55.8	51.8	50.2	47.6
利用可床数	480	496	480	496	496	480	496	480	496	496	464	496
定員床数	480	496	480	496	496	480	496	480	496	496	464	496

※特養入居者用の空床ベッド及び入院ベッドの活用を要する程の稼働率に至らなかった。

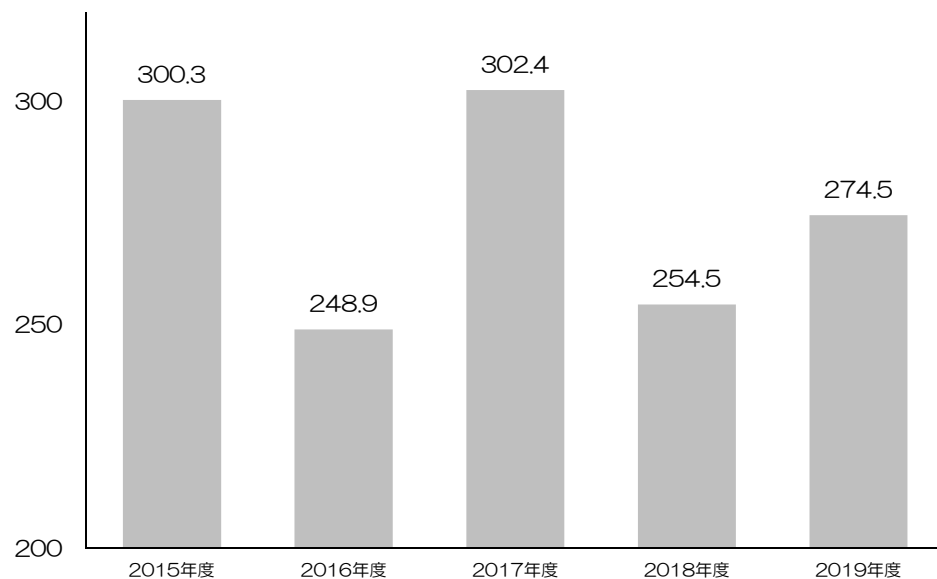
3. 利用者の傾向

a. 一人当たりの平均利用日数&月間平均延べ利用人数



b. 月間平均延利用日数

単位：日

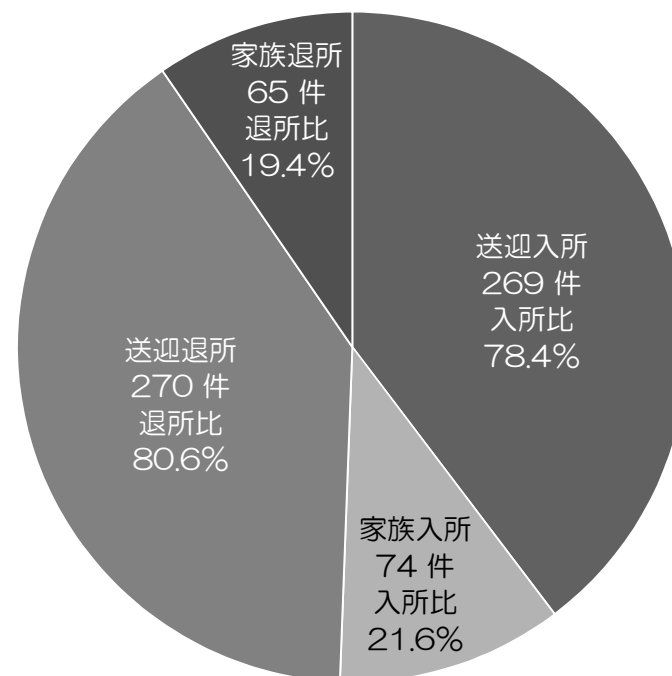


c. 月毎の入・退所件数及び送迎状況

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入所	25	26	31	35	42	35	32
退所	24	29	27	33	40	34	32
合計	46	49	50	48	49	41	47
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	内：家族
入所	27	26	22	22	20	343	74
退所	25	27	23	20	21	335	65
合計	42	52	54	53	54	585	133

(入・退居件数の内訳)



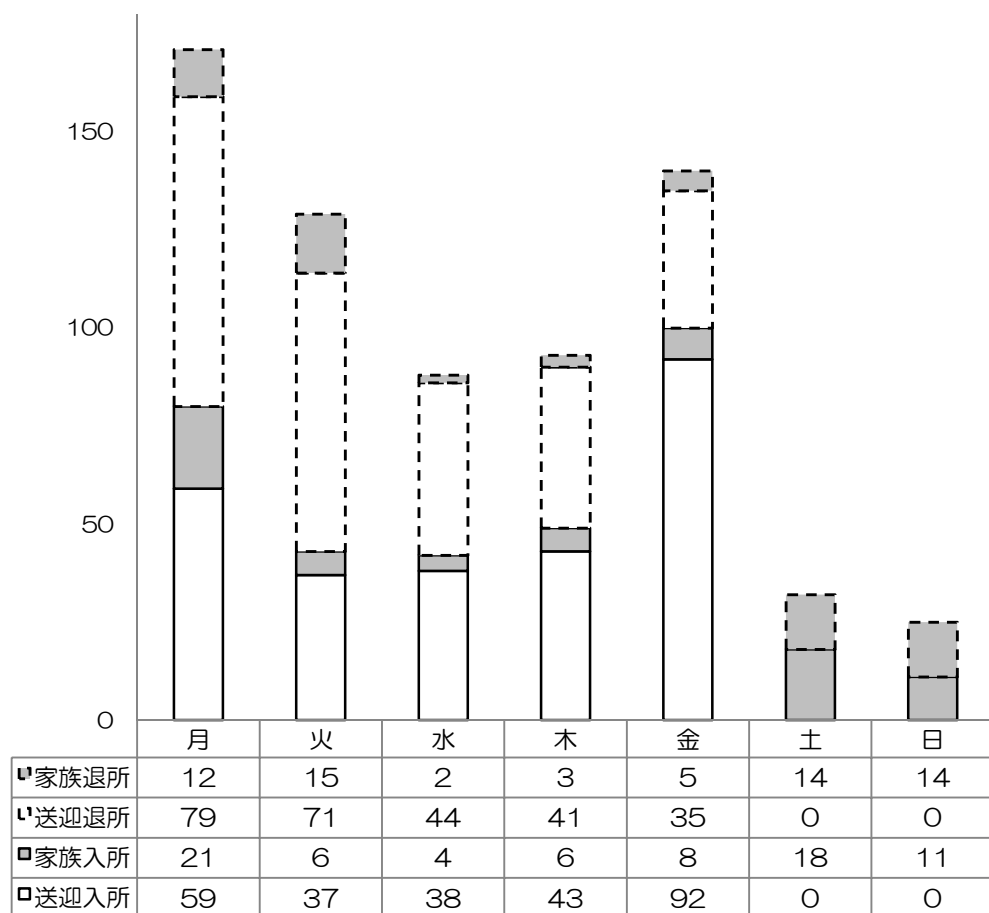
d. 曜日毎の入・退居件数及び送迎状況

単位：件

	月	火	水	木	金	土	日
入居	80	43	42	49	100	18	11
退居	91	86	46	44	40	14	14
合計	171	129	88	93	140	32	25

(入・退居件数の内訳)

単位：件



e. 曜日毎の利用状況

単位：人

月/曜	月	火	水	木	金	土	日
4月	43	35	23	19	28	29	29
5月	33	30	34	30	40	31	30
6月	35	34	33	29	37	40	39
7月	55	48	44	33	41	38	39
8月	50	48	46	55	59	54	44
9月	63	44	37	38	43	43	54
10月	45	52	46	45	39	40	39
11月	50	45	35	38	57	57	46
12月	48	43	33	38	37	33	45
1月	36	32	38	44	42	34	31
2月	33	33	33	33	34	38	29
3月	41	38	30	33	31	28	35
合計(人)	532	482	432	435	488	465	460
%	16.2	14.6	13.1	13.2	14.8	14.1	14.0
平均(人)	44.3	40.2	36.0	36.3	40.7	38.8	38.3

※ 割合(%) = 年度延べ利用人数「3294人」に対する比率

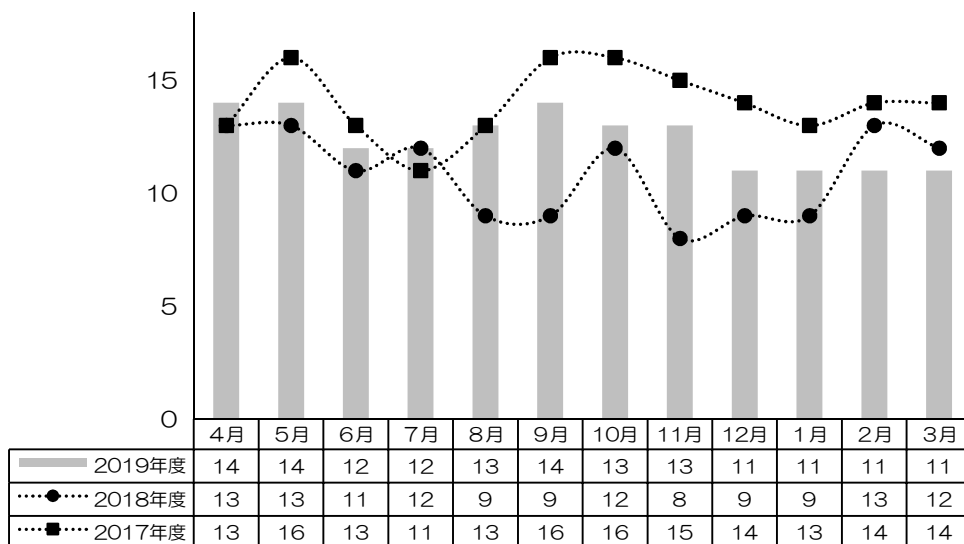
2018年度と同様、週末を含む期間・祝日に利用が集中する傾向があり、必然的に、金曜日に入所され月曜日(祝日の場合は火曜日)に退所される利用者が多くなっている。

平日利用の傾向は分散されてきており、特に大きな偏りは見られていない。

4 他事業所との関わり

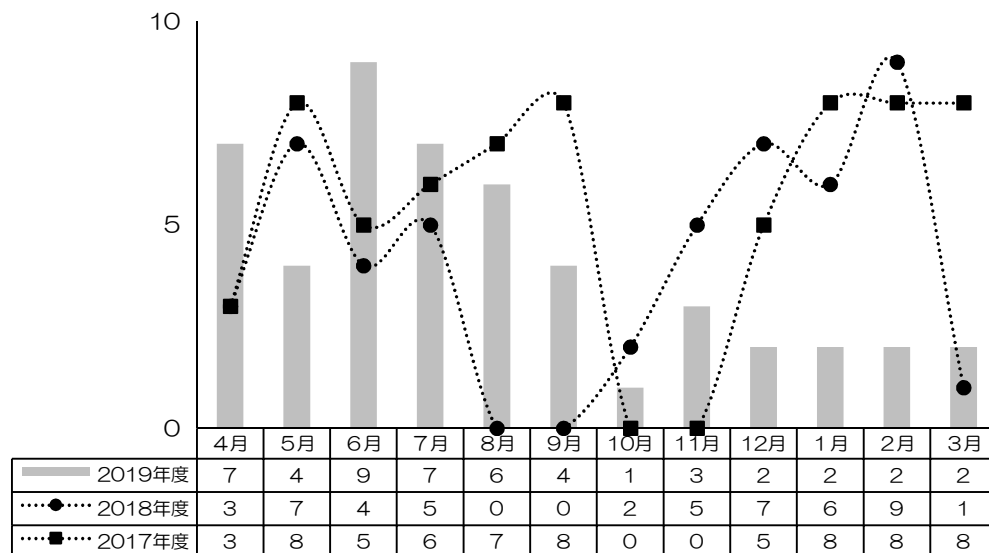
a. 利用事業所件数（居宅モモ・ナナ除く）

単位：件



b. サービス担当者会議出席件数（居宅モモ・ナナ含む）

単位：件



5 苦 情

2019年度・・・1件

※介護職員の失礼な言動に対し、担当ケアマネジャー・市高齢政策課より問い合わせがあった為、該当職員に事実確認を実施。

事実確認の結果は家族にも報告し、また、該当職員より利用者及び家族に直接謝罪したいとの申し出があった為、施設長・特養課長・相談員と共に4名でご自宅に伺い直接謝罪をし、お許しを頂く。

その他の職員には苦情内容を周知し、注意喚起を行なっている。

6 事 故

2019年度は賠償事故に繋がったケースはない。

受傷事故については、介護士会議やリーダー会議、事故対策委員会等を通して再発防止策の検討/周知徹底を図った。

また、2018年度と同様、新規利用者については情報を的確に把握し、適切なサービス提供が著しく困難と思われる利用者については、関係者との間で状況確認を行ない、適切な対象施設への転院に向け調整していく。

その際、ご家族様の希望があった場合には、入所面談にも立ち会い、円滑に移動が出来るよう対応を行なう。

7 情報整理

過去1年以上利用がない方々の契約書及びその他資料を区分け保管。

※再利用時には介護保険制度改定等により「再契約」「再面接」とした。

施設ケアマネジメント(ピノ)

●会議開催日数

新規入居者には入居日付の暫定プランを作成し、入居2ヶ月目に本プラン作成のためのケース会議を開催。以降、要介護認定の更新時期に合わせて、基本1年間の長期目標・半年間の短期目標を設定し、年2回ケース会議を開催している。通常の面会時では確認出来ない内容やご家族の希望をお聞き出来る為、今後も半年毎の年2回を基本として会議を開催していく。

その他、退院後や心身状態の急激な低下時・区分変更に伴う要介護度変更時・その他必要時には随時開催をしていく。

2020年2月17日より、新型コロナウイルス感染予防の為、面会制限を行なう事となった。2月・3月のケース会議は開催したが、ご本人との面会はお断りせざるを得ない状況であった。

●ケース会議の役割

入居者の日常生活の様子、現状の問題・課題は何か、それを解決する為のサービスはどういったものかを、現プランの評価とケアチェック表・日常生活基本対応表を活用しながらご家族に報告している。

ケース会議は、家族と施設がケアプランについて話し合い、互いの理解を深め、同じ方向性で入居者の支援にあたる為の役割を持つ。今後も立案されたケアプランに沿い、家族を含めた全関係職がサービス支援の質を向上させながら、暮らしの継続を支援していく。

会議開催日数

単位：日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延べ
2019年度	4	3	4	2	3	3	5	2	3	2	2	2	35
2018年度	6	3	3	2	3	2	5	3	3	2	2	2	36
2017年度	3	3	4	4	5	2	3	2	4	3	3	2	38

計画作成回数

単位：人

	暫定	初回	2回目	3回目	4回以上	延べ
2019年度	5	5	4	5	40	59
2018年度	0	6	8	3	38	55
2017年度	3	1	4	7	47	62

対象者数

単位：人

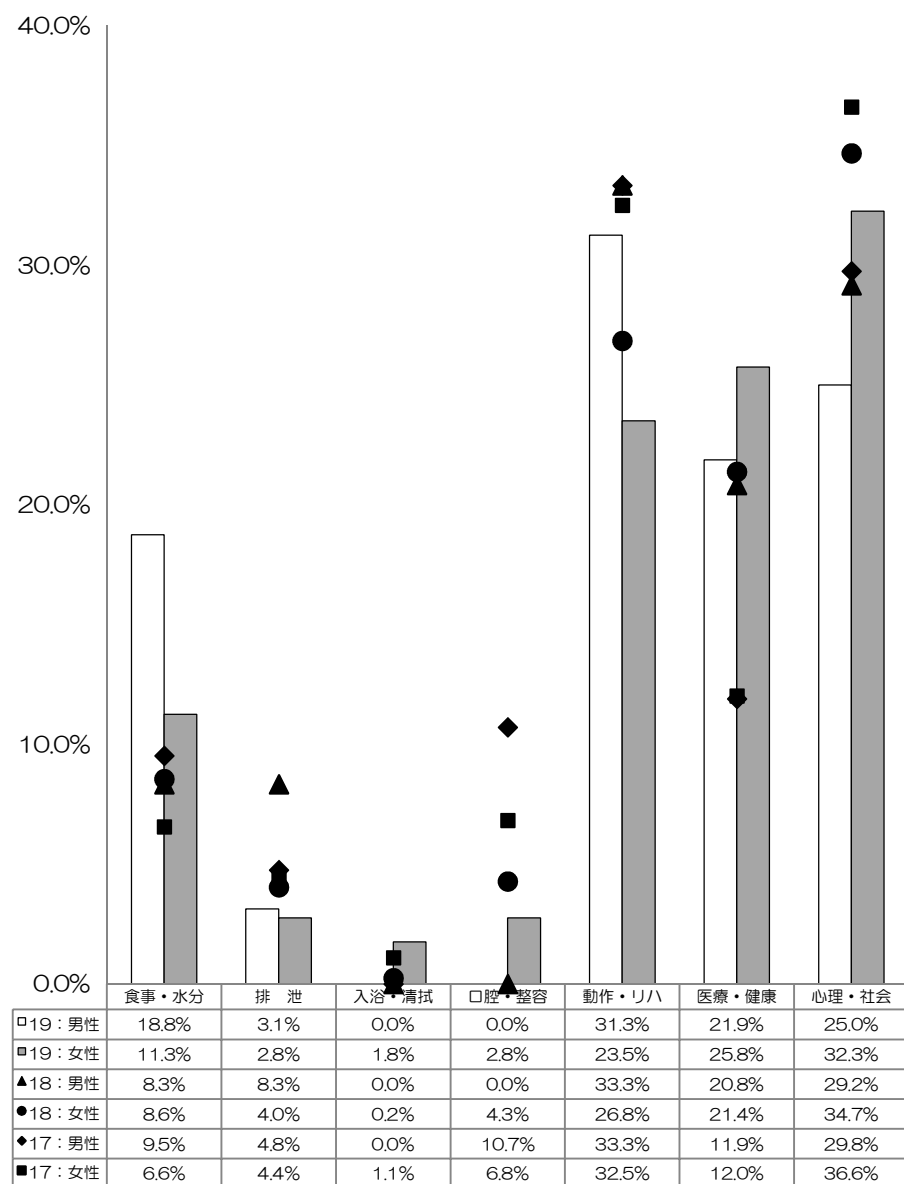
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延べ	平均
2019年度	10	4	5	2	5	3	10	4	6	2	5	3	59	4.9
2018年度	8	4	5	3	5	3	9	4	3	3	5	3	55	4.6
2017年度	7	3	7	4	7	5	7	4	6	4	5	4	63	5.3

家族（含：後見人等）出席率

単位：%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	100	100	100	100	100	100	78	100	100	100	100	100	96
2018年度	88	100	100	100	100	100	89	100	100	100	100	100	96
2017年度	100	100	100	100	100	80	100	75	100	100	100	100	97

項目別ケアプラン立案傾向（男女別 / 割合）



●ケアプラン立案傾向

24時間シート、個別アセスメントシートを居室担当介護士が作成し、ユニットにて最終チェックを行ない、ケアマネジャーにてケアプランを作成。当施設における課題分析・計画立案状況から入居者像を見出してみる。

※実数値はひとりあたり複数回答が存在するために省略。

※項目別の立案件数を、各年度の延べ対象者数で割ったものを%表示。

「心理・社会」「医療・健康」「動作・リハ」の項目に課題が多く見られた。認知症が進行した入居者が増え精神面の安定が求められること、健康状態の確認機会の増大、身体機能の低下も一層進んでいることから、この3点に集中したと考えられる。

入居者一人ひとりに向かい合うことで、その方の心の苦しみや、これまでと同じ様に身体を動かせない辛さ、そこに付随するリスク管理を含めると、上位3点の項目が課題解決に向かう入居者のニーズとなり、家族の希望にも繋がっている結果だと思われる。

ただし、その他の優先順位の高いニーズを見逃してしまっていないかに注意をする必要があり、各入居者の生活状況を把握し、他項目の「排泄」「口腔・整容」「食事・水分」「入浴・清拭」の部分での課題を見逃さないアセスメント力をつけていける様にしていきたい。

また、個人のこだわりや生活習慣に添ったケアプランの作成も出来るよう取り組んでいきたい。

今後もより深く入居者の課題を見つける為に、モニタリング・ケアチェックを実施し、ケアプランに反映していくようにする。



コミュニティホームピノ

入居者の加齢に伴う心身状況の低下は顕著であり、入居者の入れ替わりも頻繁になっている。

2018年度まで退所者は療養型医療施設への転院がほとんどであったが、2019年度からは看取りが可能になり、退所者7名中4名はピノで看取り対応をさせて頂いた。3名は長期入院から療養型病院への転院であった。

待機者については、減少傾向に歯止めが効かず、半年の見直し毎に減少している状態である。ショートステイ利用からの入居が大半を占めているが、今すぐに入居がしたいので、利用料金が高くてもやむを得ないとご家族がお考えの方の入居も数件あり、その場合の待機日数は短い。

各ユニット内での行事については、人員体制の不足もあり実施出来ていない。入居者の生活がマンネリ化してしまうのではないかが懸念される。

また、インフルエンザの発症は2019年度もなかったが、新型コロナウイルスが全世界的に拡がり、2020年2月17日からは面会制限を行なう事となり、2019年度中は面会制限の解除は出来なかった。今後も最新の情報を踏まえつつ対応策等を実施し、予防策を的確に実施していく。

2019年度も職員研修や勉強会が思うようには開催が出来ず、介護の質の向上に繋がっていない。個別ケアの質向上のために今後も課題である。

地域密着型施設として、2020年度は新型コロナウイルスの情勢を勘案しながら、地域や家族の方々との交流を図ることを念頭に置き運営をする。

●2018年度課題への達成度（ユニット別）

【EAST2】

○職員の介護への意識、技術レベルの向上

→定期的な勉強会等をユニット内で実施したが、大きな達成度には至っていない。理解度も低い為、スキルアップの為に今後も継続していく。

○入居者個々のケアプラン目標が達成できるよう個別ケア・自立支援を実施する

→ケアプランの提示をユニットにて行ない、達成できるよう意見を出し実施する事ができた。

○定期的なユニット行事の達成

→ユニット職員の入れ替え等があり、上期に関してはほぼ実施が出来なかった。下期より徐々に職員個々が起案を立てる体制が整い実施出来た。

【WEST2】

○入居者一人一人が施設生活において心身共に安心、安全、楽しい生活が提供出来る環境作りを目指し、自宅での生活へ繋げる

→概ね、職員一人一人が業務に責任を持っていたかと思うが「報告・連絡・相談」を忘れている事があり共有できていないことがあったが連絡ノート等を活用し実施できた。

○工作等のレクリエーション活動の充実を図り、入居者に楽しみややりがいを感じて頂けるようなユニット作りを目指す。

→入居者のADLに合ったレク等を日々取り入れ、職員一同個々に提供出来た。

【EAST3】

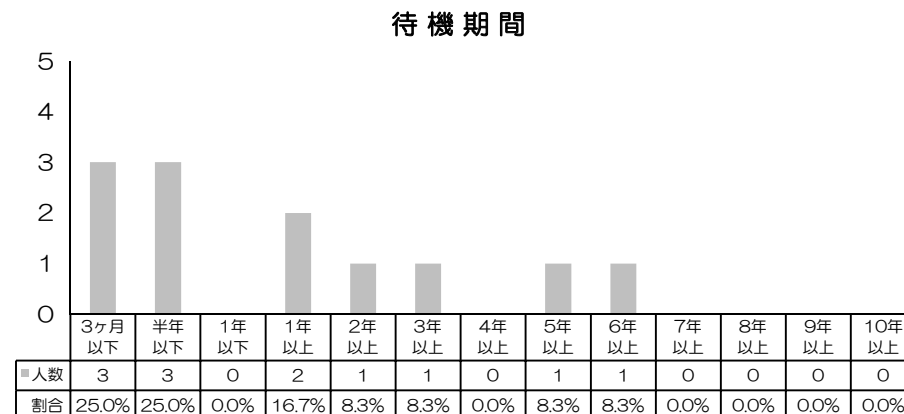
- 職員一人一人が日々の仕事に対し責任を持つ。
 - 概ね出来ていたように感じるが、人員不足もあり人任せになり、通常業務以外の事に、目が行き届かないケースも多く見受けられた。
- ユニットケアの理念を理解し、入居者に合わせた個別ケアを実施する。
 - 年々入居者のADLが低下しているが、日々のケアの中で工夫したり、外部業者への委託を検討する事で、現状を維持出来ている。しかし維持できない方も中にはいる為、ケアの方法を変更し対応を行なっていた。

【WEST3】

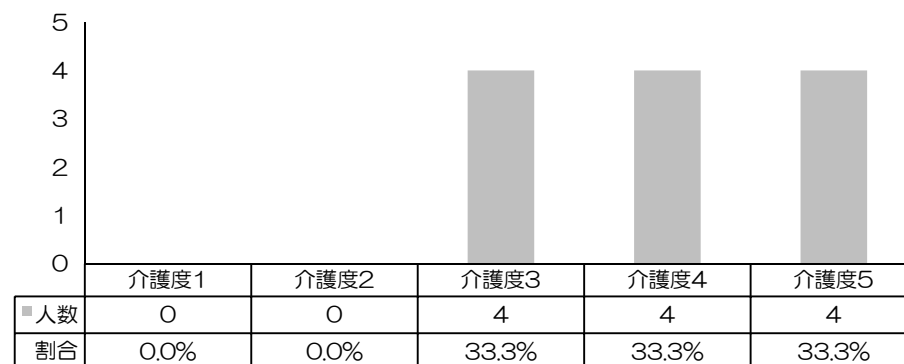
- 個々の入居者が心身の状態変化があっても安心・安全に生活ができる環境を作る
 - 入居者の方の状態変化があった際、医務や管理栄養士など多職種を交えたカンファレンスを開催して対応策(安全)を話し合う事ができた。
- 個々の入居者に合わせたレクを実施していく
 - 人員不足でなかなかレクの実施が出来なかったが、空いている時間には風船バレー等行えた。また参加が出来ない方には爪切り等のケアを通してコミュニケーションをはかる等できたのではないかな。
- 居室担当職員が中心となり、個々の入居者のケアについてユニット職員への情報発信・共有ができる
 - 人員不足により日々の業務に追われてしまっている為、職員への情報発信が出来ていなかったように感じる。その為職員全員が統一したケアを提供する事が出来なかった。

1. 入居待機状況

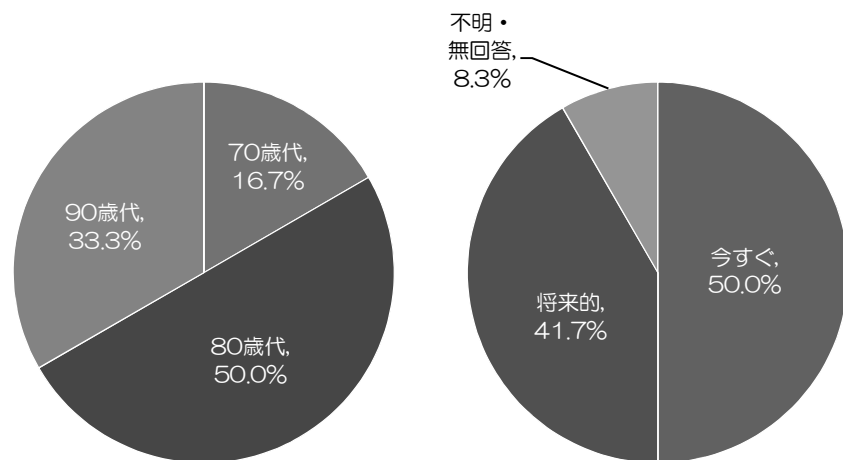
a. 地域別・待機期間別待機者



b. 待機者介護度（除：要支援移行・期限切）



c. 待機者年齢・入居希望時期



入居希望時期 介護度別構成

単位: 人

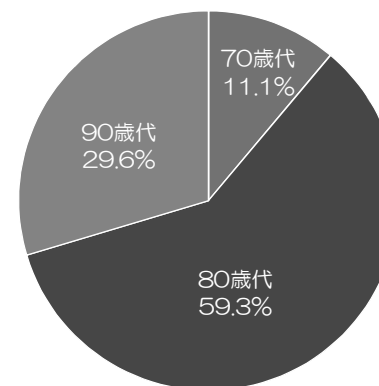
	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
今すぐ入居したい	2	3	1	6
半年先ぐらいには入居したい	0	0	0	0
1年先ぐらいには入居したい	0	0	0	0
将来的に必要な時に入居したい	2	0	3	5
不明・無回答	0	1	0	1
合 計	4	4	4	12

※要介護1・要介護2の待機者は、更新後などに要介護3以上の認定が出た場合に速やかに待機者名簿へ記載予定。

2. 入居者の現況

(2019年度実績者延べ: 27+7名)

a. 年齢構成・地域別構成



●年齢構成

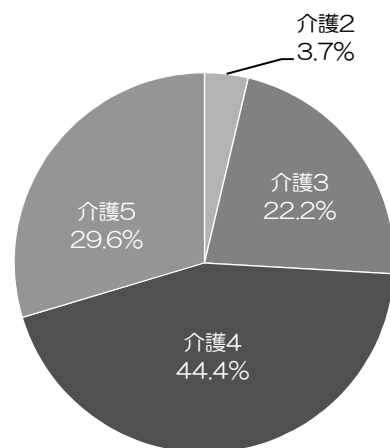
単位: 人 (延べ)

	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計
男性	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (3)	0 (0)	0 (0)	2 (4)
女性	0 (0)	0 (0)	3 (3)	17 (14)	11 (10)	1 (2)	32 (29)
全体	0 (0)	0 (0)	4 (1)	18 (17)	11 (10)	1 (2)	34 (33)

	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男性	83歳 (88歳)	76歳 (75歳)	79歳 (82歳)
女性	102歳 (102歳)	75歳 (77歳)	86歳 (88歳)
全体	102歳 (102歳)	75歳 (75歳)	85歳 (87歳)

※()内は前年度数値

b. 介護度別構成



平均介護度は4.0と、前年と同等だが一昨年以前と比較すると高くなっている。

更新認定で要介護2になられた方が1名おられるが、制度変更前に入居の方なので継続して生活して頂いている。

全体

単位：人（延べ）※（ ）内は前年度数値

介護度	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	平均
男性	0	1	0	1	0	3.00 (3.25)
女性	0	0	7	15	10	4.09 (4.00)
合計	0	1	7	16	10	4.02 (3.90)

E2ユニット

単位：人（延べ）

介護度	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	平均	合計
男性	0	0	0	1	0	4.0	1
女性	0	0	3	6	1	3.8	10
合計	0	0	3	7	1	3.8	11

E3ユニット

単位：人（延べ）

介護度	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	平均	合計
男性	0	1	0	0	0	2.0	1
女性	0	0	3	4	4	4.0	11
合計	0	1	3	4	4	3.9	12

W3ユニット

単位：人（延べ）

介護度	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	平均	合計
男性	0	0	0	0	0	0.0	0
女性	0	0	1	5	5	4.3	11
合計	0	0	1	5	5	4.3	9

c. 身体障害手帳

単位：人（延べ）

	重度		中度		軽度		合計
	1級	2級	3級	4級	5級	6級	
男性	0	1	0	0	0	0	1
女性	1	2	0	0	0	0	3
合計	1	3	0	0	0	0	4

内訳	肢体不自由	心臓機能障害	言語障害	視覚障害	聴覚障害	合計
	2	1	0	1	0	4

d. 健康保険

単位：人（延べ）

後期高齢者医療	国保	健保	生活保護	合計
34	0	被扶養者	医療扶助	
		0	0	34

e. 介護保険負担限度額認定

単位：人（延べ）

第一段階	第二段階	第三段階	第四段階	合計
0	2	13	19	34

3. 入居者の生活状況

2019年度は、新規入居者数は2018年同様の6名であったが、退居者が7名と入居者を上回ってしまった事もあり、満床に繋がらなかった。

2019年度に入居されたが、4ヶ月でご逝去されてしまった方もいた。今後は介護度が低くても長期の入居が見込まれる方の確保をしたいが、条件に合う方の申し込みが少なく難しい面もあり、ショートステイや支援事業所との連携に力を入れ、満床に向けて取り組んでいく。

身体機能の低下が著しく見られる為、近々に退居される方も出てくると思われる。申し込みがあった方に出来るだけ迅速な対応をして、稼働率の向上を図る。

a. 入退居状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居	1	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	6
退居	0	0	0	1	1	2	0	0	1	0	1	1	7

※退所理由：施設看取り /4名
療養型医療施設転院/3名

b. 看取り

単位：人

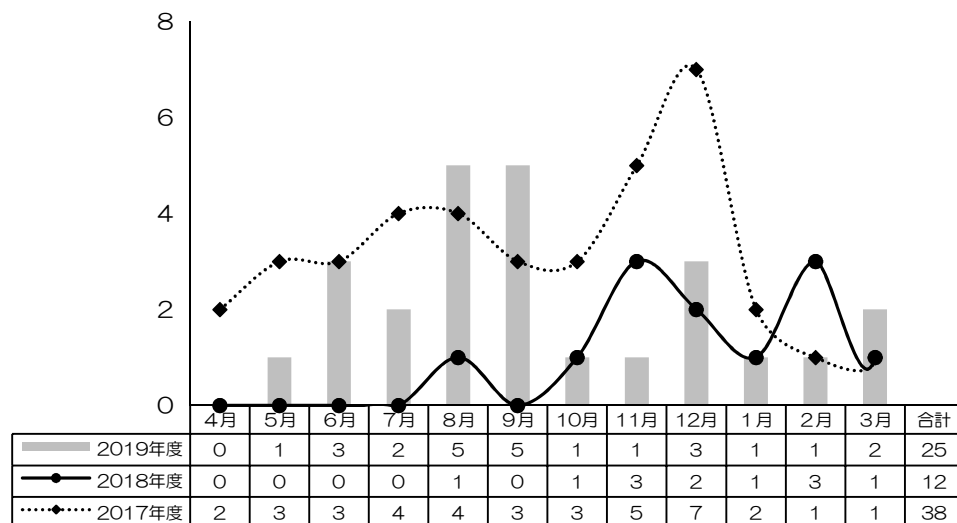
件数	年齢	性別	介護	在園日数	呼吸停止発見 (時刻)	死亡診断 (時刻)	ご遺体搬送 (時刻)	曜日 昼夜
1	103	女	4	2303日	2019.08.01 (14:25)	2019.08.01 (16:15)	2019.08.01 (16:40)	木 日中
2	77	女	3	1306日	2019.12.17 (20:10)	2019.12.17 (21:05)	2019.12.17 (22:05)	火 夜間
3	89	女	5	122日	2020.02.27 (08:30)	2020.02.27 (10:58)	2020.02.27 (12:30)	木 日中
4	95	女	4	1119日	2020.03.14 (03:00)	2020.03.14 (04:18)	2020.03.14 (06:20)	土 夜間

嘱託医の交代により2019年4月1日より看取り対応が可能となった。しかし、看取り計画書の作成をはじめとした諸条件を満たすまでには至らず、2019年度は加算取得には繋がらなかった。

嘱託医をはじめとした関係者（ご家族・葬儀社など）の協力も手厚く、呼吸停止発見からご遺体の搬送までは、曜日や昼夜の時間帯を問わず円滑に行なわれている。

c. 入院状況

単位：人



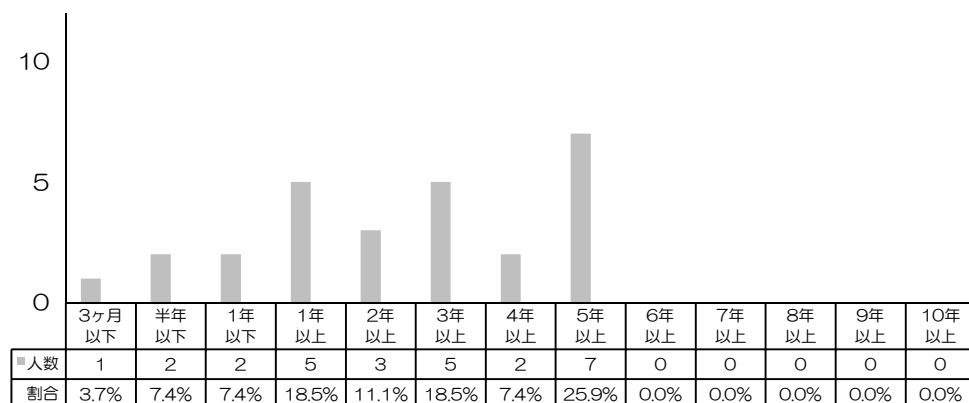
※2019年度延べ入院者日数 471日

2018年度と比べて入院延べ人数数は増加しているが、1名は9月25日より入院され、2019年度中の退院は出来なかった。また、同一者が複数回入院している為。入院日数は長期の方以外は比較的短くなっている。

施設で看取りが出来るようになった為、入院をせずに施設で最期をお迎えになる方も4名おり、年度内入院日数の減少にもつながった。

d. 入居期間

単位：人

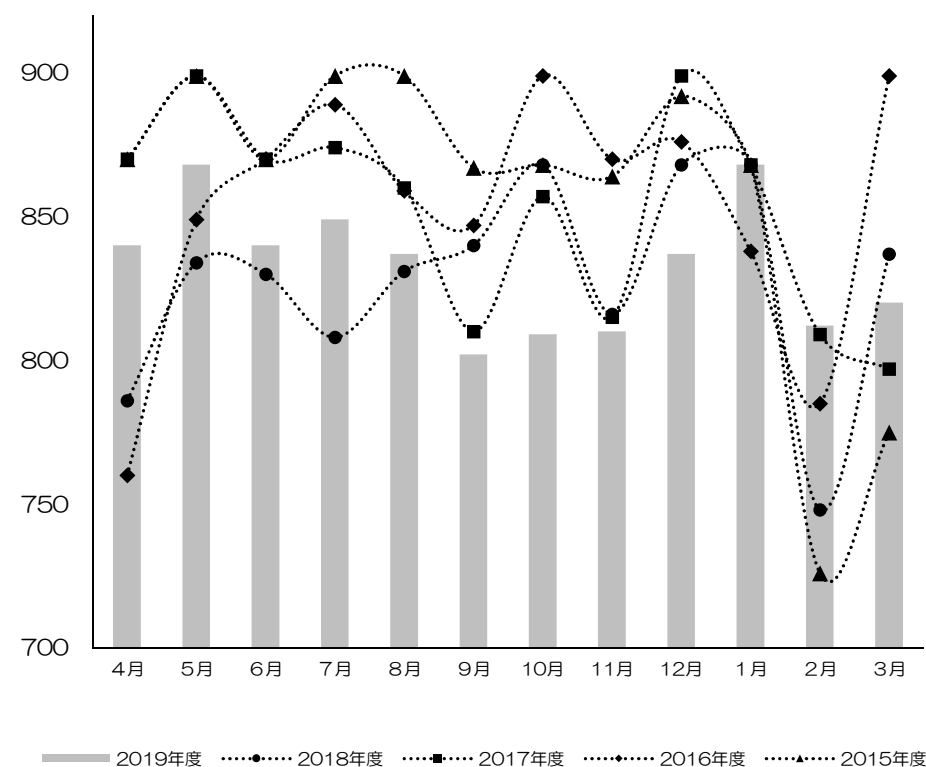


e. 在籍状況（入院・外泊を含む）

単位：人

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
2019年度	840	868	840	849	837	802	809
2018年度	786	834	830	808	831	840	868
2017年度	870	899	870	874	860	810	857
年度	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比%
2019年度	810	837	868	812	820	9992	100.6
2018年度	816	868	868	748	837	9934	97.1
2017年度	810	837	868	809	797	10228	99.9

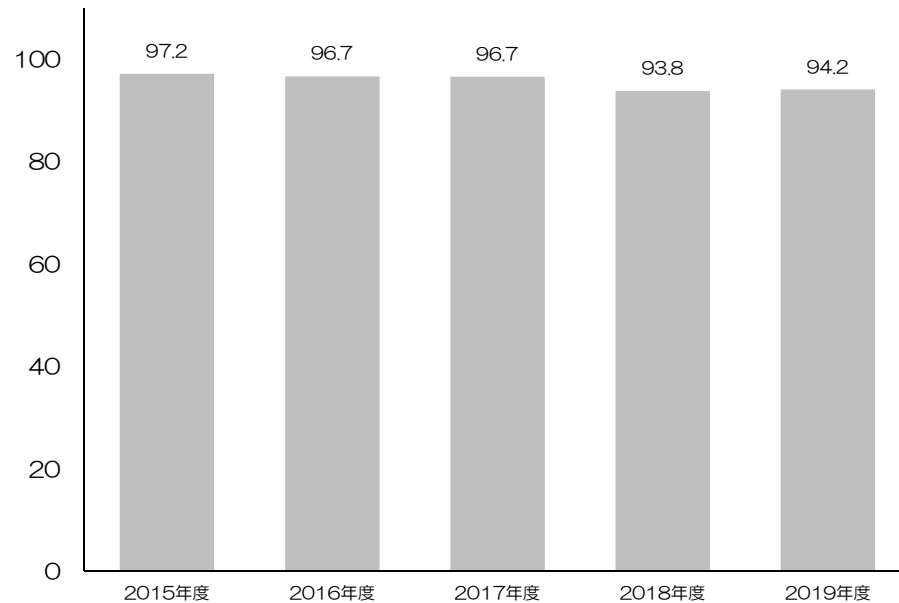
単位：人



f. 稼働率比較（入院・外泊を除く）

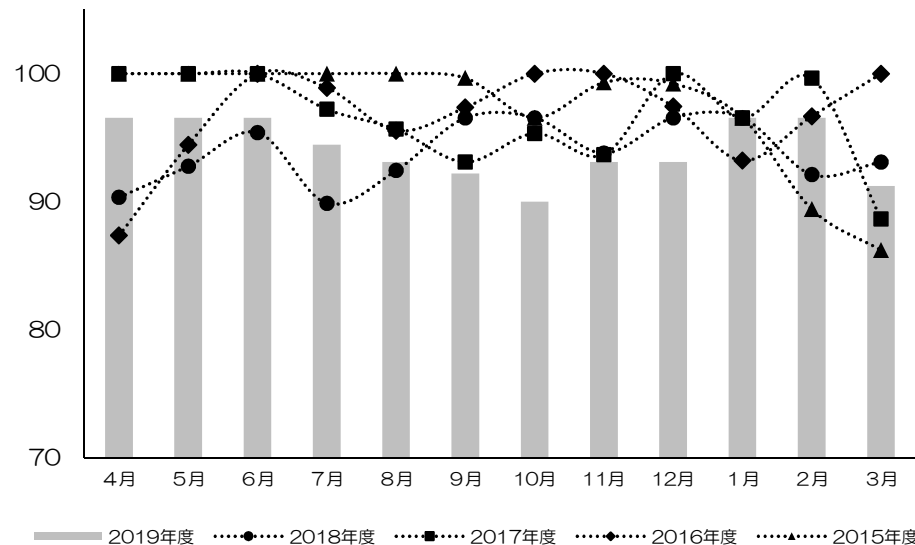
（年間平均稼働率）

単位：％



（月間稼働率）

単位：％



g. 認知症の状況

単位：人

HDS-R 得点	正常範囲		準認知症		認知症			合計
	30～26点	25～21点	20～16点	15～11点	10～6点	5～0点	不能・未検査	
6月	1	1	0	2	2	22	0	28
12月	1	0	0	4	2	19	0	26

h. 日常生活動作状況

単位：人

項目	状態及び人数					
視 力	普通/不明	33	弱 視	1	全 盲	0
聴 力	普 通	26	やや難聴	4	難 聴	4
言 語	普 通	19	やや不自由	4	不自由	11
意思疎通	普 通	16	多少困難	5	困 難	13
食 事	自 立	15	一部介助	6	全介助	13
入 浴	自 立	0	一部介助	19	全介助	15
着脱衣	自 立	0	一部介助	19	全介助	15
排 泄	自 立	5	一部介助	16	全介助	13
オムツ等	な し	1	パット等	22	オムツ	11
移 動	自 立	5	一部介助	6	車椅子	23

※パット・オムツ併用者あり

i. 外出・外泊の状況

単位：人

来訪回数	0～10回	11～20回	21～30回	31～40回	41～50回	51～60回	61回以上
	5	3	4	4	3	2	11

外泊	年末年始	1	その他	0	合計	1
外出	年末年始	1	その他	9	合計	10

※外出は届出のあったものに限る。

j. 月例行事催行状況

種 別	実 施 頻 度	行 事 内 容
誕生会	誕生月（ユニット毎）	当月の誕生者（SS 含む）を祝福、
レクリエーション	毎日	体操・散歩 など
理髪室	月 1 回（第 2 月曜）	利用希望者（散髪）
外出	適時	季節の花などを見に行く

k. クラブ活動（月例）

種 別	実 施 頻 度	実 施 場 所
なし		

l. 会 議（定例/含：職員向け）

種 別	開 催 頻 度	検 討 内 容
ユニット課会議	月 1 回（第 2 木曜日）	ユニット課全体の業務方針、改善の検討
ユニットリーダー会議	月 1 回（第 2 木曜日）	介護・看護・栄養・SS 各部署間の連絡
各ユニット会議	各ユニット月 1 回	各ユニット入居者の状態把握・業務改善
給食会議	月 1 回（第 2 木曜日）	食ごとにまつわる事項の検討
事故対策委員会	月 1 回（第 2 木曜日）	発生した事故の分析や事故防止の検討
拘束検討委員会	月 1 回（第 2 木曜日）	拘束状況代替策や改善の検討
ケース会議	年 2 回/一人 基本 状況変化時は随時	利用者の現況分析・ケア目標や計画検討
感染症対策委員会	1 回/3ヶ月 （第 2 金曜日）	流行性感染症/一般感染症についての対策・予防等の検討
褥瘡対策委員会	1 回/6ヶ月 （第 2 金曜日）	褥瘡への対策・予防の検討
食中毒対策委員会	1 回/3ヶ月 （第 2 金曜日）	食中毒への対策・予防の検討

m. 苦 情

2019年度----- 0 件

※行政窓口への相談件数は0件だが、転倒骨折に伴い、ご家族に事情説明を行なう場を設ける必要があった事故が2件発生している。

n. 運営推進会議

地域密着型サービスとして、利用者、利用者の家族、地域住民の代表者、地域の包括支援センター等に対して、提供しているサービス内容等を明らかにすることを目的として、地域に開かれたサービスにしていこうとサービスの質の確保を図るため設置。

2019年度：5回開催（5月・7月・9月・11月・1月）

※3月は新型コロナウイルス感染症が相模原市内でも拡がっている時期であり、委員が集まったの会議は見送り、運営状況報告を紙面にて郵送報告するのみに留めた。

o. 年間行事/その他予定（入居者の生活に直接関わるもの）

開催日	行 事	内 容
4/ 1	お花見	お花見（車中から）
5/ 7	健康診断	利用者の定期健康診断
6/ 9	風船バレー大会	恒例の他施設との交流戦を楽しむ（ひまわり）
9/21	カシオペア祭	モモ施設祭に外出
11/27	施設対抗運動会	他施設対抗で運動会を行なう（中の郷）

4. 医務室

a. 疾患状況

単位：人（延べ）

疾患名	人数	疾患名	人数
心疾患	5（5）	歯科疾患	27（27）
消化器疾患	5（5）	ガン疾患	0（1）
脳神経疾患	3（3）	糖尿病	2（4）
精神科疾患	4（4）	高血圧症	13（13）
整形外科疾患	12（12）	慢性間接リウマチ	1（1）
腎機能疾患	1（1）	ホルモン疾患	1（1）
肝機能疾患	0（0）	老人性認知症	16（16）
脳血管障害	9（9）	泌尿器科疾患	4（4）
呼吸器疾患	1（1）	皮膚科疾患	1（1）

※（ ）内は前年度数値

b. 看護処置

単位：人（延べ）

処置内容	人数
創処置	15（15）
軟膏塗布	29（29）
点眼	6（11）
坐薬挿入	20（20）
湿布	2（4）
フランドルテープ	1（0）
吸入	1（0）
フットバス	1（2）

※（ ）内は前年度数値

c. 服薬管理

単位：人（延べ）

時間帯	人数
朝食時	29（29）
昼食時	19（19）
夜食時	28（28）
就寝前	5（5）
便秘時	29（29）

※（ ）内は前年度数値

d. 認知症行動障害

単位：人（延べ）

状態	人数	状態	人数
自傷行為	0（1）	人物誤認	0（0）
夜間せん妄	0（1）	作話	1（3）
興奮・奇声	0（3）	摂食異常	0（2）
徘徊	2（2）	盗癖・収集癖	0（2）
攻撃的行為	1（4）	被害妄想	0（4）
不潔行為	2（1）	躁鬱状態	1（1）

※（ ）内は前年度数値

e. インフルエンザ 予防接種

単位：人

入居者数	接種数
28	26

f. 医療管理者

単位：人（退居者含）

処置内容	人数
胃瘻（造設者含む）	0（0）
経鼻栄養	0（0）
留置カテーテル	0（1）
膀胱瘻	0（0）
喀痰吸引	1（1）
褥瘡	1（3）

※（ ）内は前年度数値

g. 定期診察

提携医	精神科医	歯科医
隔週木曜日	隔週日曜日	毎週木曜日

S_{hort-term} Stay

ショートステイピノ

2019年度の年間稼働率は65.3%と2018年度の59.7%を上回る結果となった。

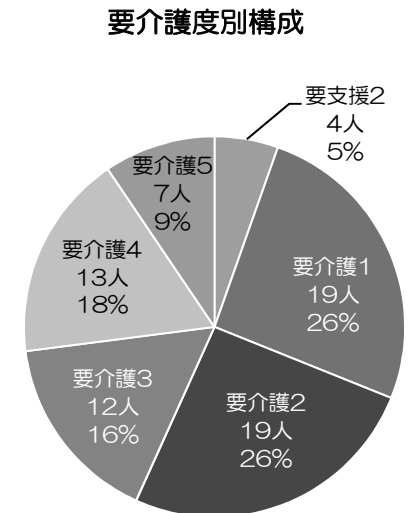
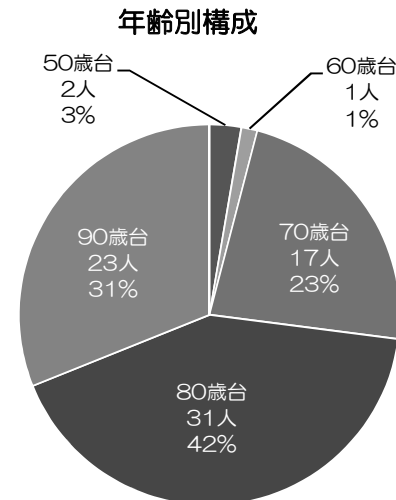
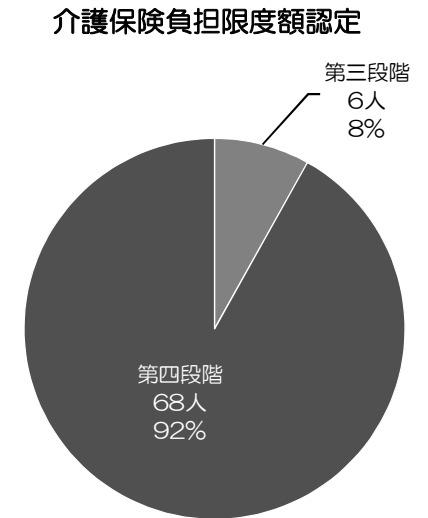
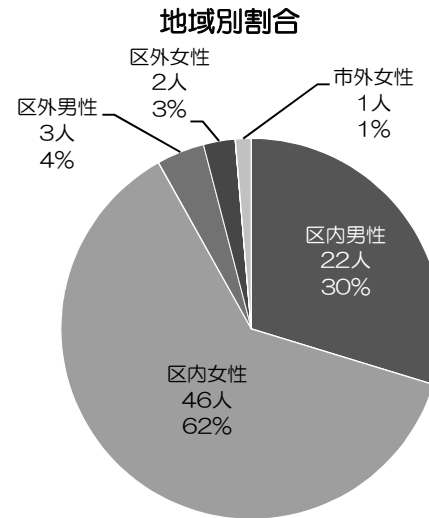
稼働率は上がってはいるが、依然としてリピーターの確保が難しく、また、リピーターの介護度が上がり、自宅での生活が困難となり施設入居、または入院をされる方が増えた事も要因と考えられる。

長期利用を受け入れる事により、稼働率の過度な低下を防ぐ事が出来た。

リピーターの多くは金曜日から月曜日にかけての利用希望で、平日に空床ができてしまう傾向が続いている。また、医療を必要とする利用者の依頼も多く聞かれた為、出来る範囲内で受け入れを進めた。

今後も、新規依頼を積極的に受け入れる事でリピーターに繋げ、長期利用の利用者を獲得する事で稼働率の安定を図る。

1. 利用者プロフィール（年度内実績者 74 名の内訳）※2020.03.31 現在



年齢構成：【最高齢：96歳（女性） / 最年少：50歳（男性）】

施設部関連 / 特養本入居移行（3人）

在宅部関連 / ピノディ併用（3人）・居宅モモ担当（延：5人）・居宅ナナ担当（延：7人）

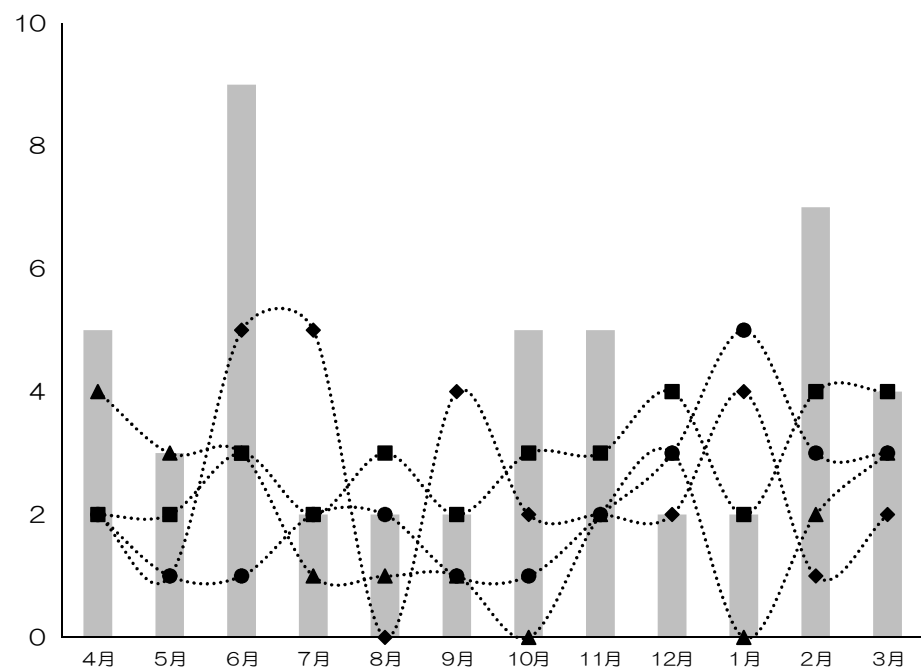
2. 年間の利用状況

a. 契約数

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	2	0	3	1	1	1	3	2	0	1	1	2	17
女	3	3	6	1	1	1	2	3	2	1	6	2	31
合計	5	3	9	2	2	2	5	5	2	2	7	4	48
前年	2	1	5	5	0	4	2	2	2	4	1	2	30

単位：件



— 2019年度 2018年度 2017年度 2016年度 2015年度

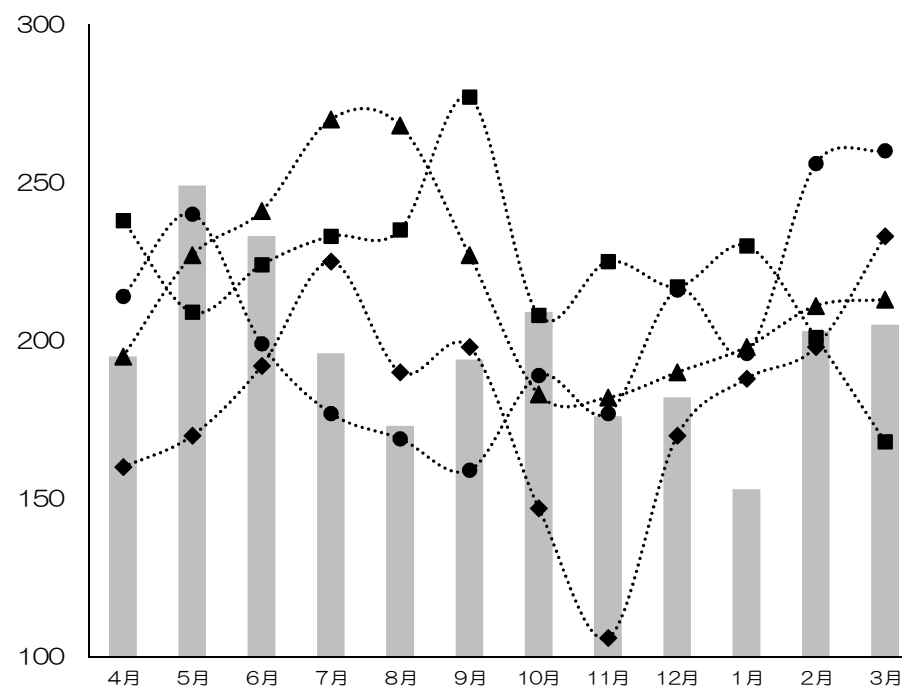
b. 稼働状況

単位：人

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
2019年度	195	249	233	196	173	194	209
2018年度	160	170	192	225	190	198	147
2017年度	238	209	224	233	235	277	208

年度	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比%
2019年度	176	182	153	203	205	2368	109%
2018年度	106	170	188	198	233	2177	82%
2017年度	225	217	230	201	168	2665	109%

単位：人

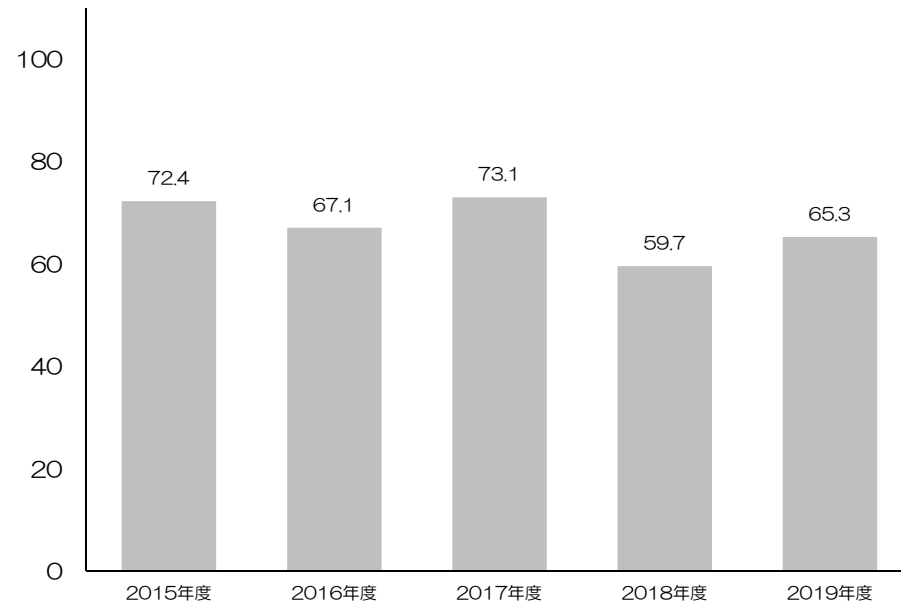


— 2019年度 2018年度 2017年度 2016年度 2015年度

c. 稼働率比較

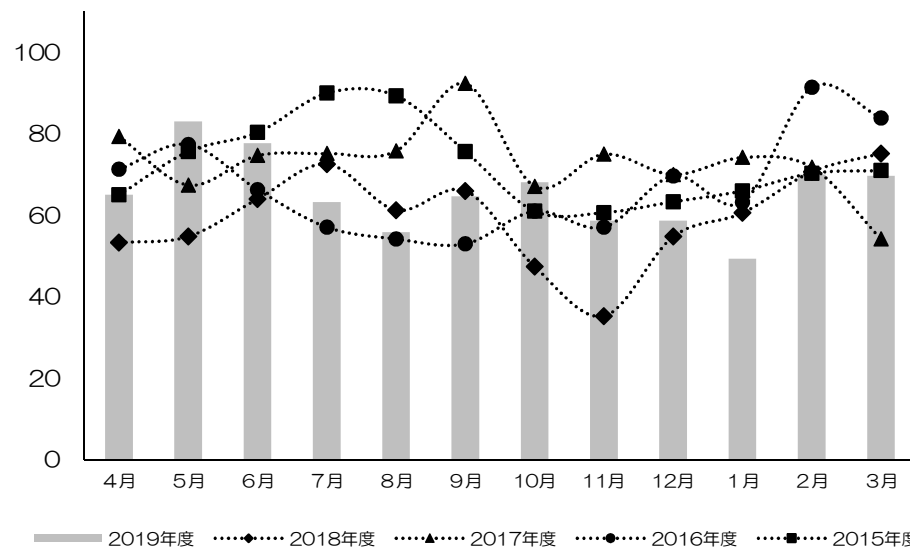
(年間平均稼働率)

単位：％



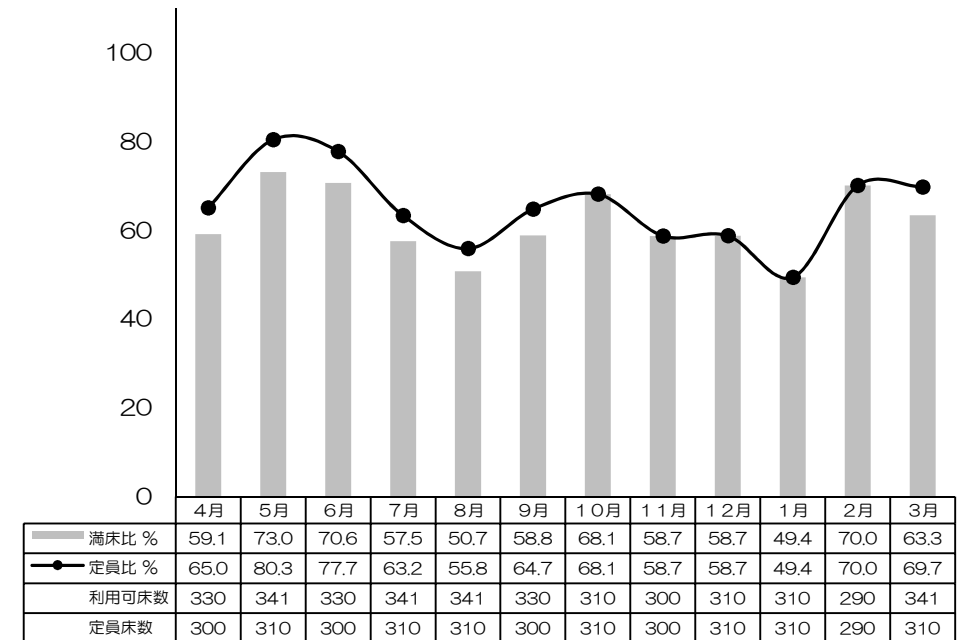
(月間稼働率)

単位：％



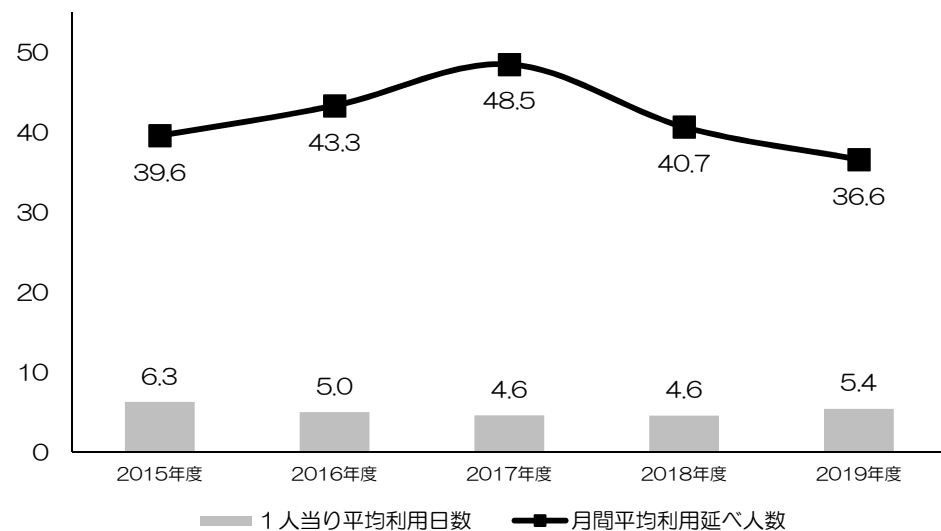
(定員比 / 満床比の比較)

単位：％

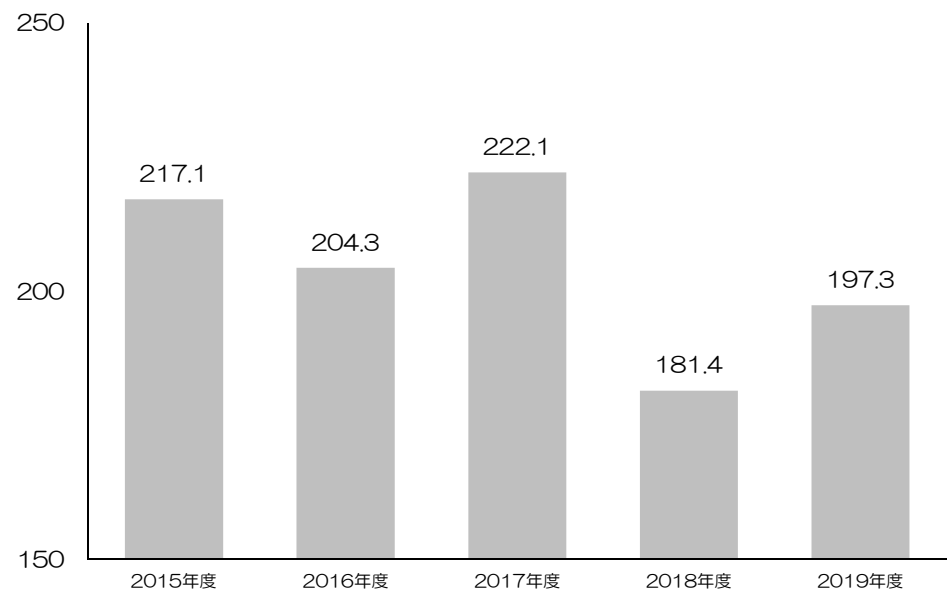


3 利用者の傾向

a. 一人当たりの平均利用日数&月間平均延べ利用人数



b. 月間平均延利用日数

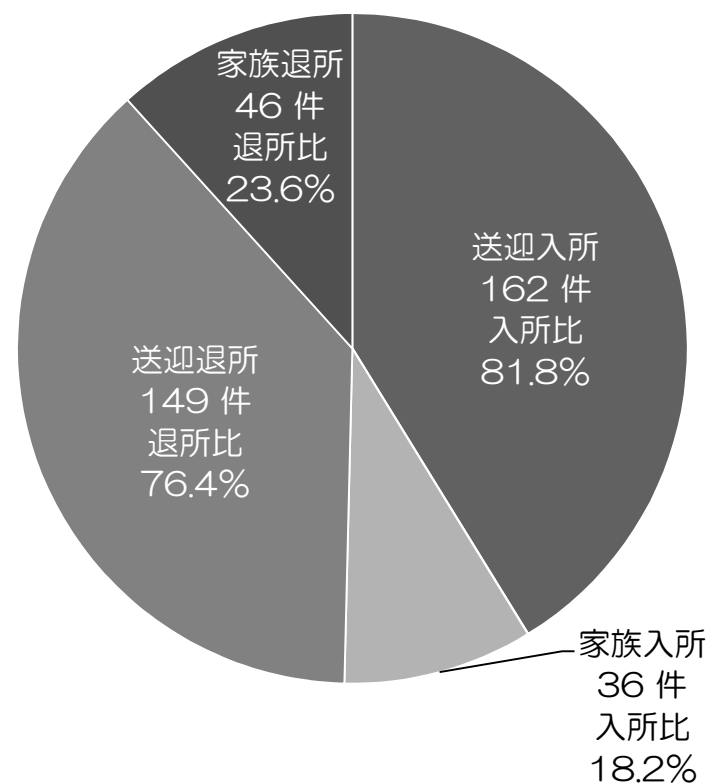


c. 月毎の入・退所件数及び送迎状況

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入所	40	40	29	33	33	33	30
退所	35	35	36	32	32	36	34
合計	75	75	65	65	65	69	64
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	内：家族
入所	29	33	26	31	30	387	70
退所	29	35	30	31	28	393	78
合計	58	68	56	62	58	780	148

(入・退居件数の内訳)



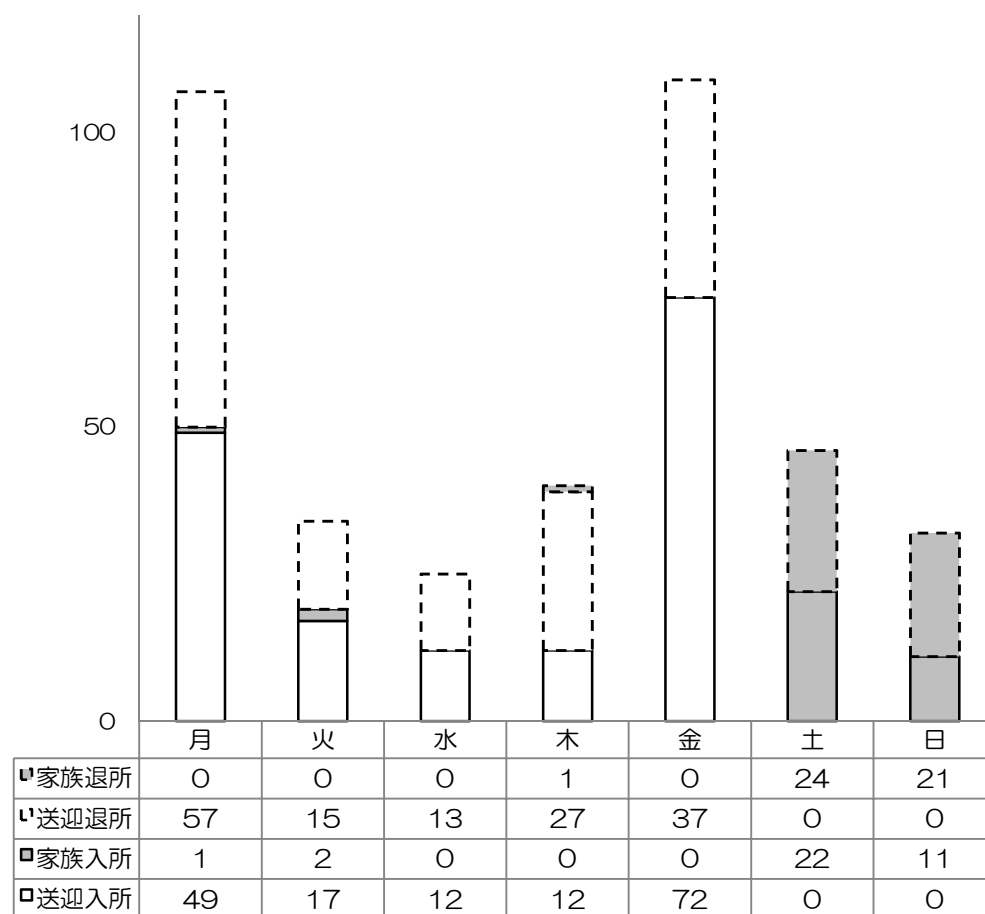
d. 曜日毎の入・退所件数及び送迎状況

単位：件

	月	火	水	木	金	土	日
入居	50	19	12	12	72	22	11
退居	57	15	13	28	37	24	21
合計	107	34	25	40	109	46	32

(入・退所件数の内訳)

単位：件



e. 曜日毎の利用状況

単位：人

	月	火	水	木	金	土	日
4月	35	32	23	22	30	29	24
5月	20	10	6	5	20	0	0
6月	33	30	32	27	33	40	38
7月	33	27	27	24	30	30	25
8月	23	20	21	24	34	29	22
9月	36	22	22	26	34	26	28
10月	33	34	28	25	32	32	27
11月	31	21	21	20	33	28	22
12月	32	24	23	24	27	26	26
1月	27	20	25	21	22	19	19
2月	35	28	30	22	29	32	27
3月	40	34	28	21	30	30	33
合計(人)	378	302	286	261	354	321	291
%	17.2	13.8	13.0	11.9	16.1	14.6	13.3
平均(人)	31.5	25.2	23.8	21.8	29.5	26.8	24.3

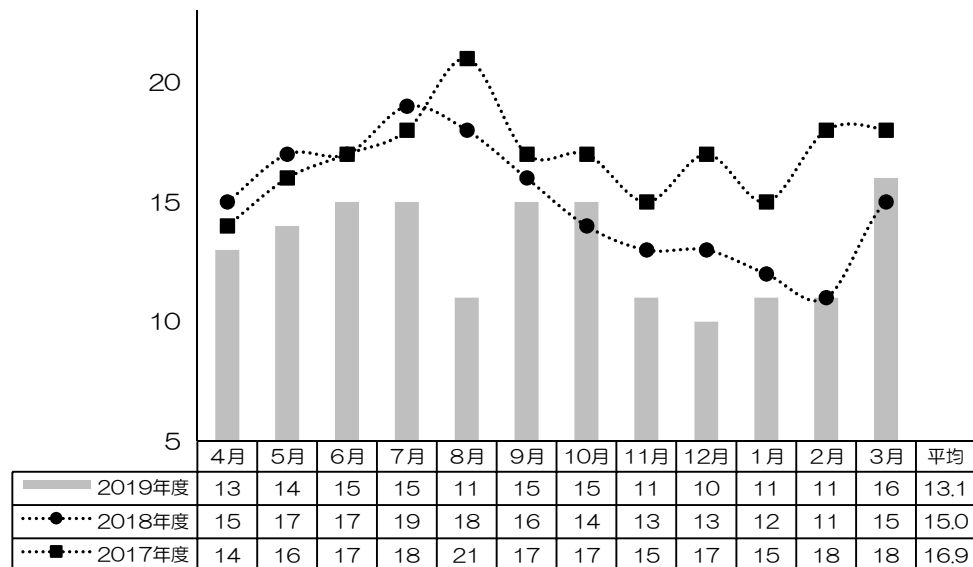
※ 割合(%) = 年度延べ利用人数「2193人」に対する比率

金曜日から月曜日にかけての利用が多く、平日に空床が目立つ状態。
また、単発での利用も多くリピーター獲得には至らず。

4 他事業所との関わり

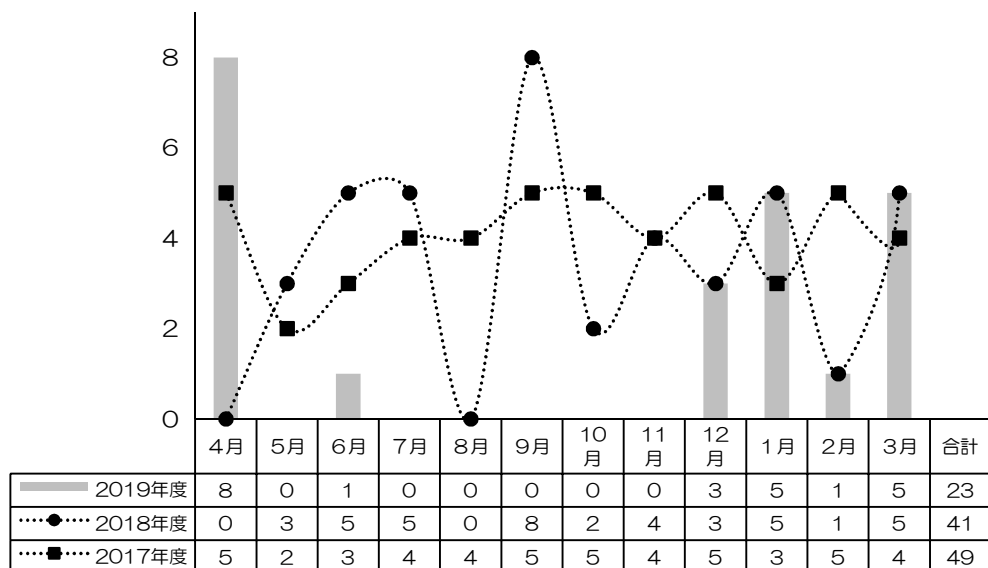
a. 利用事業所件数（居宅モモ・ナナ除く）

単位：件



b. サービス担当者会議出席件数（居宅モモ・ナナ含む）

単位：件



5 苦情

2019年度・・・0件

6 事故

年間を通して転倒などの事故は22件。

その内、病院に救急搬送を行なった事故が1件、器物破損が2件、服薬関係が5件、その他が1件となっている。

2019年度は2018年度より事故件数が多くなっており、より一層注意し環境の整備や必要物品の購入などを行ないつつ、職員間による利用者の情報共有を重要視し、今後もクレームに繋がるような事故は未然に防止できるよう相談員を中心にユニット内で事故防止を図っていく。

Care House

ケアハウスモモ

2019年4月に二人部屋にご夫妻が入居され、16名満室でのスタートとなった。

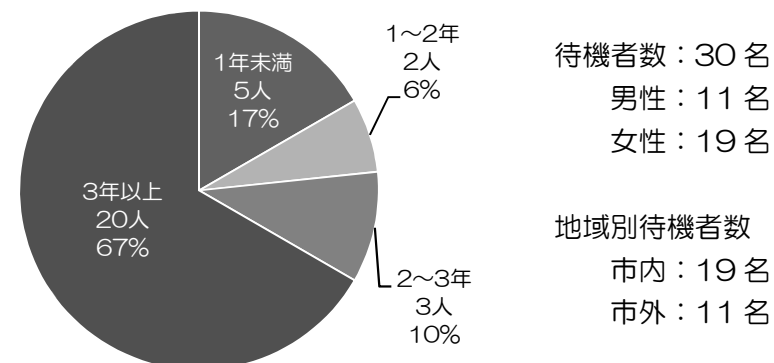
暫くは満室が続いていたが、下半期になると2名が持病の治療の為、1名が精神面及び怪我の治療の為に入院された。しかし、3名とも年度内にはケアハウスでの生活に戻ることができた。

また、10月に居室内で転倒され、暫くショートステイモモを利用していた方が2月に特別養護老人ホームモモへ移られ退居となったが、新たに3月に入居された方は特別養護老人ホームモモに入所されていた方の為、施設間での移動となった。3月入居者は、自立生活で問題ないほど身体状況が回復（要介護5⇒自立）され、特別養護老人ホーム退居を余儀なくされており、家庭事情により自宅復帰が困難で緊急性もあった為、ケアハウス入居の流れとなった。施設間の協力体制がとれたことにより、入退所もスムーズに行なえた為、年度を通して定員である16名の入居を維持することができた。

事故に関しては、今年度では15件発生。その中には、市へ事故報告書提出となった自転車外出時の交通事故もあった。平均年齢も85.4歳と高齢化が進み、平均介護度が0.41で16名中7名が介護認定を受けている。

現在入居されている方が心身ともに健康で、末永くケアハウスでの生活を安心安全に送るためにも、リスクマネジメントや感染症予防、介護サービスをはじめとした社会資源の活用や、施設間・関係各所との情報共有体制を整える事が重要である。

1. 入居者待機状況



2019年度は3名の入居と1名の退居があり、年間延べ人数192名（100.0%）の在籍となった。

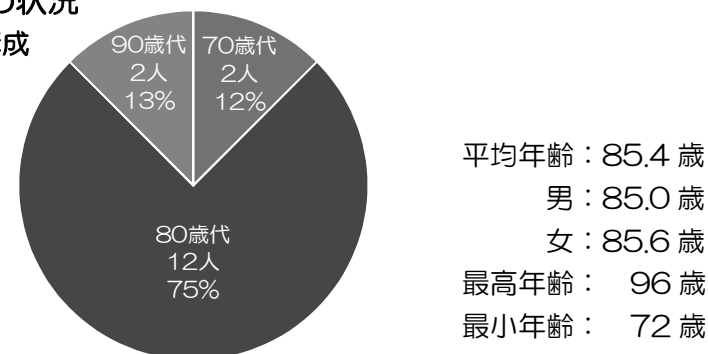
平均在籍年数は5年3ヶ月で、最長は18年8ヶ月の在籍である。

待機者については、個室希望者が26名、二人部屋が4名（2組）という状況である。2019年度の申込者は、個別希望者が5名、二人部屋が0名となる。長期間待機している方は増えており、待機者調査の返信が無い方も複数いる。

年々と待機者数も減ってきており、特に二人部屋の待機者が少ない。その為、空室の補充が厳しくなるため、待機者の確保が課題となる。

2. 入居者の状況

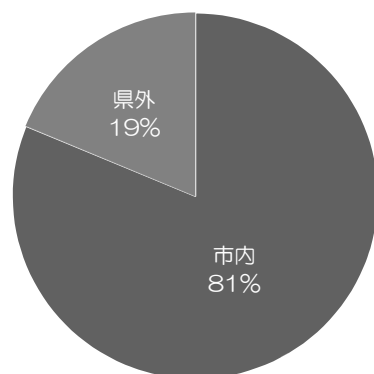
a. 年齢構成



b. 入退居状況

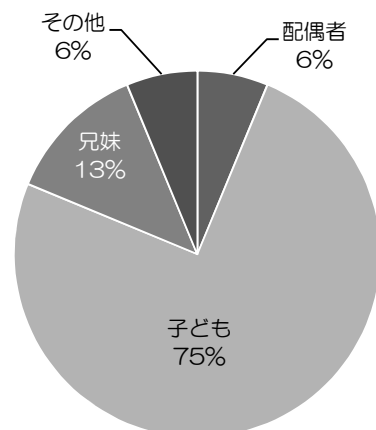
退 居		入 居	
2月=1名	合計1名	4月=2名、3月=1名	合計3名

c. 入居前居住地



相模原市：13名
県内：0名
県外：3名

d. 身元引受人



配偶者：1名
子ども：12名
兄弟姉妹：2名
その他：1名

e. 家族・知人の来訪回数

単位：人

	19回以下	20～49回	50～59回	60～69回	70～79回	80回以上
2019年度	11	4	1	0	0	1
2018年度	6	6	2	0	0	0
2017年度	9	5	1	0	1	0

2019年度 延来訪回数 312回 平均来訪回数 20.8回

2018年度 延来訪回数 363回 平均来訪回数 25.9回

2017年度 延来訪回数 474回 平均来訪回数 27.8回

*年々来訪者数が減少している。しかし、家族や知人に外出先で会ったり、利用者同士で交流があったり、ご家族や知人と電話連絡等で交流はある。

f. 外泊・入院の状況

単位：実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
外泊	7	5	8	8	5	7	5	4	3	5	1	2	60
入院	1	1	0	0	1	1	1	1	1	2	2	1	12

3. 介護保険サービスの利用状況

a. 入居者の介護度

単位：人

	自立	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
2019年度	7	2	4	2	1	0	0	0
2018年度	7	1	4	0	2	0	0	0
2017年度	7	3	2	0	0	2	0	0

b. 介護保険サービス利用状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	40
訪問介護	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3	3	38
短期入所	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	5
福祉用具	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	55
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4. 行事催行状況

a. 定例行事

行事名	実施回数	参加者数	内 容
ラジオ体操	毎 日	希望者	DVDを見ながら10分間の体操
誕 生 会	月1回	全 員	誕生祝
合 唱 会	月2回	希望者	音楽療法士を招いて実施（特養合同行事）
例 会	月1回	全 員	例会時に「館の夢」作成・配布
定期健康診断	年 1 回	希望者	入居者の健康診断
かわり湯	年 2 回	全 員	季節感を演出する

b. 計画行事

月	日	行 事	人数	内 容
4 月	2（火）	居室清掃	16	居室ワックス掛け
	19（日）	合唱会	01	講師による合唱会
	20（月）	五月人形	-	五月人形飾りつけ
	24（水）	例会 誕生会	14 14	翌月行事のお知らせ 誕生祝
5 月	5（日）	かわり湯	-	菖蒲湯
	5（日）	合唱会	0	講師による合唱会
	19（日）		0	
	8（水）	健康診断	1	健康診断
	10（金）	待機者調査	34	待機者継続・取消確認の調査
	16（木）	消防設備点検	16	居室内火災報知器点検
6 月	22（水）	例会	16	翌月行事のお知らせ
	2（日）	合唱会	0	講師による合唱会
	16（日）		0	
	16（日）	春バスハイク	7	相模川ふれあい科学館・和食よへい
	21（金）		1	205号室面談
	23（日）	三者面談	3	305・206・301号室面談
	24（月）		1	306号室面談
	24（月）	消防避難訓練	13	避難訓練
	24（月）	例会	13	翌月行事のお知らせ
	26（水）	誕生会 七夕飾り制作	13 13	誕生祝 飾り・短冊制作
	28（金）	七夕飾り	1	飾りつけ

月	日	行 事	人数	内 容
7 月	1（月）	三者面談	1	201号室面談
	20（土）	川口ハルミ夕涼み会	2	地域の夏祭り
	21（日）	合唱会	0	講師による合唱会
	27（土）	鶴野森自治会盆踊り	4	地域の夏祭り
	31（水）	例会	14	翌月行事のお知らせ
		誕生会	14	誕生祝
		制作	14	カシオペア祭写真館用制作
8 月	4（日）	合唱会	1	講師による合唱会
	18（日）		0	
	28（水）	例会	15	翌月行事のお知らせ
		誕生会	15	誕生祝
		おやつレク	15	カキ氷提供
9 月	1（日）	合唱会	0	講師による合唱会
	15（日）		0	
	8（日）	神輿見学	5	日枝神社・自治会による神輿巡行
	21（土）	カシオペア祭	15	鶴野森写真館・作品展示
	25（水）	例会	15	翌月行事のお知らせ
		誕生会	15	誕生祝
10 月	6（日）	合唱会	0	講師による合唱会
	30（水）	例会	14	翌月の行事予定のお知らせ
		誕生会	14	誕生祝
11 月	3（日）	合唱会	2	講師による合唱会
	17（日）		0	
	14（木）	消防設備点検	16	居室内火災報知器点検
	19（火）	秋のバスハイク	6	桜が丘公園・ビザサルバトーレクオモ
	27（水）	例会	13	翌月行事のお知らせ
		誕生会	13	誕生祝
	28（木）	避難訓練	11	夜間想定
12 月	1（日）	合唱会	0	講師による合唱会
	15（日）		0	
	6（金）	クリスマス飾り	-	クリスマスツリー飾りつけ
	13～14	かわり湯	-	ゆず湯
	25～26		-	
	23（月）	例会	15	翌月行事のお知らせ
		誕生会	15	誕生祝
		忘年会	15	お好み焼き・焼きそば作り
	28（土）	年末大掃除	-	ケアハウス大掃除
31（火）	年越し蕎麦	15	年越し蕎麦	

月	日	行 事	人数	内 容
1月	1 (水)	元旦	15	おせち料理
		初詣	15	モモ神社参拝 絵馬作成
	11 (土)	鏡開き	11	お汁粉おやつ
	19 (日)	合唱会	0	講師による合唱会
	29 (水)	例会	12	翌月行事のお知らせ
2月		誕生会	12	誕生祝
	19 (水)	ひな人形	-	ひな人形飾りつけ
	26 (水)	例会	13	翌月行事のお知らせ
3月		誕生会	13	誕生日祝
	25 (水)	例会	12	翌月行事のお知らせ
		誕生会	12	誕生日祝
	27 (金)	お花見ドライブ	7	恩田川周辺お花見ドライブ

●行事について

毎朝のラジオ体操の実施や、例会で口腔体操などのレクチャーを実施し、日々の生活の中に運動を取り入れたことによって健康意識を高められた。

レクリエーションでは、入居者が参加しやすい企画を検討しているが、外出レクリエーションの参加者が減っている。外出そのものに不安がある方や団体行動が苦手な方、気を遣ってしまう方も多くいる。

6月に相模川ふれあい科学館、11月に桜が丘公園、3月に恩田川花見のドライブを実施したが、参加者が7名程で参加率は5割以下となった。

しかし、車1台で出掛けられたことでより親密感も高まり、車内の盛り上がりもあった。また、6月と11月のバスハイクは昼食外食も兼ねており、日々の食事とは異なる料理も好評で、普段よりたくさん召し上がられている方が多く、また行きたいとの声も寄せられた。

施設内のレクリエーションは参加しやすいさがある為か、8月のかき氷パーティーや12月の忘年会・鉄板焼きパーティーには15名が参加された。

外出を楽しみにされている方もいるため、今後も外出レクリエーションの実施と施設内で行なえるようなレクリエーションを充実させ、それぞれの心身状況に合った、参加しやすい行事を企画していくことが重要となる。

●介護サービスの利用について

2020年3月末時点で、介護認定の手続きをされている方が16名中9名である。その内、介護サービスを利用されている方は5名となり、要介護・要支援認定は済んでいても、サービス利用をされない方もいる。

福祉用具レンタルでは、シルバーカーや車椅子、手すりの利用があり、福祉用具で移動しやすくなる事で外出機会が増え、行動する範囲が広がって、身体的な活動レベルの低下を防ぐことに繋がっている。

ヘルパーによる家事援助では、居室内の掃除や買い物、ゴミ捨て、配薬管理等のサポートが入る事で、清潔面と安心安全を維持している。

デイサービスは3名利用されており、友人との交流の場であり、また、ケアハウスでの入浴が困難な方に関しては、見守りや補助があるデイサービスでの入浴をととても楽しみにされている。

様々なサービスを組み合わせる事によって、多少の不自由さを有する肩であっても、自立型ケアハウスでの生活が継続できている。

●2019年度の三者面談について

6名の入居者・家族と面談を実施し、日々の様子の報告や、介護サービスの利用についての説明等を行なった。

入居者からは、ケアハウスでの生活上の問題や課題、入居者間の関係性などを、家族と一緒に共有しながら聴き取る事ができた。

家族からは、病院での治療に関しての情報や、家族にしか話していない入居者の不安や不満なども聞くことができた。

居室内の事や入浴中の事など、直接見えない箇所が多い分、日々の様子観察や何気ない会話から情報を聴き取り、日々の変化を家族と共有し、入居者と家族と協同して長く自立した生活が続けられるよう、相談援助を実施することが重要となる。

5. 苦 情

2019年度・・・0件

S Housing serviced

フレイグラントオリーブナナ

2019年度は32部屋中12名の入退去があり、年度末時点での入居者は18名。

主な入居の理由は、福祉法人との連携（ADL 低下時のサポート）があること、ご家族の居住地から近く高齢者の一人暮らしに安心があることが挙げられた。

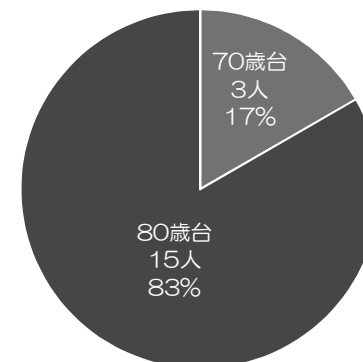
退去4名のうち2名はご逝去による。

1. 入居者待機状況

実数としての管理は行なっておらず、外部業者と提携し、満床に向けて対策を講じていく。

2. 入居者の状況

a. 年齢構成

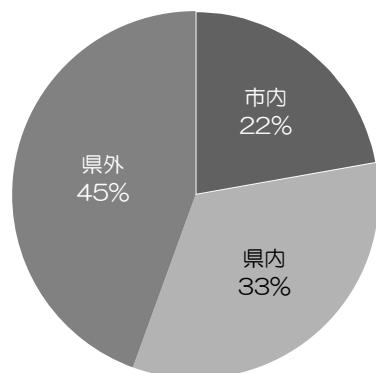


平均年齢：83.6 歳
男：82.3 歳
女：84.3 歳
最高年齢： 89 歳
最小年齢： 71 歳

b. 入退居状況

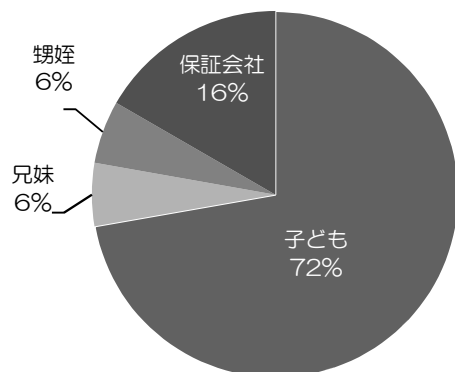
退 居		入 居	
4 月＝ 1 名 7 月＝ 1 名 1 月＝ 1 名 2 月＝ 1 名	合計 4 名	4 月＝ 1 名 5 月＝ 1 名 6 月＝ 1 名 8 月＝ 1 名 9 月＝ 1 名 11 月＝ 1 名 12 月＝ 1 名 3 月＝ 1 名	合計 8 名

c. 入居前居住地



相模原市： 4 名
県 内： 6 名
県 外： 8 名

d. 身元引受人



子 ど も：13 名
兄弟姉妹： 1 名
甥姪 ： 1 名
保証会社： 3 名

e. 家族・知人の来訪回数

単位：人

	19 回 以下	20～ 49 回	50～ 59 回	60～ 69 回	70～ 79 回	100 回 以上
2019 年度						
2018 年度						
2017 年度						

2019 年度 延来訪回数 回 平均来訪回数 回
2018 年度 延来訪回数 回 平均来訪回数 回
2017 年度 延来訪回数 回 平均来訪回数 回

*実数としての管理は行なっておらず、把握は今後の課題である。

f. 外泊・入院の状況

単位：実人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
外泊													
入院	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

*外泊は実数としての管理は行なっておらず、把握は今後の課題である。

3. 介護保険サービスの利用状況

a. 入居者の介護度

単位：人

	自立	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5
2019 年度	3	4	4	7	0	0	0	0
2018 年度	1	5	5	1	2	0	0	0
2017 年度	4	1	0	2	1	0	0	0

b. 介護保険サービス利用状況

単位：人

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
通所介護	9	9	9	9	9	9	9	10	10	10	11	11	115
訪問介護	2	2	1	1	1	1	2	2	3	3	3	4	25
短期入所	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
福祉用具	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	74
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4. 行事催行状況

a. 定例行事

行事名	実施回数	参加者数	内 容
ラジオ体操	週一回	希望者	保育園ナナと合同
カラオケ喫茶	週一回	希望者	3 時間開催・外部の方も参加自由
ヤクルト販売	週一回	希望者	ヤクルトによる訪問即売会

b. 計画行事

月	日	行 事	人数	内 容
4月	18 (木)	音楽イベント	17	ピアノの弾き語り
5月	19 (日)	茶話会／運営懇談会	12	予定や近況報告と意見収集
	26 (日)	マジックショー	13	鎌倉学園中等部による (会場 ピノ)
6月	24 (月)	健康教室	10	ヤクルト主催セミナー
7月	7 (日)	七夕・ナナの日	多数	聴こえのセミナー・リース作り フリーランチ配布・ヨーヨーすくい 等 セブンイレブンで野菜のつかみ取り
8月	28 (水)	ふれあいサロン	多数	社協主催 地域住民向けイベント
9月	8 (日)	茶話会／運営懇談会	13	予定や近況報告と意見収集
	21 (土)	カンオペア祭	12	蒼生会のお祭り (会場 モモ)
	26 (木)	合同避難訓練	14	施設職員・入居者・保育園ナナ職員・セブンイレブン合同での訓練
	27 (金)	介護予防講座	9	大野中高齢者支援センター主催の体操教室
10月	23 (水)	芋掘り	3	保育園ナナの行事を見学
11月	1 (金)	スマホ講座	11	高齢協「介護ウィーク」賛同のイベント
	24 (日)	リース作り	10	外部講師・一般参加者あり
12月	22 (日)	茶話会 クリスマスコンサート	14	予定や近況報告とギター演奏会
1月	26 (日)	音楽イベント	13	二胡の演奏会
	30 (木)	音楽イベント	13	小中学生によるピアノ発表会
2月	22 (土)	美容イベント	0	ネイルケア&ハンドマッサージ ※新型コロナウイルス対策により中止
3月	11 (水)	合同避難訓練	4	施設職員・入居者・保育園ナナ職員・セブンイレブン合同での訓練
	22 (日)	茶話会／運営懇談会	12	予定や近況報告と意見収集

●行事について

ほぼ毎月行事を実施。

音楽イベントではピノの入所者・利用者も参加されている。

7月には「七夕・ナナの日」と題した、近隣住人参加型のイベントを実施し好評を得た。

●介護サービスの利用について

自立～要支援の方が多く、入居者での訪問介護利用は4名。

入居希望される方の身体状況を考えると、全体的に介護サービスの利用度は低いが、デイサービスはある程度利用されている。

5. 苦 情

2019年度・・・0件

D Service ay

デイサービスセンターモモ

2019年度の1日の平均参加人数は17人から19人の間で推移しており、月間平均の最低値は2020年3月の19.2人（稼働率64.2%）。最高値は2019年4月の24.8人（稼働率82.9%）であった。

2019年4月以降、新規利用者の獲得には繋がらず、登録者数85名でスタートし、2020年3月には58名と、打ち切り者27名という結果であった。また、年度の目標である1日平均参加人数24名を超えることが出来ず、21.9名（稼働率73.0%）となった。

今後も、1日あたりの登録人数を30人から35人程度で維持するように、引き続き新規利用者の獲得や既存利用者の増回により、1日あたりの平均参加人数24人以上の達成を継続できるようにする。同時に、コミュニティセンターピノとの連携密度も濃くし、通所課全体の実績向上に努めていく。

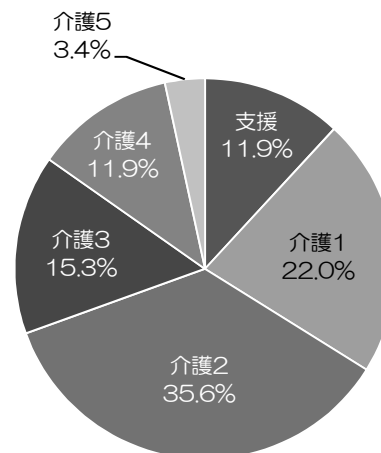
課題として、稼働率が下降している現状にも関わらず、職員の些細なヒューマンエラーが目につくようになっている。大きな事故に繋がるリスクが高いため、職員一丸となって気を引き締め、効率的な運営に繋げていく。

<利用者の現況>

既存の利用者のADLの低下や、認知症のBPSDが強く現れてしまっている利用者も増加しており、その利用者に適した対応や環境への移行を行っていく必要がある。

1. 利用者の現況

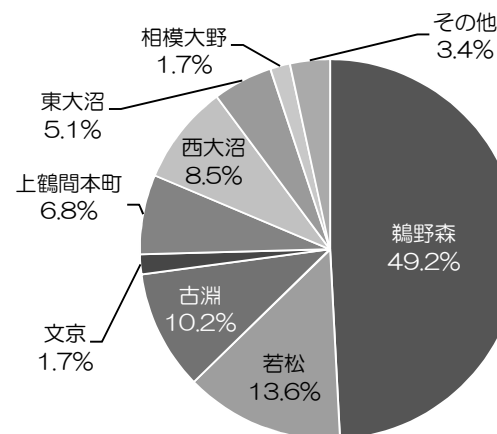
a. 介護度



要支援：7人
介護1：13人
介護2：21人
介護3：9人
介護4：7人
介護5：2人

契約数：59人
2020.03 末の登録者

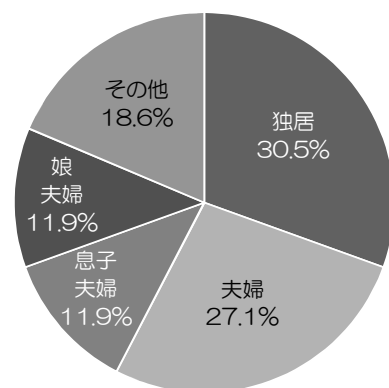
b. 地域別利用者



鵜野森：29人
若松：8人
古淵：6人
文京：1人
上鶴間本町：4人
西大沼：5人
東大沼：3人
相模大野：1人
その他：2人

事業所周辺地域に在宅する利用者が多く、無理のない送迎が行なえている。離れた地域に在宅する利用者も2便等で問題なく対応できている。その他に関しては、通常の送迎範囲外の利用者の人数である。

c. 利用者世帯状況



独 居：18人
夫 婦：16人
息子夫婦：7人
娘 夫 婦：7人
そ の 他：11人

子と同居している方も多いが、独居・夫婦の割合が2018年と比較して、低下傾向にある。
しかし緊急時の面では問題があるといえる。

d. ADL

単位：人

年度	トイレ		移 動			
	自立	介助	自立歩行	杖歩行	車椅子	介助
2015年度	54	15	22	32	2	13
2016年度	63	20	25	31	13	14
2017年度	78	34	36	36	16	24
2018年度	62	21	27	24	9	23
2019年度	39	20	15	13	9	22

トイレは2018年と比較し自立が減少傾向にある。移動は介助に歩行器・バギー使用者も含まれ、2018年と比較し利用割合が多くなっている。

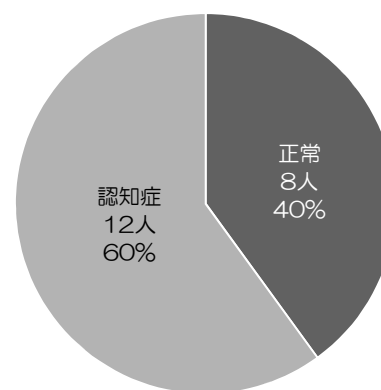
e. 認知症

単位：人

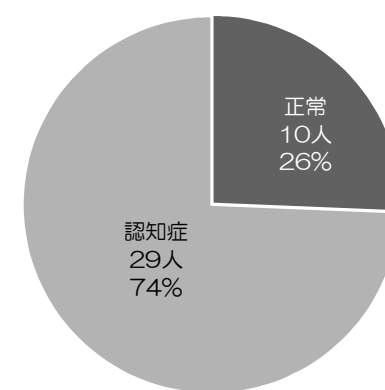
年度	認知症	正常範囲	合計
2015年度	37	32	69
2016年度	47	36	83
2017年度	35	51	86
2018年度	31	52	83
2019年度	18	41	59

認知症者は少ないが予備軍は多数。診断・処方への理解が重要となっているが、精神科への偏見から難しい。認知症と共存できる環境の提供が課題。

認知症（男性）



認知症（女性）



f. 疾患状況

生活習慣病から、毎年上位である高血圧症に次いで脳血管疾患も増加傾向にある。高齢化による認知機能の低下、老々介護による在宅での薬の飲み忘れ等、自己管理不足や家族による内服コントロール不良も多く、フォローアップが課題となっている。

疾患の早期発見に努め、利用者家族やケアマネジャー等へ迅速に情報伝達を行なうことによって、診断や治療へ結びつけることが必要である。

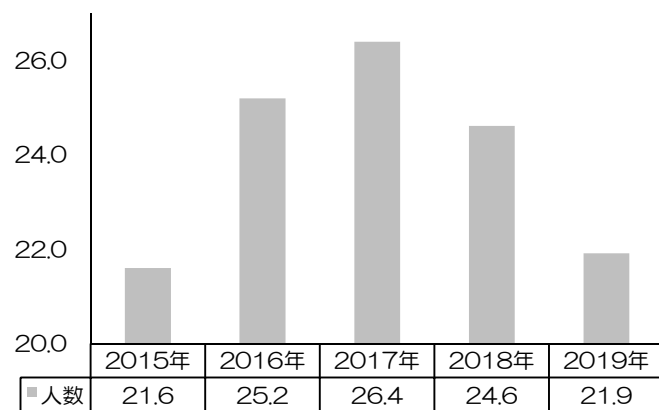
しかし「自力での受診不可」や「受診に連れていくことが困難」なケースも見られているため、今後も、在宅生活困難者に対しての働き掛けが必要とされる。

今後の課題として、既存利用者のADL低下に伴って新たに疾患が増えた場合、ケアマネジャーや家族との連携不足でデイサービス側が情報を把握できていない事態が起こる可能性が挙げられる。

契約時の情報だけでなく、利用者に関わる新しい情報（新たな疾患・服用中の薬等）を収集し、お便り等で呼び掛け、疾患や薬に関わる情報をその利用者をサポートする全ての関係者で共有していく。

2. サービス利用状況

1日平均利用者



2018年度と比較し、実利用者数の低下が見受けられる(約800人)。

登録者数は2020年3月には58人となり、27人の打ち切り者となる。

車輛の事故やクレーム等もあり、職員の業務に対する意識の低下が大きな原因である。

安定したサービスを提供する為、職員一丸となって気を引き締め、サービスの質の向上に努める。

単位：人

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
登録者数	857	875	1028	974	883
実利用者数	6304	7397	7911	7539	6731
入浴利用者数	3867	4427	4034	4939	4667
サービス実施日数	292	294	299	306	307
1日平均利用者数	21.6	25.2	26.4	24.6	21.9

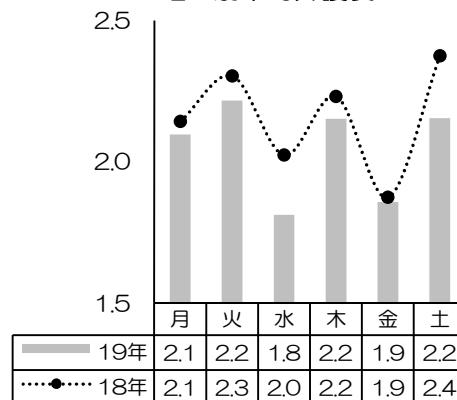
a. 月間サービス利用実績

単位：人

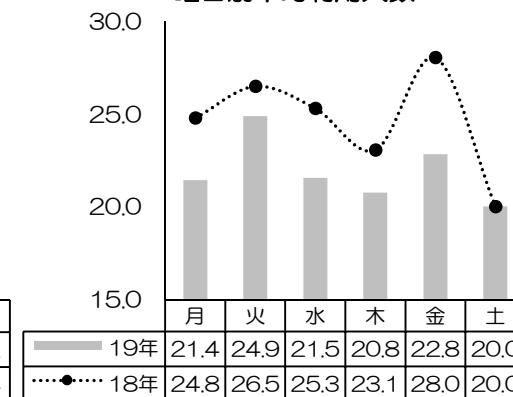
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
登録者数	85	82	76	76	77	77
実利用数	647	607	566	600	592	509
実施日数	26	27	25	27	27	24
1日平均	24.9	22.5	22.6	22.2	21.9	21.2
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
78	72	71	66	65	58	883
558	575	545	520	511	501	6731
26	26	24	24	25	26	307
21.5	22.1	22.7	21.7	20.4	19.3	21.9

b. 週間サービス利用実績

曜日別平均介護度

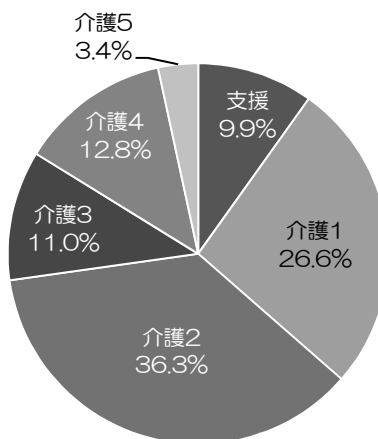


曜日別平均利用人数



	月	火	水	木	金	土	全体
平均人数	21.4	24.9	21.5	20.8	22.8	20.0	21.9
登録	26	28	25	25	28	22	25.7
平均介護度	2.1	2.2	1.8	2.2	1.9	2.2	2.1

c. 介護度別サービス利用実績



単位：人

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
支援	274	441	564	622	662
介護1	1556	1862	1651	1639	1785
介護2	2584	3103	2397	3003	2440
介護3	1002	769	1078	1316	741
介護4	589	720	645	710	860
介護5	299	502	410	253	227

3. 送迎状況

単位:人

通所形態	月	火	水	木	金	土	合 計
送迎車両	22	27	23	21	25	19	137
家族送迎	1	1	0	1	0	1	4
同一敷地	0	0	1	1	0	1	3
合 計	23	28	24	23	25	21	144

利用者に負担のない送迎を心掛け、家族の要望に可能な限り対応できる送迎を行なう。基本として車両3台での送迎を行ない、利用者の臨時参加や欠席による増減に対して2便対応、乗車車両を2台に収めるなどの変更で問題なく対応できている。安全面では、速度はもちろん運転手と職員で危険地点の情報を共有し、意見交換を行ない、より良いルートを常に模索している。

今後も職員一同協力し合い、利用者に快適で安全な送迎を提供していく。

4. 行事・プログラム

月	内容
4月	外出訓練2週間(お花見)・春の作業(花と蝶のテープディスプレイ)・レクリエーション(仲良しボール入れ)・誕生日会
5月	創作プログラム(紫陽花貼り絵)・お菓子作り(おはぎ)・創作プログラム(「令和」の壁飾り)・レクリエーション(ゲートボール)・カレンダー作業・誕生日会
6月	外出訓練(鹿沼公園)・映画鑑賞・レクリエーション(的当てゲーム)・創作プログラム(泳ぐ魚の壁飾り)・レクリエーション(色分けゲーム)・誕生日会
7月	書道・レクリエーション(お手玉ストライク)・夏の作業(向日葵の吊るし飾り)・レクリエーション(紙コップ落としゲーム)・誕生日会
8月	夏祭り・カレンダー作業・外出訓練2週間(鶴舞の里博物館)・夏のお茶会・誕生日会
9月	書道・秋の作業・レクリエーション(お手玉ビンゴ)・創作プログラム(小物入れ作り)・誕生日会
10月	運動会・カレンダー作業・レクリエーション(風船脱出ゲーム)・お菓子作り(ホットケーキ)・レクリエーション(テーブル卓球)・誕生日会
11月	外出訓練(相模原市立博物館)・カレンダー作業・忘年会作業・誕生日会
12月	レクリエーション(テーブル卓球)・創作プログラム(クリスマスカード作り)・忘年会・正月作業(干支の子年・壁飾り)
1月	正月遊び(スゴロク大会)・外出訓練(初詣)・作業(ヒンメリ作り)・餅つき・書初め・冬の作業(梅と鶯の壁飾り)・誕生日会
2月	冬のお茶会・創作プログラム(雛祭り壁掛け)・カレンダー作業・誕生日会
3月	レクリエーション(ボーリング)・創作プログラム(素敵な花の壁画)・レクリエーション(輪っか移し)・外出訓練(お花見ドライブ)・カレンダー作業・誕生日会

2019年度は、個々のADLに合わせたプログラムを行ない、作業系・運動系・脳活性化を促すレクリエーションをバランスよく提供した。

外出訓練も季節ごとに取り入れ、事故無く行なうことができ、利用者にも好評であった。夏季の外出は室内の見学であったため、熱中症など体調不良者など出すことなく安全に行なえた。

今後も、更に増加が予想される認知症の利用者への対応を更に追求すると共に、個々のニーズに幅広く対応し、充実した時間を提供できるように目指していく。同時にデイサービスの特色である広いフロアを生かしつつ、迅速なケアと援助の提供に努めていく。

5. 事 故

2019年度の事故件数 4件

事故の内容では、施設外徘徊：1件・送迎中の事故：1件・車輛事故：1件・自力移動時転倒：1件となっている。

徘徊については、ある特定の利用者のみに事故が発生している為、様々な視点を持ち対応していく。また、利用中の行動や、インシデント情報の収集を常に実施し、再発防止に努めていく。

2019年度も配慮することで防げる事故の為、職員一丸となってを引き締め、再発防止に努める。

車輛事故が1件発生しており、原因は今までの車輛事故でも多くあった、車輛走行時の後方の確認不足である。

今回は、夕方の送迎時に運転手1名での送迎であった為、添乗の職員が車輛から降りて目視する事が出来なかった。車輛にはバックモニターの設置もあったが、道を曲がり損ねてしまった事で慌て、冷静な判断が出来なかった事が大きな原因である。今後、送迎中の職員は送迎時の業務を再認識し、スキルアップに努め、安全確認を怠らないようにしていく。事故内容に対しても、デイサービスのカンファレンス等で検証し、統一ケアを図ることで年間を通して「事故0件」を目指し、職員のスキルの向上に努めていく。



コミュニティセンターピノ

2019年度の1日あたり平均利用実績は4.7人で、稼働率は39.1%となっている。

定員12名の事業所として、稼働率が極めて低く危険な運営状態となっている。職員の人事異動により運営状況の改善を図り、早急な対応・改善に最善を尽くす。

年度当初は稼働率50.0%である1日あたり平均利用実績6.0人でスタートしたが、徐々に低迷し12月が最も低い稼働率25.8%・1日あたり平均利用実績3.1人という数値で終えた。冬季に数値が低迷し、春にかけて徐々に上昇する年度であった。

しかしながら、そのようなサイクルがあったとしても、それを予測して運営する必要があるため、新規登録人数を常に増やし、臨時参加などを率先して受け入れる対応を心掛ける。

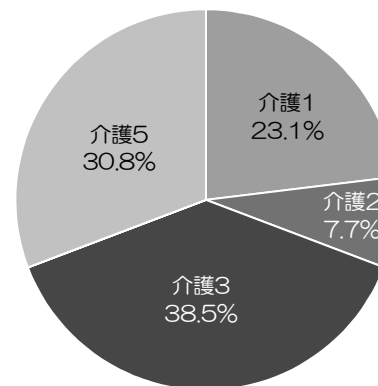
既存利用者の増回は、実績向上の最短ルートではあるが、打ち切りになった時の打撃も大きい。定員（1日12名）の中で、既存の利用者と新規利用者とのバランスのとれた登録調整が課題となってくる。

実績を向上させるには新たなサービスの創造が不可欠である。コミュニティセンターピノならではのサービスを構築し、安定した運営が求められる。

同時に、新規登録人数の確保の手段として、デイサービスセンターモモとの連携の強化は必須事項である。

1. 利用者の現況

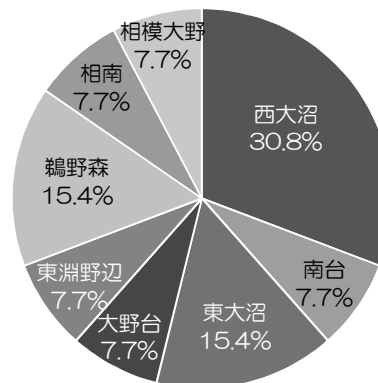
a. 介護度



要支援：0人
介護1：3人
介護2：1人
介護3：5人
介護4：0人
介護5：4人

契約数：13人
2020.03 末の登録者

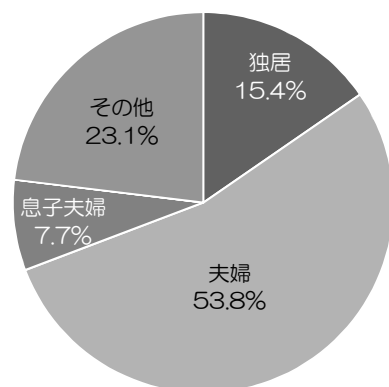
b. 地域別利用者



西大沼：4人
南台：1人
東大沼：2人
大野台：1人
東淵野辺：1人
鵜野森：2人
相南：1人
相模大野：1人

周辺地域だけでなく、遠距離の利用者も対象にしている。

c. 利用者世帯状況



独 居： 2 人
 夫 婦： 7 人
 息子夫婦： 1 人
 そ の 他： 3 人

d. ADL

単位：人

年度	トイレ		移 動			
	自立	介助	独立歩行	杖歩行	車椅子	介助
2015 年度	8	7	9	3	1	2
2016 年度	9	14	6	1	2	14
2017 年度	4	9	7	3	0	3
2018 年度	5	10	5	4	3	3
2019 年度	6	7	5	2	3	3

排泄はADLが自立であっても、当日の状態によっては介助が必要となり、実際の生活内では行動の見守りや声掛け等、何らかの関わりが必要である。

移動についても同様で認知症疾患から、季節や精神的不安定によるADLへの変化があるため、朝の送迎時の行動から来所に至るまで、また活動時間中の行動や言動を注視し、対応にあたらなくてはならない。

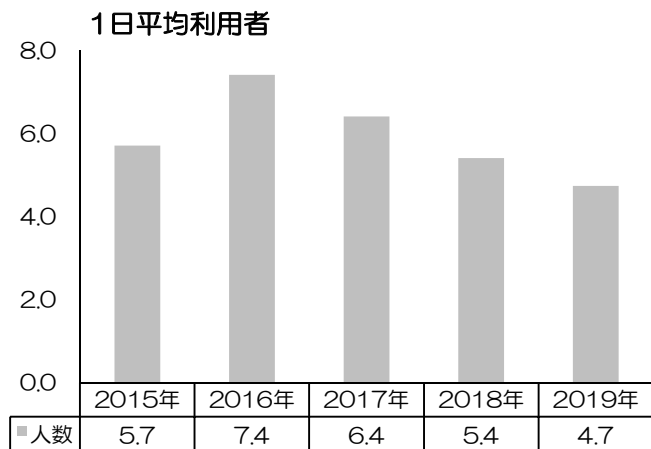
e. 疾患状況

認知症対応型通所介護の基準として、認知症の診断が利用時に必要であることから全員が該当するが、詳細は脳血管型よりも萎縮によるアルツハイマー型認知症の割合が多く、進行度合いも早いと感じられる。認知症の進行予防にも力を入れていかなければならない。

利用者世帯状況から夫婦での生活、つまり老々介護が大半を占めており、在宅生活を維持する上で重要な服薬管理等、非常に困難な点が多い。指示通りに内服管理ができないことで認知症の周辺症状が進行し、また、その他の疾患に関しても医療による成果が得られていない現状もある。

ケアマネジャーや家族、医療機関とも連携することで在宅生活継続の援助をしていかなければならない。疾患に関する最新の情報を入手、把握し、利用者が安心して穏やかに過ごせる環境を整える必要がある。

2. サービス利用状況



2019年度は、39.1%の稼働率となっている。運営状況に早急な改善が必要であり、引き続き新規獲得に努める。課題を明確にし、適切な対応（営業・増回）を、素早く行なう必要がある。

単位：人

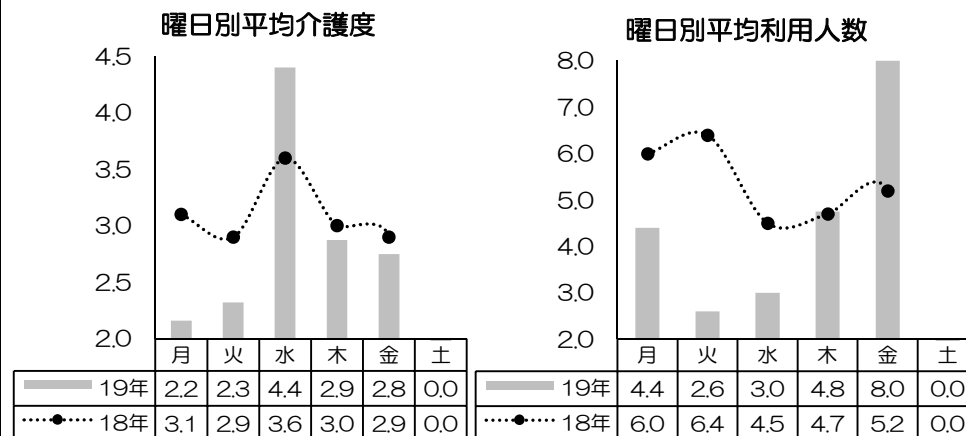
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
登録者数	192	214	230	184	178
実利用者数	1462	1910	1626	1386	1241
入浴利用者数	1179	1286	1374	1186	1018
サービス実施日数	258	257	255	256	262
1日平均利用者数	5.7	7.4	6.4	5.4	4.7

a. 月間サービス利用実績

単位：人

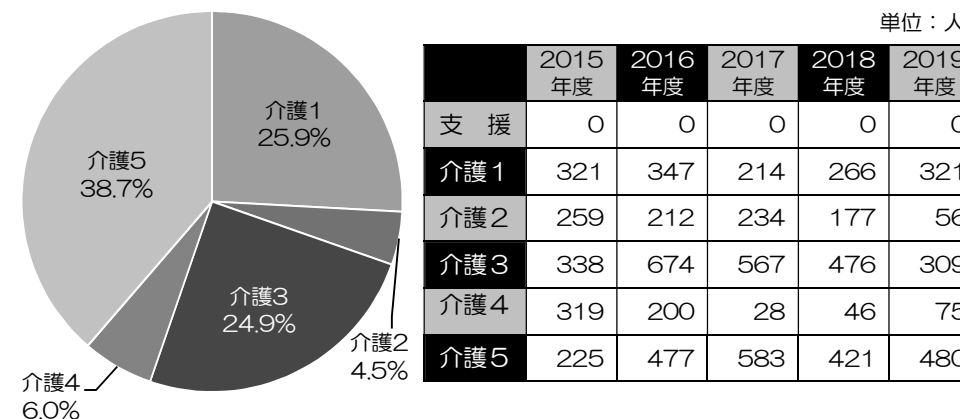
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
登録者数	15	15	16	16	17	16
実利用数	133	133	118	131	122	115
実施日数	22	23	20	23	22	21
1日平均	6.0	5.8	5.9	5.7	5.5	5.5
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
16	13	13	14	14	13	178
92	74	68	73	84	98	1241
23	21	22	23	20	22	262
4.0	3.5	3.1	3.2	4.2	4.5	4.7

b. 週間サービス利用実績



	月	火	水	木	金	土	全体
平均人数	4.4	2.6	3.0	4.8	8.0	—	4.6
登録	5	4	4	5	10	—	5.6
平均介護度	2.2	2.3	4.4	2.9	2.8	—	2.9

c. 介護度別サービス利用実績



3. 送迎状況

単位：人

通所形態	月	火	水	木	金	土	合 計
送迎車両	5	3	4	6	10	—	28
家族送迎	0	0	0	0	0	—	0
同一敷地	0	0	0	0	0	—	0
合 計	5	3	4	6	10	—	28

送迎は安全かつ合理的に行なう工夫が必要で、サービスの質を高める上で重要である。同じ顔ぶれと一緒にすることからの連帯感が、精神活動の活性化にも繋がる。家族との関わりを持つことができ、情報を得る機会となり健康管理にも重要なサービスと位置付けられる。

遠距離の利用者の割合が増えてきているのでサービス提供時間に支障の出ない送迎方法の考察等が課題となってきている。

4. 行事・プログラム

月	内 容
4月	外出訓練 誕生会 季節の作業 カラオケ
5月	外出訓練 誕生会 季節の作業 カラオケ
6月	外出訓練 誕生会 季節の作業 カラオケ
7月	外出訓練 誕生会 季節の作業 カラオケ
8月	外出訓練 誕生会 季節の作業 カラオケ
9月	外出訓練 誕生会 季節の作業 カラオケ
10月	外出訓練 誕生会 季節の作業 カラオケ
11月	外出訓練 誕生会 季節の作業 カラオケ
12月	外出訓練 誕生会 季節の作業 カラオケ
1月	外出訓練 誕生会 季節の作業 カラオケ
2月	外出訓練 誕生会 季節の作業 カラオケ
3月	外出訓練 誕生会 季節の作業 カラオケ

少人数及び認知症に特化した通所介護であるため、集団や一律に行なうプログラムではなく、利用者一人一人に向かい合いながら、本人のペースに配慮した関わりが必要である。

さらに、定員12人という規模から、外出訓練等を積極的に実施できる環境であるため、それらも考慮しながらピノ独自のプログラムを模索していく。

日々の状態変化を観察し、話を聞き入れ共感しあうことの重要性、個々にあった対応方法を考慮し、職員間でその情報を共有することを継続していく。

5. 事 故

2019年度の事故件数 4件

2019年度の事故は4件であり、職員の警戒意識、安全確保への考えを改善することで防止できる事故であったと考える。

利用者一人一人に真摯に向き合い、日々の状態を密に観察することでリスクを把握し、安心且つ安全な環境を提供できるよう努力し「事故0件」を目指す。

F_{ood} Service

栄養と調理

<モモ>

2012年9月から療養食加算を算定しているが、2020年3月時点での該当者はいない。糖尿病があっても薬でコントロールされている方には食事面でのサポートはしていないため、算定していない状況である。

今後も、既往歴や血液検査結果などから療養食へ移行するの可否かを、他職種と検討していく。

栄養ケアマネジメントにおいては、日頃から利用者の情報収集に努め、スクリーニングおよびアセスメントを行ない、問題点に関しては他職種で検討し、モニタリング行なっている。入居者の入れ替わりはあるが、2018年度と比較すると、中リスク者の割合は8%から18%と増加傾向にあった。看取りをはじめたことによって中リスク者は増えていくと考えられるが、数字だけにとらわれず、目の前の利用者に何ができるかを考えていく。

また、全身状態の低下や嚥下機能の低下が見られているため、急激な体重減少や誤嚥性肺炎などのリスクが増えてきている。長期的にみた体重の推移・日頃の状態観察を行ない、食べやすいお食事や栄養補助食品の提供と共に経過を観察していく。

口腔ケアに関しては、連携している歯科医師の助言をもとに、管理栄養士も口腔ケアに介入し、日頃から口の中の様子をチェックしている。また、給食会議時に口腔ケアのポイントについての周知も行ない、看護師からの助言も得ている。

2019年8月に実施した満足度調査（対象：特養・デイ・ケア）では、

食事の満足度（大変満足・やや満足）が59%から48%に減少している。2017年12月からの委託給食会社変更に伴い、メニューはすべて委託先の栄養士が作成しており、工場であらかじめ味付けされたものが搬入されるようになり、献立も同じような料理が多く、利用者からも不満が聞かれている。美味しい食事を召し上がって頂くためにも、委託先と相談しつつ、今後も厨房でできる限りのことは行ない、満足度の向上に努めたい。

<ピノ>

2017年4月から、委託給食会社の変更に伴い、メニューは委託先の栄養士が作成している。個々の体格に応じて、主食や副食量で調整しており、嚥下状態に合わせた嚥下食の提供を行ない、安全な食事提供に努めている。

栄養ケアマネジメントにおいては、2018年9月の実地指導結果に基づき加算の取得を取りやめ、翌10月からは栄養ケア計画書の作成も中止している。しかし、個々の栄養状態に応じて、食事内容の検討を行なっている。

認知症のため食事がなかなか進まない人や、傾眠がちな人など、要食事介助者が以前よりも増加しており、全体的にADLの低下が見受けられる。積極的な栄養アセスメントを行ない、看護師・介護士とも相談して、適切な栄養が行き届くようマネジメントしていく。

看取り介護も開始され、最期のときを無理強いせず、尊厳のある生活を営むことのできるよう、ご家族や他職種と相談しながら、栄養補助食品や水分補給ゼリー等、その方に合わせたものを提供している。

給食会議時に口腔ケアについて検討の時間を設け、口腔衛生管理体制加算の目標や歯科衛生士による助言を周知し、ユニット職員の口腔ケア意識向上に努めた。引き続き口腔ケアの重要さをユニット職員に周知し、誤嚥性肺炎の予防に努めていく。

<ナナ>

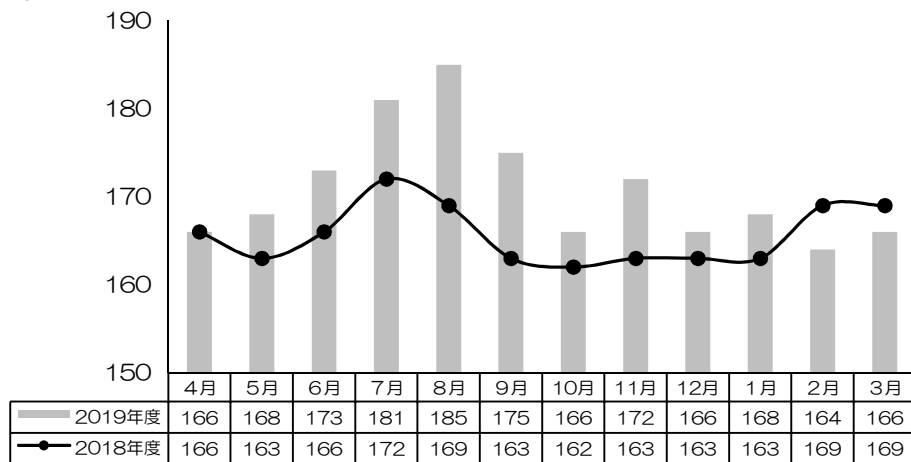
2017年4月の開設以来、クックチル方式の食事提供は変わらず。2018年と比べ入居者が変わった事もあり、食事の利用数はやや減少傾向にあり、最も利用の多い夕食で入所者全体の50～55%となっている。

利用者間のコミュニケーションの充実や個別対応の見直しを図り、喫食者の増加に繋げていけるように努力していく。

1. 食数

①特養・ショートモモ：月別1日平均食数

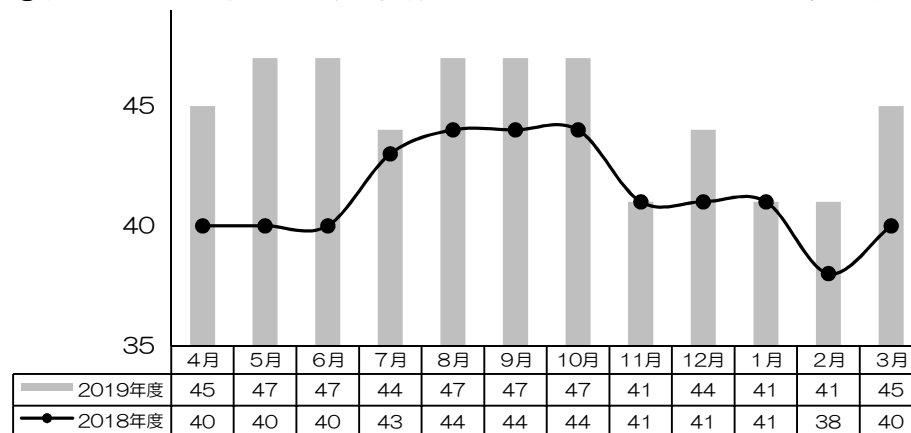
単位：食



2019年度は前年度と比較すると、前半は今年度の方が多いが、2月・3月と減少傾向にあった。2月以降、新型コロナウイルスによりショートステイの利用が減少傾向にあることも要因としてあげられる。

②ケアハウス：月別1日平均食数

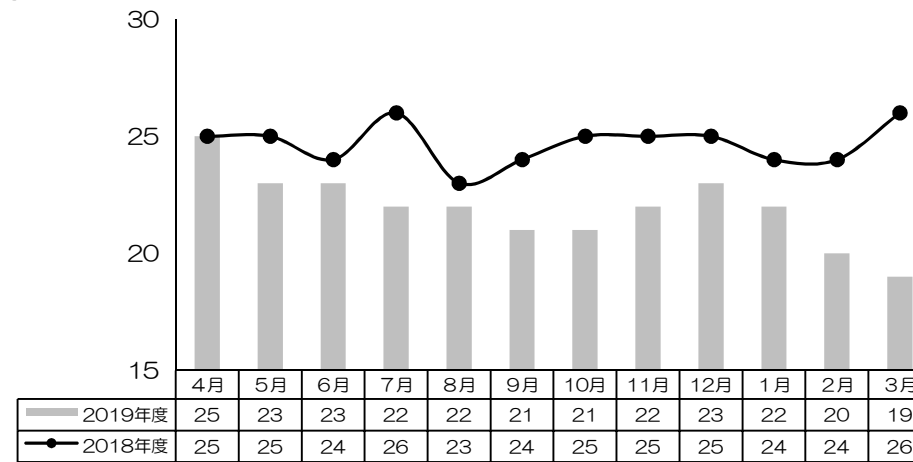
単位：食



入院された入居者の方が2名いたため、食数が減少した月があったが、2020年4月現在は満床である。

③デイサービス：月別平均食数

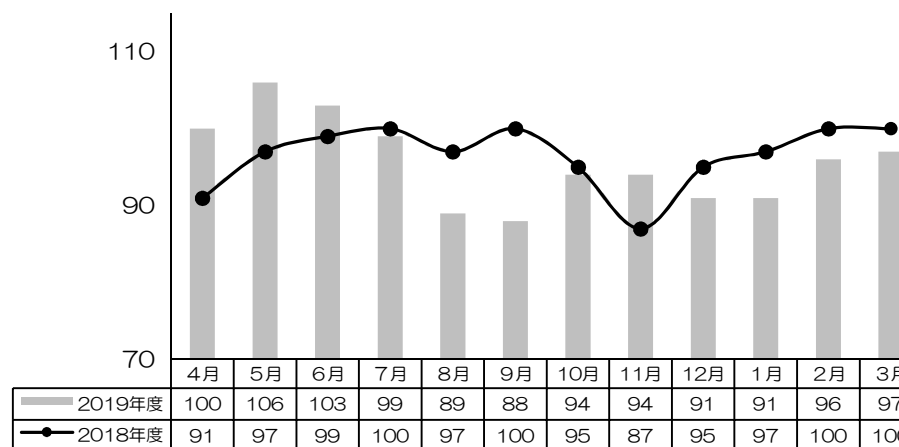
単位：食



徐々に利用者のADLの低下と利用中止が増え、新型コロナウイルスの影響もあってか、2月以降は平均が20人を下回った。

④コミュニティホーム・ショートピノ：月別1日平均食数

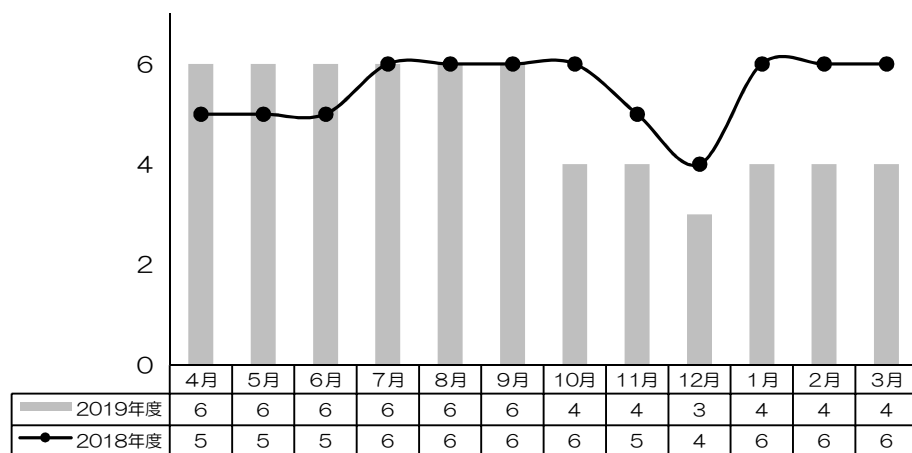
単位：食



2019年度は8月以降特養で退所者がでてしまい、食数が減少した。その後、新規の入居者が入り、90食前後で推移している。

⑤コミュニティセンター：月別平均食数

単位：食



2019年の10月から契約の打ち切りがあり、減少傾向で経過されている。

⑥その他

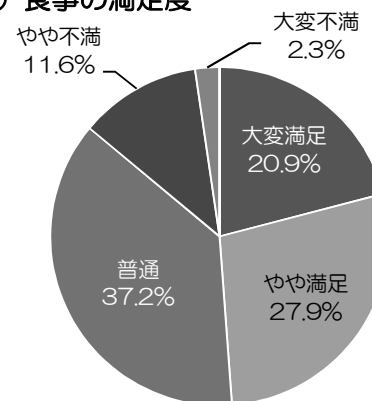
モモ・ピノの職員食が10月より値上がりになり喫食数が減少した。平均職員食数は、2020年3月でモモ8食・ピノ4食となっている。

2 満足度調査

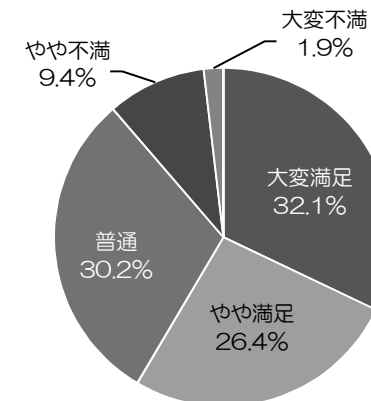
①モモ（特養・デイサービス・ケアハウス）

2019年度は、特養各フロア10名及びデイ利用者10名、ケアハウスの回答者に1回のみ調査を行なった。特養対象者はHDS-R：10点以上の者とし、デイは職員による抽出により対象者を選出した。

a) 食事の満足度

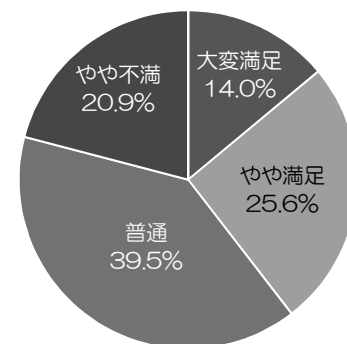


2019年8月実施

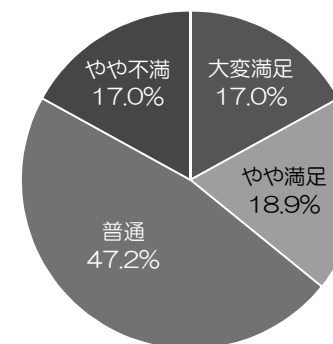


2018年8月実施

b) 食事の温度



2019年8月実施



2018年8月実施

食事の満足度は、大変満足とやや満足を含わせると2018年度が58.5%だったのに対し、2019年度は48.8%と減少傾向がみられた。

変わり映えのしないメニューに飽きているという意見や、野菜の煮浸しなのか炒め物なのかよくわからないという意見もあった。

温度に関しては、やや不満・大変不満が2018年度では17%だったのに対し、2019年度はやや不満・大変不満を含わせると20%と横ばいであり、普通と回答される方がほとんどであった。ケアハウスのみが適正の温度で提供できている状態で、温冷配膳車ではない特養やデイでは料理が冷めてしまうのが現状である。

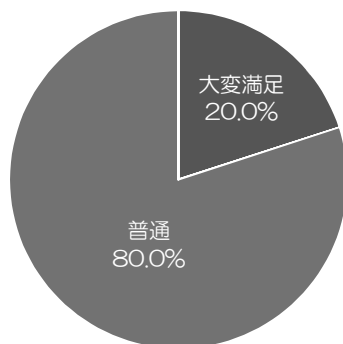
直前盛り付けなど、できることは実施しているため、今後も利用者の立場にたって適温の食事を提供できるように努力していく。

②ピノ（特養・ショートステイ・デイサービス）

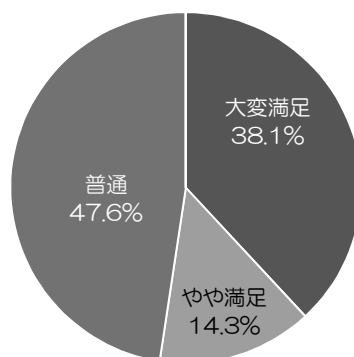
特養4名、ショートステイ3名、デイ3名に今年度は8月のみ1回調査を行なった。特養対象者はHDS-R：10点以上の者とし、ショートステイ・デイは職員による抽出により対象者を選出した。

認知症の進行のため、年々回答が難しくなっているのが事実である。そのため、年1回のみの実施となっている。

a) 食事の満足度

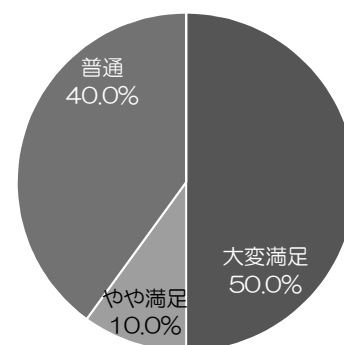


2019年8月実施

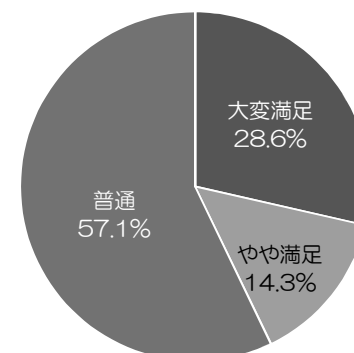


2018年8月実施

b) 食事の温度



2019年8月実施



2018年8月実施

認知症の進行のため、明確な返答が得られず、普通と回答されている方が多いことが課題としてあげられる。

温度に関しては、特養で温冷配膳を使用しているためか、不満が0%であり、今後もこの数値を維持していきたい。

3 栄養ケアマネジメント

個々の栄養状態に合わせて、食事量の調整、食事内容や栄養補助食品の検討を行ない、他職種間で相談し、マネジメントを行なっている。

①モモ

a) BMI 分布

	2019年度	2018年度
18.5 未満	13	17
18.5 以上 25 未満	23	17
25 以上	5	1

比較するため、2018年度は2018年4月から2019年3月のうち1年入居している方、2019年度は2019年4月から2020年3月のうち1年入居している方を対象とした。

全体的に見ると、BMI が標準内の方が増加傾向にあるが、看取り介護もはじまっているため、今後18.5未満の方が多くなると考えられる。

b) 血清アルブミン値

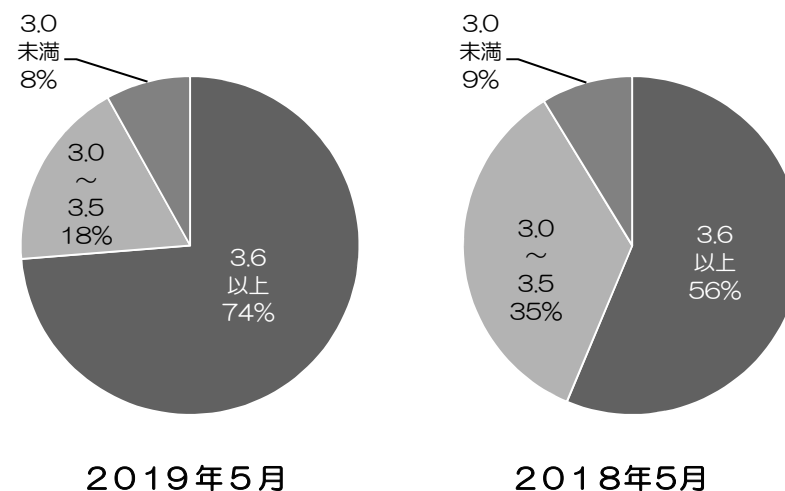
血清アルブミン値が3.6 g/dl 以上の割合は、2018年度の56%から74%と増加し、3.0~3.5 g/dl の該当者が少なくなっている。

3.0未満は2018年度と大差はないが、看取り介護がはじまっているため、今後3.0未満の該当者が増加すると考えられる。

往診時でもアルブミン値のチェックを行ない、低い人には栄養状態が改善できるか否かを他職種で検討し、改善を目指していく。

また、日常的な状態観察や、食事時の嚥下状態確認を行ない、ADL の維持に努める。

血清アルブミン値比較



c) 食事内容調整

食事内容調整の件数は全体でおよそ100件。栄養士からの発信もあるが、体調変化時には迅速な助言を看護師から得ている。

また、介護士・ケアマネジャーからも、小さな気づきから他職種で検討を行ない、安全な食事内容を提供し誤嚥事故を防いでいる。

吸引回数が多くなると食事が難しくなり、栄養補助食品のみの対応になり、看取り期の食事の在り方について、まだ試行錯誤している段階である。

内容は、嚥下状態による食事形態の変更と、体重コントロールによる食事量の変更を行なったものが大半を占める。この他、体調や歯の調子など、必要に応じて都度調整を行なった。

d) 栄養ケア計画作成

2019年度計画作成件数 213 件

2019年3月では、約85%の入居者が低リスクとなっていたが、2020年3月では84%とほぼ変わらない。新規入所があると看取り期の方が退所している結果となり、実人数増加には至らなかった。

②ピノ

a) BMI 分布

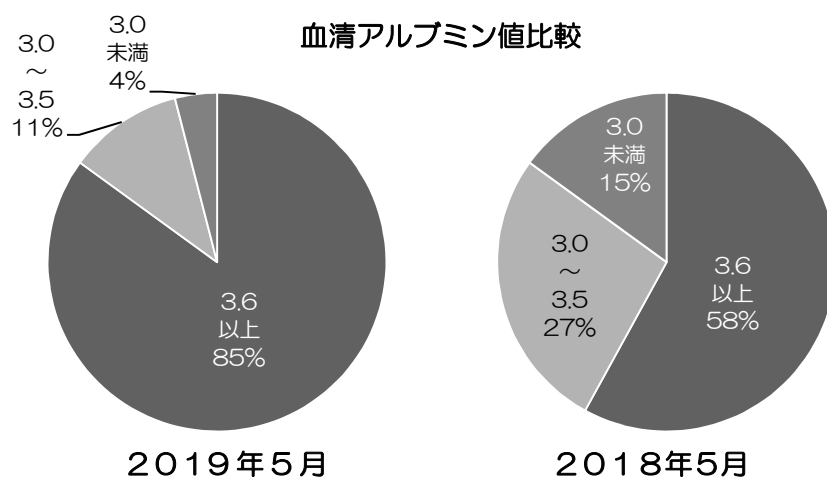
	2019年度	2018年度
18.5 未満	12	3
18.5 以上 25 未満	8	18
25 以上	1	1

比較するため、2018年度は2018年4月から2019年3月のうち1年入居している方、2019年度は2019年4月から2020年3月のうち1年入居している方を対象とした。

2018年度と比べて、18.5未満の痩せの方が増加傾向みられた。

b) 血清アルブミン値

2019年5月時点での血清アルブミン値が3.6 g/dl 以上の割合は2018年の5月と比較すると高い割合であった。3.0 g/dl 未満の割合も減少傾向みられた。往診時に定期的な採血を行なっているため、適宜アルブミン値を確認し、急激に悪化した人には食事内容の検討や栄養補助食品の付加を検討していく。低栄養リスク者が増えないよう、普段からの食事の様子を観察していきたい。



c) 食事内容調整

主に嚥下状態、歯の状態、体調に合わせて都度調整を行なった。

d) 栄養ケア計画作成

2018年9月の実地指導指摘に基づく栄養ケアマネジメント加算取り下げに伴い、計画書の作成も2018年10月から中止となっている。

4 経口摂取困難者・食事形態の変更くもも>

2019年4月より看取り介護がはじまり、栄養補助食品や食事の代替えとして半固形食を使用する頻度が増加した。

また、水分摂取では、とろみの使用もゼリーの摂取も厳しい看取り期の利用者に、まぜてもジュレを提供し、無理のない水分摂取に努めている。

とろみ・水分ゼリーのどちらが本人にとって摂取しやすいのか、適宜、検討を行ない、誤嚥性肺炎のリスクを低下させることが重要である。

加齢に伴う口腔機能や摂取・嚥下機能の低下が顕著であるため、現在の食事形態維持の為に、嚥下体操や口腔ケアを重視していく必要がある。

定期的に歯科衛生士による口腔ケアチェックを行なっていき、口腔内を清潔保持に努めていく。

5 療養食加算算定＜モモ＞

開始までの運用方法検討、献立準備を行ない、2012年9月より療養食算定を開始した。現在、該当者はいない。

食 種	対象疾患	対象人数
コレステロール制限食	脂質異常症	1名⇒0名
エネルギーコントロール食	糖尿病	1名⇒0名

（対象人数は、2019年4月と2020年4月での変更人数）

療養食でありながら食の楽しみを損なわないよう、他の利用者の食事と味や見た目が大きく変わらないように配慮していく。

対象者については、入所時または健診時の血液データや現病歴を考慮し、他職種と連携を取りながら検討していく。

6 選択食＜モモ＞

2013年度から特養入居者とショートステイ利用者、ケアハウスの全員を対象に2017年度まで選択食を実施していたが、クックチル方式のメニューだと実施が難しいため、現在は見送っている。

7 家族食事会＜モモ＞

- 対 象：誕生月の特養入居者及びその家族・成年後見人
- 対象者：49名に案内配布
- 参加された家族：22組/56名（ご案内したうち5割が参加）

参加率は2018年度と同様約5割であった。

豪華なお食事は提供できていないため、食後にカットケーキを提供し、出席される方は限られるものの、入居者及び家族・成年後見人などにはたくさんの笑顔が見られている。

また、バースデーソングを職員一同で歌い、盛り上げる努力を行なっている。家族と一緒に食事をして、思い出作りの一環のためにも、引き続き家族食事会を行なっていきたい。

しかし、2020年3月はコロナウイルス蔓延のため中止とせざるを得ない状況であり、4月以降も当面は開催を見合わせている。

8 家族同席の食事（通常）＜モモ＞

入居者の誕生月に実施している家族食事会が好評であるが、それとは別に、面会頻度が多い家族・食事時間に面会が重なる家族を対象に普段の食事を一緒に食べられる機会を作っているが、2019年度は0件となっている。各フロアへの案内掲示・利用者家族配布を引き続き継続する。

9 フロアでの調理、おやつ作り

<モモ>

2019年度のおやつレクは、すいか割り・おやつバイキング・フレンチトースト・クリスマスケーキのデコレーション・おもちつきを開催した。

すいか割りとおもちつきは両フロア合同で開催。その他はフロア別に日付を分けている。介護士不足により毎月が開催できていないが、他職種と協働し実施している。

普段は消極的な利用者も、レクの時は活気ある様子もみられている。また、普段とは異なる雰囲気笑顔が増える様子あるため、今後も積極的にレクを行なっていく。少人数ではなくできるだけ大人数で楽しめるレクを2020年度も実施していきたい。

<ピノ>

2014年度より栄養士起案でおやつレクを行なっている。2014年度では年6回、2015年度では年10回、2016年度では年8回実施した（蒸しパン、柏餅、黒糖饅頭、どら焼き、スイートポテト、クリスマスケーキ、パンケーキ、桜餅）。

2017年度以降は栄養士起案のおやつレクを実施できていないが、各ユニットで介護士と相談員中心でおやつレクを行なっている。

普段はみられないような利用者の良い笑顔が見られているため、みんなで何かを作る雰囲気や季節を感じるおやつレクを2020年度は行なっていきたい。

10 行事食

<モモ>

クックチル方式への転換による影響で、特養・ケアハウス独自の行事食は実施できておらず、デイサービスでのお楽しみ膳も中止になっている。

2019年度の敬老の日は、特養にておやつバイキングを実施。また、1月には餅つきを起案した。嚥下機能低下者が多いため、ついた餅をそのまま提供するの危険であり、介護食のおもちとお汁粉で代替えを行なったが、餅つき自体はとても喜ばれており今後も行事として検討していく。

<ピノ>

各ユニットで入居者のお祝いを行なうため、誕生膳の提供はなし。通常メニューでの食事提供を行なった。

ユニット型施設の特性を活かし、ちらし寿司などは大皿で提供し各ユニットで盛り付けるなど、見た目でも楽しんでもらうよう工夫している。

デイサービスのお楽しみ膳は提供なし。祝日も営業しているので、平日のみ行事食の提供を行なっている。

また、2013年度からデイ誕生週のうち1日だけ、手作りのケーキやデザートを提供している。普段とは違う手作り感ある物を食べて頂いているが、給食会社変更に伴い2017年度より中止とした。

2019年イベント食実施献立（上半期）

月	日	対象部署	イベント名	献立
4月	22～27日	デイ	誕生週（6日間）	ケーキ
	24日	ケア	ケア例会	ケーキ
5月	5日	特・ケ	こどもの日	オムライス、えびフライ、 クラムチャウダー、メロンゼリー
	20～25日	デイ	誕生週（6日間）	ケーキ
	22日	ケア	ケア例会	ケーキ
6月	17～22日	デイ	誕生週（6日間）	ケーキ
	26日	ケア	ケア例会	ケーキ
7月	7日	特・デ・ケ	七夕	素麺、炒め煮、和え物
	15日	特・デ・ケ	海の日膳	シーフードカレー、サラダ、フルーツ缶
	22～27日	デイ	誕生週（6日間）	ケーキ
	27日	特・デ・ケ	土用の丑の日	うな丼、塩煮、味噌汁、フルーツ缶
	31日	ケア	ケア例会	ケーキ
8月	7/29～3	デイ	おやつレク	かき氷
	9日	特	おやつレク	すいか割り
	12～17	デイ	誕生週（6日間）	ケーキ
	22日	ケア	ケア例会	かき氷
9月	9～14	デイ	誕生週（6日間）	ケーキ
	16日	特・ケ	敬老の日膳	松茸御飯、刺身、茶碗蒸し、 とうがんのくず煮、フルーツ缶
	16日	特	おやつレク	おやつバイキング
	25日	ケア	ケア例会	ケーキ

2019年度イベント食実施献立（下半期）①

月	日	部署	イベント名	献立
10月	7～12日	デイ	誕生週（6日間）	ケーキ
	7・9日	特	おやつレク	フレンチトースト
	21～25日	デイ	おやつレク	抹茶ホットケーキ
	30日	ケア	ケア例会	ケーキ
11月	18～23日	デイ	誕生週（6日間）	ケーキ
	27日	ケア	ケア例会	ケーキ
12月	9～14日	デイ	誕生週（6日間）	ケーキ
	16日	デイ	デイ忘年会	ケチャップライス、ハンバーグ、ソテー、 マンゴー缶、味噌汁、ロールケーキ
	17日	デイ	デイ忘年会	二色丼、味噌煮、和え物、清汁、 練り切り
	18日	デイ	デイ忘年会	五目釜飯、鯖の山椒やき、奈良のっぺ、 高菜炒め、味噌汁、抹茶羊羹
	19日	デイ	デイ忘年会	ゆかりごはん、肉じゃが、卵の花、 サラダ、味噌汁、練り切り
	20日	デイ	デイ忘年会	卵とじうどん、煮物、和え物、練り切り
	21日	デイ	デイ忘年会	松茸御飯、鯖の塩焼き、煮物、和え物、 豚汁、葛まんじゅう
	18・19日	特	おやつレク	クリスマスケーキ
	25日	特・ケ	クリスマス・誕生膳	オムライス、唐揚げ、スープ、プリン
	31日	特・ケ	大晦日	そば

2019年度イベント食実施献立（下半期）②

月	日	部署	イベント名	献立
1月	1日	特・ケ	元旦（おせち）	赤飯、おせち盛り合わせ、雑煮
	7日	特・ケ	七草粥	朝食：七草粥
	11日	ケア	鏡開き	おやつ：お汁粉
	13～ 18日	デイ	誕生週 （6日間）	ケーキ
	19日	特養	おやつレク	おもちつき
	29日	ケア	例会	ケーキ
2月	3日	特・ケ	節分	ちらし寿司、鰯つみれ、和え物、 茶碗蒸し
	14日	特・デ・ケ	バレンタイン	オムライス
	17～ 22日	デイ	誕生週 （6日間）	ケーキ
	26日	ケア	ケア例会	ケーキ
3月	3日	特・ケ	ひな祭り	ちらし寿司、煮物、茶碗蒸し、果物缶
	23～ 28日	デイ	誕生週 （6日間）	ケーキ
	25日	ケア	ケア例会	ケーキ



居宅サービスセンターモモ

2019年度は介護予防（要支援）委託事業の受託契約を開始してから約5年が経過し、大野中・大沼・大野台の各高齢者支援センターとの関係性を十分に深めることが出来た。予防利用者の人数が増えると同時に、大野中・大沼・大野台以外の大野南・上鶴間高齢者支援センターとの連携が取れるようになってきている。特に大野南包括からの新規依頼が頻繁に見られ、定員の安定に繋げることが出来た。介護予防委託事業の受託契約を継続したことで、これから大きな課題となる2025年問題を迎えるにあたり、地域包括ケアシステムの導入への準備をすることが出来た。今後は、実績維持・向上のために東林や相模台方面などの高齢者支援センターも視野に入れて、南区全体に受託範囲の拡大を図っていく。

年度中に女性ケアマネジャーが退職してしまったことで、2019年12月から2人体制となり、今後も3人目のケアマネジャーを受け入れていく方向で特定事業所加算等の取得が出来るように調整していく。

ケアマネジャーが2人体制になったが、引き続き、利用者や各事業所との関わりの幅を広げ、土曜日・祝日営業を行ない、日曜日以外はケアマネジャーに相談・連絡調整が出来る安心感やサービス調整の効率化などを図り、サービスの質の向上につなげていく。

認定調査に関しては月平均6件前後で実施できている。介護報酬以外の収入源であるため、今後も積極的に行なっていく。

1. 利用者の推移

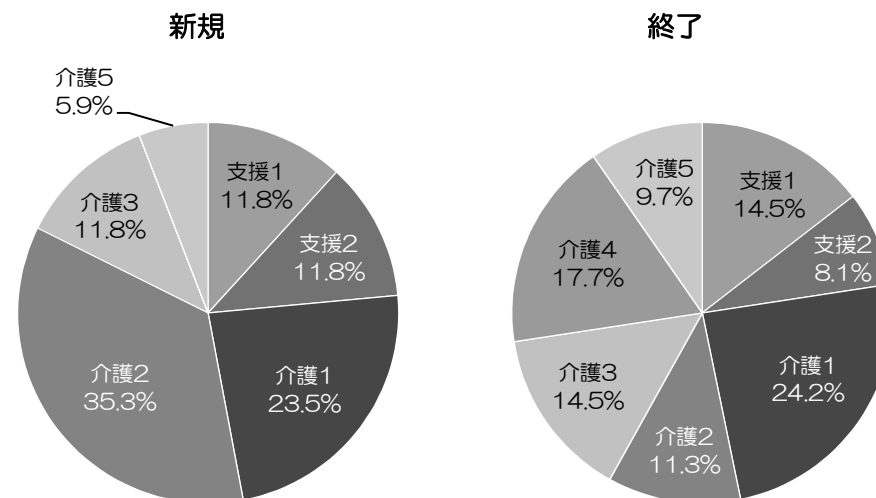
a. 月毎の新規契約・支援終了者

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規契約 17名	0 (3)	1 (3)	1 (3)	2 (6)	2 (6)	1 (7)	2 (3)	0 (1)	2 (5)	1 (3)	0 (7)	5 (16)
支援終了 62名	5 (1)	2 (7)	3 (5)	1 (2)	2 (3)	2 (5)	6 (1)	30 (3)	3 (3)	2 (2)	3 (5)	3 (2)

※（ ）内は前年度数値

b. 介護度別構成



単位：人

介護度	事業対象	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	平均
新規	0 (0)	2 (9)	2 (15)	4 (16)	6 (12)	2 (3)	0 (6)	1 (2)	1.41 (1.37)
終了	0 (0)	9 (3)	5 (5)	15 (4)	7 (9)	9 (3)	11 (11)	6 (4)	2.17 (2.46)

※（ ）内は前年度数値 / 平均：要支援1=0.25・要支援2=0.50 換算で算出

c. 新規依頼経路

単位：人

経路	男性	女性	合計
直近地域包括	2	2	4
その他地域包括	4	6	10
市担当課	0	0	0
病院 MSW 等	0	0	0
他居宅	0	1	1
他事業所	0	0	0
配偶者等を担当	0	0	0
知人紹介	0	0	0
自己検索	0	1	1
その他	0	1	1
合計	6	11	17

地域包括：直近地域包括が多いがその他包括からの依頼が多くなっている

※次年度以降も地域包括支援センターとの連携は重要である

d. 支援終了理由

単位：人

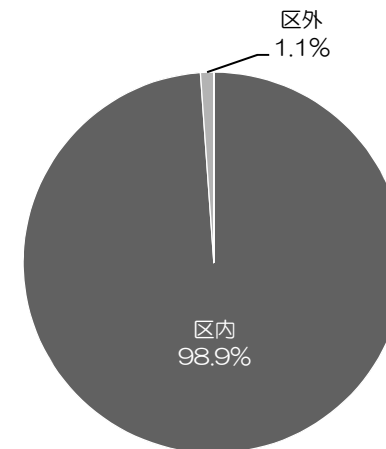
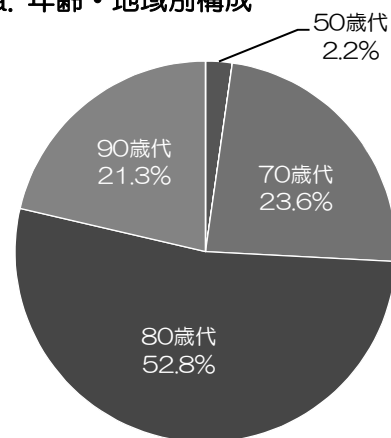
理由	男性	女性	合計
死亡	2	4	6
認定「自立」	0	0	0
認定「要支援」	0	0	0
施設入所	4	11	15
利用者解約	1	1	2
事業所解約	0	0	0
その他	13	26	38
合計	20	42	62

⇒併設特養入所は 4 名

2. 現員者の状況

※2020.03.31 登録者：89 名に対する値

a. 年齢・地域別構成



●年齢構成 単位：人（延べ） / （ ）内は前年度数

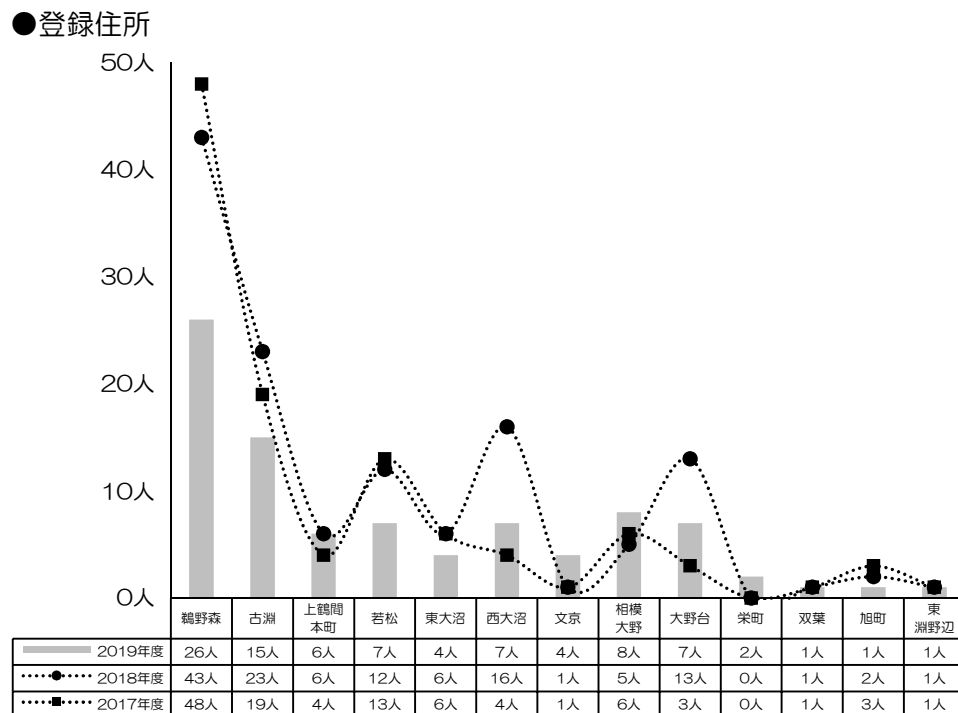
	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計
男性	1 (1)	0 (0)	11 (20)	19 (22)	6 (7)	0 (0)	37 (50)
女性	1 (1)	0 (2)	9 (15)	29 (37)	13 (25)	0 (1)	52 (79)
全体	2 (2)	0 (0)	20 (35)	48 (59)	19 (32)	0 (1)	89 (129)
二 号	0 (0)	0 (0)					0 (0)

●地域 単位：人（延べ）

地域	男性	女性	合計
相模原市南区	38 (50)	50 (78)	88 (128)
区外	0 (0)	1 (1)	1 (1)
市外	0 (0)	0 (0)	0 (0)
県外	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	38 (50)	51 (79)	89 (129)

	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男性	96歳 5ヶ月 (98歳 01ヶ月)	53歳 2ヶ月 (52歳 02ヶ月)	82.79歳 (79.08歳)
女性	97歳 8ヶ月 (100歳 02ヶ月)	56歳 2ヶ月 (55歳 02ヶ月)	84.77歳 (84.18歳)
全体	97歳 8ヶ月 (100歳 02ヶ月)	53歳 2ヶ月 (52歳 02ヶ月)	83.93歳 (84.08歳)

※（ ）内は前年度数値



2019年度もほぼ「南区」の方が対象となった。

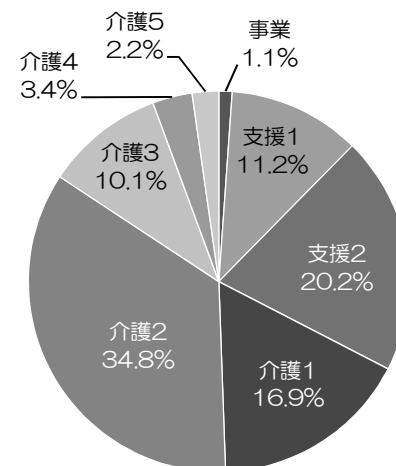
鶴野森 = 29.21%

古淵 = 16.85%

上鶴間本町 = 6.74%

上記3地区（法人事業展開エリア）で52.81%の割合を占めている。

b. 介護度別構成



- ① 事業対象者/要支援1・2合計
29人 (32.58%)
- ② 要介護1・2合計
46人 (51.69%)
- ③ 要介護3・4・5合計
14人 (15.73%)

介護報酬増加の観点からも、上記③の割合を増加させたいところではあるが、終了者（後述）ではこの割合が逆転することから、軽介護度者の受入れは避ける事が出来ない実情がある。

単位：人

介護度	事業対象	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	平均
男性	1 (1)	5 (6)	6 (6)	7 (9)	14 (18)	4 (4)	1 (5)	0 (1)	1.38 (1.68)
女性	0 (0)	5 (10)	13 (14)	8 (21)	17 (19)	5 (6)	2 (5)	2 (4)	1.48 (1.52)
合計	1 (1)	10 (16)	19 (20)	15 (30)	31 (37)	9 (10)	3 (10)	2 (5)	1.44 (1.58)

※（ ）内は前年度数値 / 平均：要支援1=0.25・要支援2=0.50換算で算出

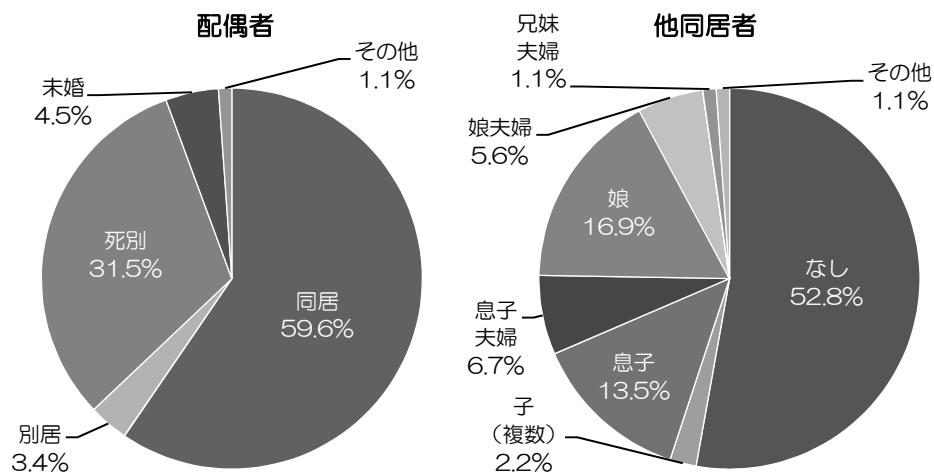
c. 介護保険負担限度額認定

単位：人

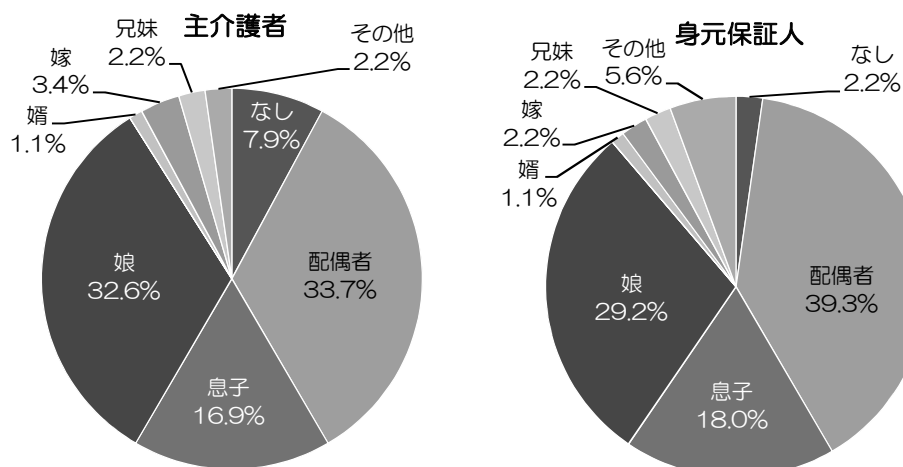
第一段階	第二段階	第三段階	第四段階 (含：未申請)	合計
0 (0)	0 (0)	1 (1)	88 (128)	89 (129)

※（ ）内は前年度数値

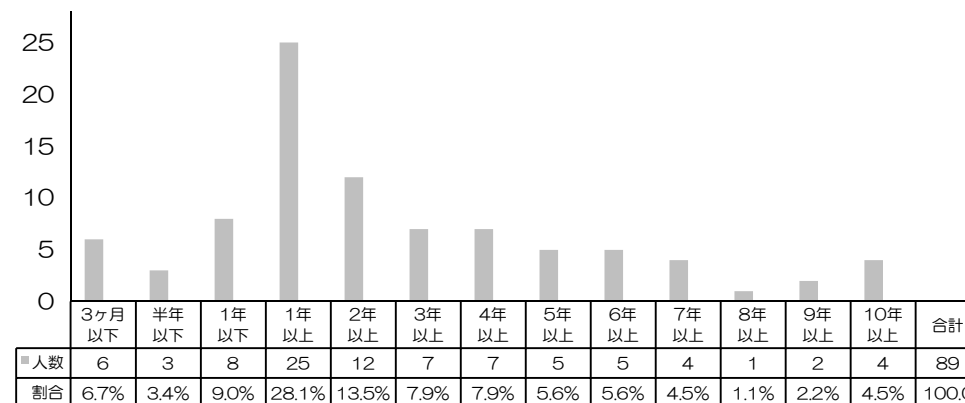
d. 世帯構成



e. 本人支援状況



f. 利用期間



g. 認知症の状況

単位：人

基準	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	不明	合計
男性	12	9	2	5	4	1	1	0	0	34
女性	15	10	4	6	4	2	4	0	0	45
合計	27	19	6	11	8	3	5	0	0	79

※認定調査票・主事意見書取得申請中者を除く

h. 日常生活動作状況

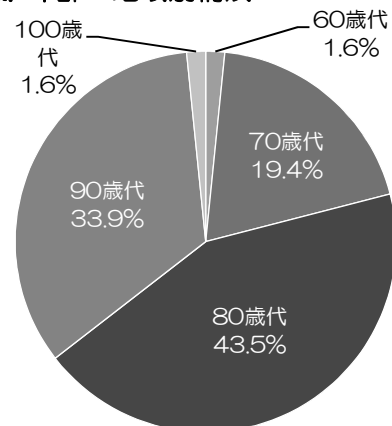
単位：人

基準	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明	合計
男性	2	3	8	9	6	4	2	0	0	0	34
女性	4	1	15	7	10	3	4	1	0	0	45
合計	6	4	18	16	16	7	6	1	0	0	79

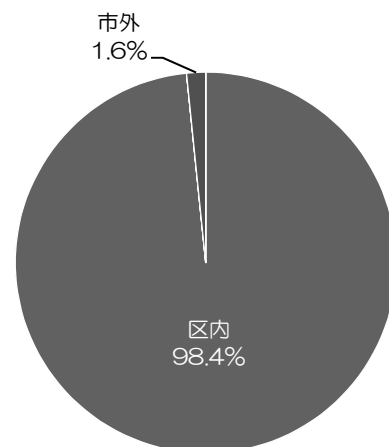
※認定調査票・主事意見書取得申請中者を除く

3. 終了者の状況

a. 年齢・地域別構成



※2019年度終了者：62名に対する値



●年齢構成 単位：人（延べ） / （ ）内は前年度数

	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計
男性	0 (0)	1 (2)	6 (2)	9 (8)	4 (4)	0 (0)	20 (16)
女性	0 (0)	0 (1)	6 (7)	18 (11)	17 (4)	1 (0)	42 (23)
全体	0 (0)	1 (3)	12 (9)	27 (19)	21 (8)	1 (0)	62 (39)
二 号	0 (0)	0 (0)					0 (0)

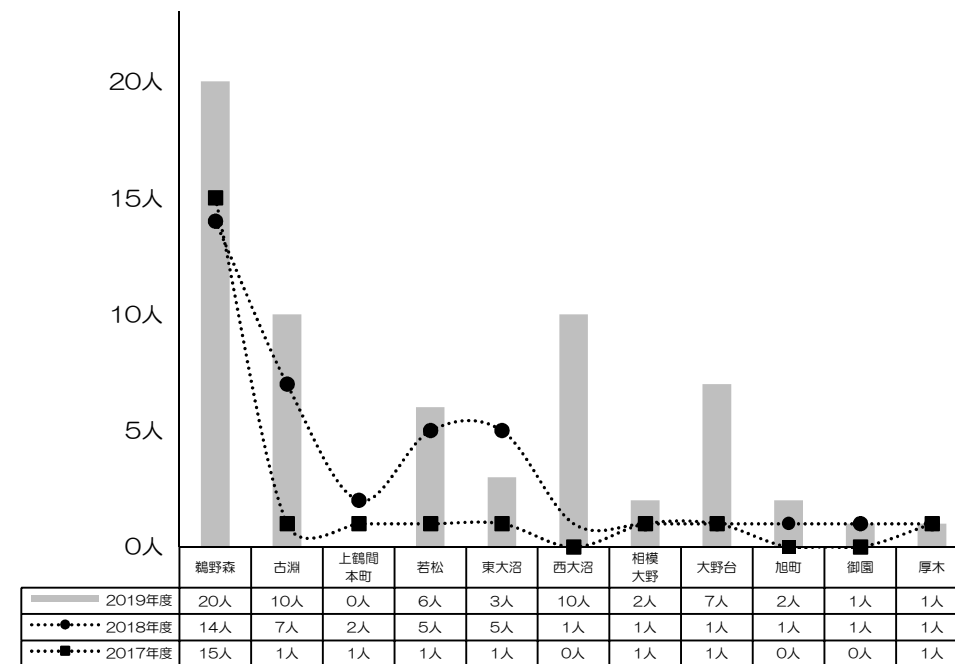
●地域 単位：人（延べ）

地域	男性	女性	合計
相模原市南区	20 (16)	41 (23)	61 (39)
区外	0 (0)	0 (0)	0 (0)
市外	0 (0)	1 (0)	1 (0)
県外	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	20 (16)	42 (23)	62 (39)

	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男性	98歳 4ヶ月 (96歳 4ヶ月)	66歳 6ヶ月 (63歳 2ヶ月)	81.74歳 (82.38歳)
女性	100歳 4ヶ月 (96歳 6ヶ月)	73歳 6ヶ月 (70歳 6ヶ月)	87.50歳 (83.56歳)
全体	100歳 4ヶ月 (96歳 6ヶ月)	66歳 6ヶ月 (63歳 2ヶ月)	85.70歳 (83.06歳)

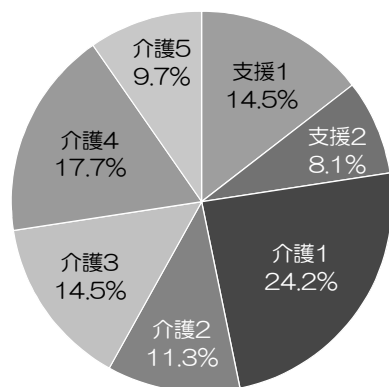
※解約日当日の年齢 / （ ）内は前年度数値

●登録住所



終了者は「南区在住」の方で61名、「厚木市在住」の方で1名。

b. 介護度別構成



① 事業対象者/要支援 1・2 合計

14 人 (22.58%)

② 要介護 1・2 合計

22 人 (35.48%)

③ 要介護 3・4・5 合計

26 人 (41.94%)

ケアマネジャーの退職に伴い、
要支援 1・2 (10 人)、要介護 (15 人) の終了者となる。

うち要介護 5 人は同法人のナナ
へ引き継ぎを行なう。

単位：人

介護度	事業 対象	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	平均
男 性	0 (0)	4 (3)	0 (1)	3 (0)	4 (4)	1 (0)	7 (6)	1 (2)	2.51 (2.68)
女 性	0 (0)	5 (0)	5 (4)	12 (4)	3 (5)	8 (3)	4 (5)	5 (2)	2.01 (2.31)
合 計	0 (0)	9 (3)	5 (5)	15 (4)	7 (9)	9 (3)	11 (11)	6 (4)	2.17 (2.46)

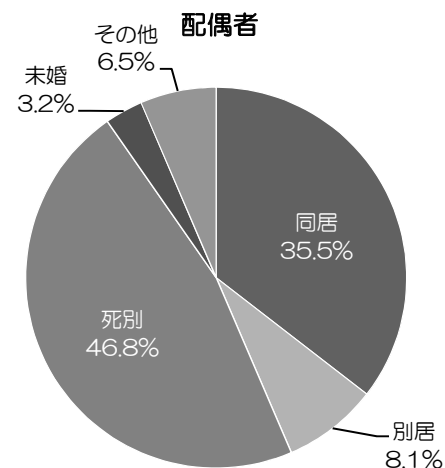
※ () 内は前年度数値 / 平均：要支援 1=0.25・要支援 2=0.50 換算で算出

c. 介護保険負担限度額認定

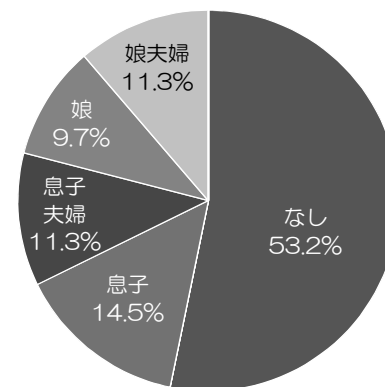
単位：人

第一段階	第二段階	第三段階	第四段階 (含：未申請)	合計
0 (0)	0 (1)	0 (1)	62 (37)	62 (39)

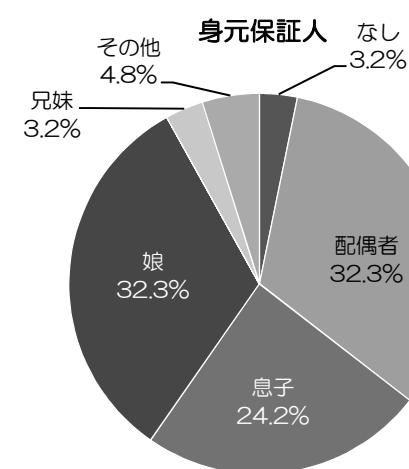
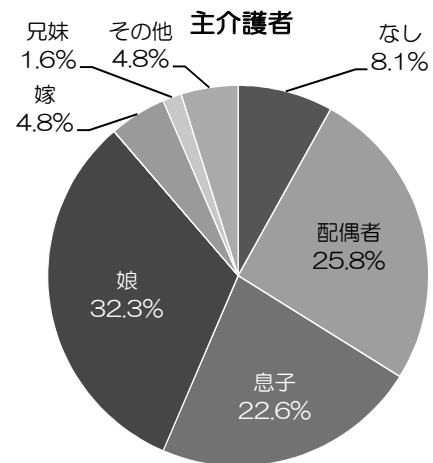
d. 世帯構成



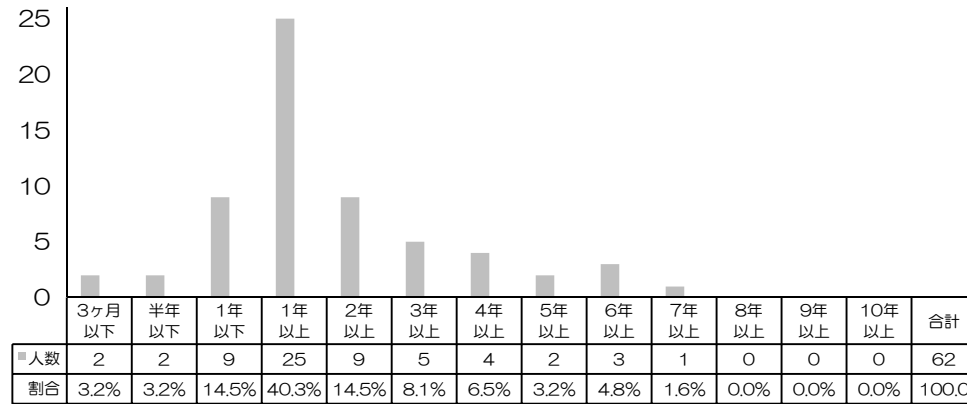
他同居者



e. 本人支援状況



f. 利用期間



g. 認知症の状況

単位：人

基準	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	不明	合計
男性	5	1	1	5	2	1	1	1	3	19
女性	13	3	5	6	7	1	3	0	4	42
合計	18	4	6	11	9	2	4	1	7	62

h. 日常生活動作状況

単位：人

基準	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明	合計
男性	0	1	5	1	5	1	3	1	0	3	19
女性	2	3	8	10	10	5	0	0	0	4	42
合計	2	4	13	11	15	6	3	1	0	7	62

4. 介護サービス展開状況

※2019年度利用者延べ：168名に対する値

a. ケアプラン（居宅サービス計画書）作成

単位：件

職員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A	10	11	3	4	3	4	4	2	2	5	5	4	57
B	6	8	5	8	5	9	4	7	5	4	8	5	74
C	3	4	1	0	1	1	0	0	0	—	—	—	10
合計	19	23	9	12	9	14	8	9	7	9	13	9	141

b. サービス担当者会議

単位：回

職員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A	10	11	3	4	3	4	4	2	2	5	5	4	57
B	6	8	5	8	5	9	4	7	5	4	8	5	74
C	3	4	1	0	1	1	0	0	0	—	—	—	10
合計	19	23	9	12	9	14	8	9	7	9	13	9	141

c. 関連事業所

単位：事業所（数）

	通所介護	福祉用具	訪問介護	短期入居	訪問看護	通所リハ	訪問入浴
事業所	44	22	23	11	12	4	3

d. 個人別契約事業所

単位：人

	利用なし	1 事業所	2 事業所	3 事業所	4 事業所	5 事業所超
事業	0	1	0	1	0	0
支援1	6	7	6	0	0	0
支援2	4	10	5	2	2	0
介護1	13	7	5	4	1	0
介護2	4	6	13	8	5	2
介護3	2	2	3	5	5	1
介護4	5	0	1	5	1	2
介護5	0	2	1	3	2	0
合 計	34	35	34	27	16	5

e. 複数サービス利用

単位：人

	利用なし	1 種類	2 種類	3 種類	4 種類	5 種類超
事業		1	0	0	0	0
支援1	6	7	6	0	0	0
支援2	4	11	4	3	1	0
介護1	13	7	5	5	0	0
介護2	4	9	12	9	4	0
介護3	2	2	3	10	1	0
介護4	5	0	1	5	3	0
介護5	0	2	1	4	1	0
合 計	34	39	32	36	10	0

f. 自法人併設サービス利用（契約数）

単位：人

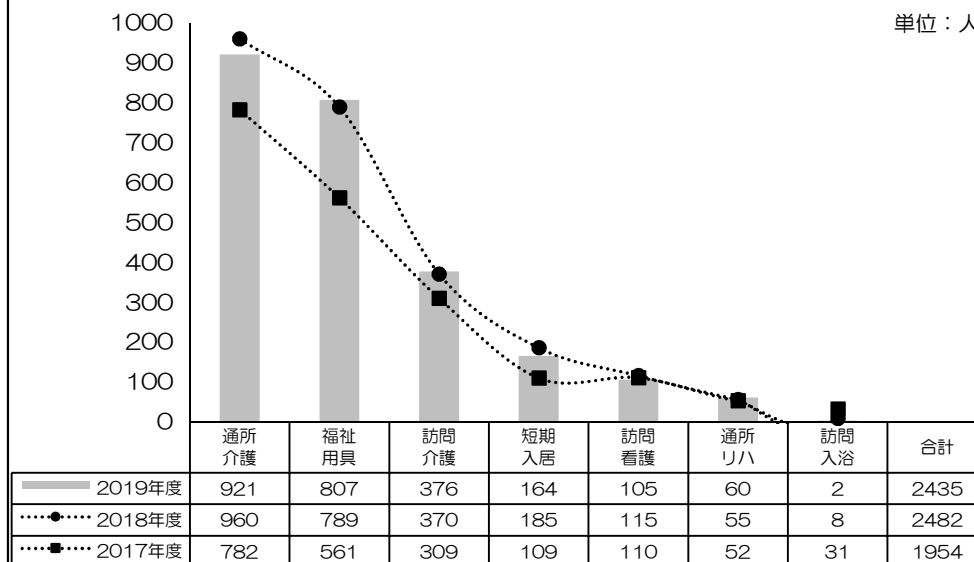
施 設	MOMO						PINO			
	特養		SS	DS	ケア		特養		SS	DS
	申	入			申	入	申	入		
2017 年度	8	0	7	29	1	3	2	0	4	3
2018 年度	7	3	9	29	2	2	2	1	8	4
2019 年度	6	4	7	25	2	2	2	1	5	1

※申＝入居申込のみ

※入＝入居（特養の場合はそれを理由に契約終了となった者）

g. 種類別サービス利用件数

単位：人



h. 月別サービス利用

単位：人

種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	88	88	88	85	83	86	84	79	62	61	61	56	921
福祉用具	78	76	75	74	72	74	75	71	56	53	52	51	807
訪問介護	37	37	35	35	32	32	31	30	26	27	26	28	376
短期入居	14	18	18	14	17	14	17	13	13	9	9	8	164
訪問看護	12	10	8	8	9	8	9	8	7	8	8	10	105
通所リハ	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
訪問入浴	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
住宅改修	0	2	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	6

i. 介護度別サービス利用

単位：人（延べ）

種 類	事業 対象	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計
通所介護	12	114	144	196	260	103	60	21	910
福祉用具	0	86	158	94	228	132	68	41	807
訪問介護	0	15	66	67	172	26	24	0	370
短期入居	0	0	1	25	42	51	28	18	165
訪問看護	0	0	0	45	39	9	7	5	105
通所リハ	0	0	12	0	47	1	0	0	60
訪問入浴	0	0	0	0	2	0	0	0	2
住宅改修	0	1	1	1	1	2	0	0	6

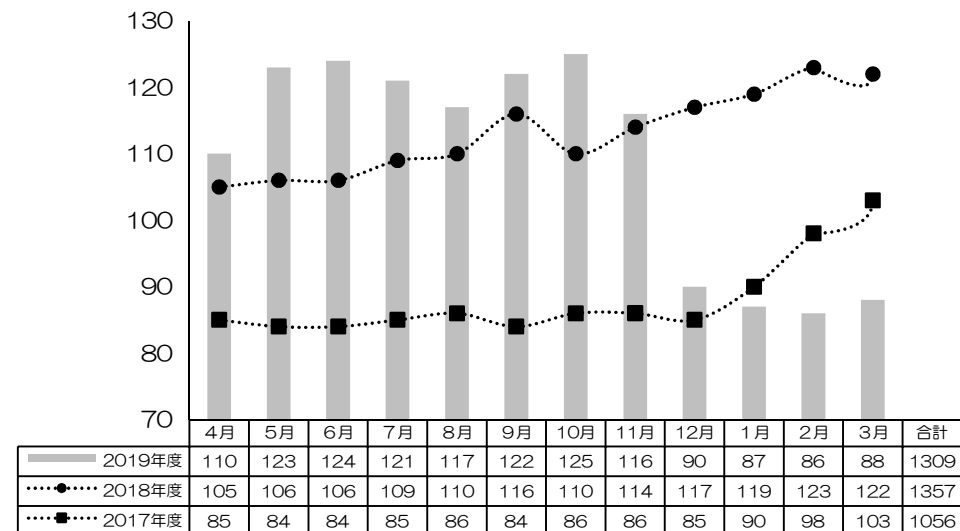
j. 福祉用具品目別利用傾向

単位：人（延べ）

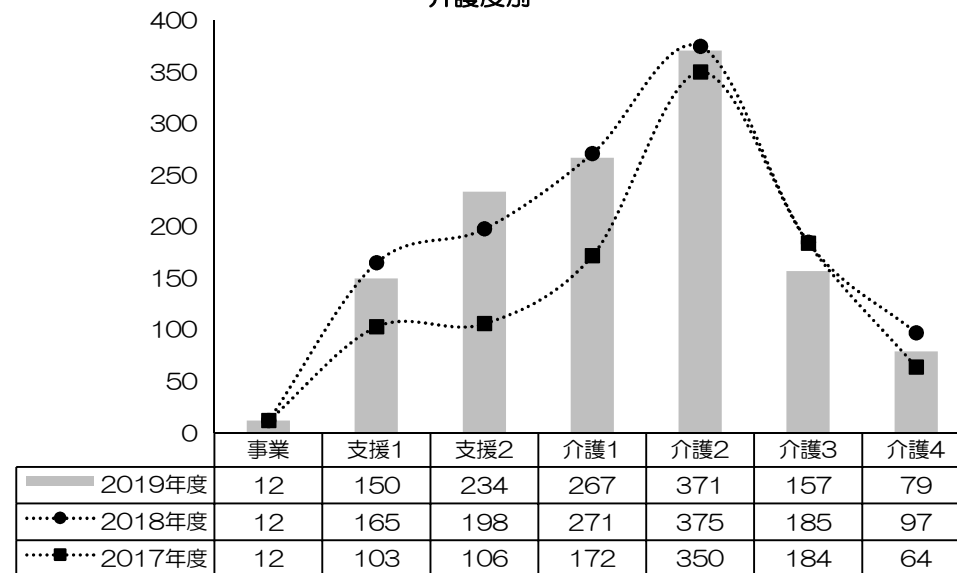
品 目	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
車いす	0	24	0	72	20	48	24	188
車いす附属品	0	0	0	0	0	0	0	0
特殊寝台	16	24	40	120	112	80	40	432
特殊寝台附属品	16	24	40	132	112	80	40	444
床ずれ防止用具	0	0	0	0	0	0	16	16
体位変換器	0	0	0	0	0	4	0	4
手すり	48	40	64	124	28	24	44	372
スロープ	0	0	0	0	0	28	0	28
歩行器	32	64	0	104	40	12	8	260
歩行補助つえ	0	12	0	36	32	4	0	84
徘徊感知機器	0	0	0	0	12	4	0	16
移動用リフト	0	0	0	4	12	0	20	36
自動排泄処理装置	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	112	188	144	592	368	284	192	1880

k. 給付管理実績

月別



介護度別



自法人併設サービス別（利用実績単位数）

施設/月	4月	5月	6月	7月	第 一 期
DSモモ	217,492	176,888	163,731	174,688	732,799
SSモモ	22,686	45,288	51,354	67,372	186,700
DSピノ	75,611	72,885	61,308	63,496	273,300
SSピノ	20,600	51,720	47,230	7,360	126,910
合 計	336,389	346,781	323,623	312,916	1,319,709
施設/月	8月	9月	10月	11月	第 二 期
DSモモ	162,419	152,158	168,804	171,543	654,924
SSモモ	80,667	50,438	71,280	96,760	299,145
DSピノ	57,256	54,542	21,252	7,943	140,993
SSピノ	11,235	5,148	16,531	3,664	36,578
合 計	311,577	262,286	277,867	279,910	1,131,640
施設/月	12月	1月	2月	3月	第 三 期
DSモモ	153,451	148,890	154,440	150,798	607,579
SSモモ	68,314	66,944	57,750	42,228	235,236
DSピノ	7,943	9,192	9,192	12,639	38,966
SSピノ	2,437	0	0	2,621	5,058
合 計	232,145	225,026	221,382	208,286	886,839

施 設	年度合計	年度月平均
DSモモ	1,995,302 単位 (×10.54 円)	166,275 単位 (×10.54 円)
SSモモ	721,081 単位 (×10.66 円)	60,090 単位 (×10.66 円)
DSピノ	453,259 単位 (×10.66 円)	37,771 単位 (×10.66 円)
SSピノ	168,546 単位 (×10.66 円)	14,045 単位 (×10.66 円)
合 計	3,338,188 単位	278,181 単位

●DS モモの実績減少傾向はケアマネ退職による影響が大きい。

SS モモは伸びしろがあり、波はあるが今後に期待していく。

ピノがDS・SSとも安定していないので、施設外の垣根を越えて実績向上に繋げていけるように調整していく。

1. 緊急一時サービス利用

単位：人

	男性	女性	合計
2017年度	0	0	0
2018年度	0	0	0
2019年度	0	0	0

※月毎の申請件数は後述「8. 代行申請」項参照

m. 住宅改修実施

単位：人

	男性	女性	合計
2017年度	6	4	10
2018年度	4	8	12
2019年度	4	2	6

5. 苦情

2019年度の苦情は0件

6. 相談

新規受け入れ相談は、ほぼ全て受諾。

その他に大きな相談/支援実施は無し。

7. 認定調査

a. 実施数

単位：人

	男性	女性	合計	前年比
2017年度	29	54	83	129.7%
2018年度	45	65	110	132.5%
2019年度	29	45	74	67.3%

b. 依頼保険者

単位：人

	県外	市外	市内	合計
2017年度	0	0	83	83
2018年度	0	0	110	110
2019年度	0	0	74	74

c. 月毎の実施状況

単位：人

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在 宅	7	2	5	0	1	0	8	0	6	6	3	4
施 設	1	3	0	0	8	8	0	5	2	2	2	1
合 計	8	5	5	0	9	8	8	5	8	8	5	5
内 訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自己担当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相模原市	8	5	5	0	9	8	8	5	8	8	5	5
市外依頼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県外依頼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※公平性・中立性を保つ為、2018年度も引き続き自事業所利用者の調査は行なわぬ事とした。

d. 実施者プロフィール

単位：人

介護度	性別	年 齢（ ●●歳代 ）							割合（％）
		50	60	70	80	90	100	合計	
支援1	男性	0	0	2	2	0	0	4	14.9
	女性	0	0	1	5	1	0	7	
	合計	0	0	3	7	1	0	11	
支援2	男性	1	0	4	3	1	0	9	25.7
	女性	1	0	2	7	0	0	10	
	合計	2	0	6	10	1	0	19	
介護1	男性	0	0	2	6	1	0	9	16.2
	女性	0	0	1	2	0	0	3	
	合計	0	0	3	8	1	0	12	
介護2	男性	0	0	1	0	0	0	1	10.8
	女性	0	0	1	6	0	0	7	
	合計	0	0	2	6	0	0	8	
介護3	男性	0	0	0	0	0	0	0	4.1
	女性	0	0	1	2	0	0	3	
	合計	0	0	1	2	0	0	3	
介護4	男性	0	0	2	2	1	0	5	17.6
	女性	0	0	1	6	1	0	8	
	合計	0	0	3	8	2	0	13	
介護5	男性	0	0	0	0	1	0	1	10.8
	女性	0	0	0	4	3	0	7	
	合計	0	0	0	4	4	0	8	
合計	男性	1	0	11	13	4	0	29	
	女性	1	0	7	32	5	0	45	
	合計	2	0	18	45	9	0	74	
割 合（％）		2.7	0.0	24.3	60.8	12.2	0.0		

8. 代行申請

a. 介護保険認定

単位：人（延）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
更新	5	4	6	2	4	5	6	4	3	6	2	4
区変	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	4	6	2	4	5	6	4	3	6	2	5
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内訳												
自己担当	6	4	6	2	4	5	6	4	3	6	2	5
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※男性 25 名・女性：28 名・合計：53 名

b. 負担限度額認定

単位：人（延）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
更新	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
再発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
再申	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内訳												
自己担当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※男性：0 名・女性：0 名・合計：0 名

以下は相模原市独自事業

c. 緊急一時入所利用

単位：人（延）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2～4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5～7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※男性：0 名・女性：0 名・合計：0 名

d. 紙おむつ支給

単位：人（延）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自己担当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※男性：0 名・女性：0 名・合計：0 名

※介3：0 名・介4：0 名・介5：0 名

e. 高齢者等移送サービス

単位：人（延）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自己担当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※男性：0 名・女性：0 名・合計：0 名

※介3：0 名・介4：0 名・介5：0 名



ケアステーションナナ

2018年度にそれまでの訪問介護から居宅介護支援への事業変更となり、同年9月に管理者兼ケアマネジャー1人体制でのスタートとなった。

定員を安定させるため、大野中・大沼・大野台の各高齢者支援センターへの挨拶回から新規依頼の獲得に繋がり、2019年度は特に大野中高齢者支援センターからの新規依頼が頻繁に寄せられた。

介護予防（要支援）委託事業の受託契約も積極的に受け入れをしており、大野中・大沼・大野台・上鶴間・大野南の各高齢者支援センターから、徐々に介護予防（要支援）利用者の人数が増えてきており、各地域包括との連携が取れるようになってきている。「介護予防・日常生活支援総合事業」を受け入れできるという、実績を積むことも出来た。

既に稼働率は安定して90%超となっており、今後は実績維持・向上のために各高齢者支援センターとの連携と受託範囲の拡大を図っていくが、フレイグラントオーリーブナナの入居者を優先的に受託・担当していく方針は継続していく。

1. 利用者の推移

a. 月毎の新規契約・支援終了者

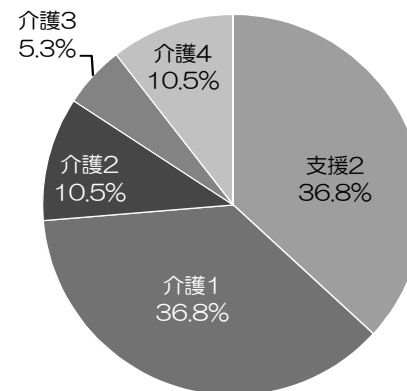
単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規契約 19名	3 (0)	3 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	1 (1)	0 (2)	0 (5)	5 (5)	1 (7)	0 (6)	0 (5)
支援終了 11名	3 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (1)

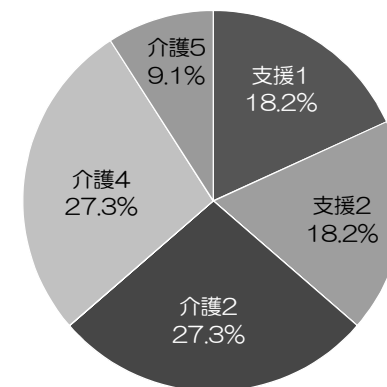
※（ ）内は前年度数値

b. 介護度別構成

新規



終了



単位：人

介護度	事業 対象	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	平均
新 規	0 (0)	0 (5)	6 (8)	8 (7)	2 (6)	1 (0)	2 (4)	0 (1)	1.18 (1.31)
終 了	0 (0)	2 (0)	2 (1)	1 (1)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	2.13 (0.75)

※（ ）内は前年度数値 / 平均：要支援1=0.25・要支援2=0.50 換算で算出

c. 新規依頼経路

単位：人

経路	男性	女性	合計
直近地域包括	0	6	6
その他地域包括	5	3	8
市担当課	0	0	0
病院 MSW 等	0	0	0
他居宅	1	4	5
他事業所	0	0	0
配偶者等を担当	0	0	0
知人紹介	0	0	0
自己検索	0	0	0
その他	0	0	0
合計	6	13	19

地域包括：直近地域包括が多いがその他包括からの依頼も多かった。

※次年度以降も地域包括支援センターとの連携は重要である

d. 支援終了理由

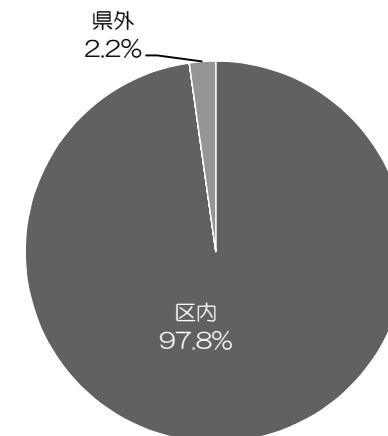
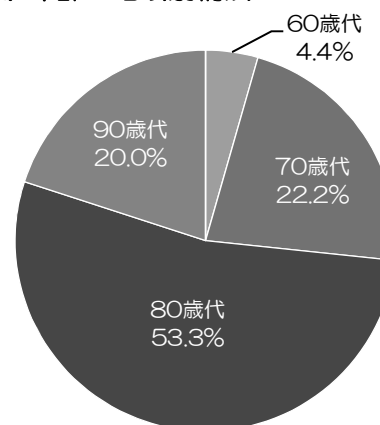
単位：人

理由	男性	女性	合計
死亡	1	1	2
認定「自立」	0	0	0
認定「要支援」	0	0	0
施設入所	3	3	6
利用者解約	0	0	0
事業所解約	0	0	0
その他	2	1	3
合計	6	5	11

2. 現員者の状況

※2020.03.31 登録者：45 名に対する値

a. 年齢・地域別構成



●年齢構成 単位：人（延べ） / （ ）内は前年度数

	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計
男性	0 (0)	1 (1)	4 (4)	7 (7)	2 (1)	0 (0)	14 (13)
女性	0 (0)	1 (1)	6 (7)	17 (9)	7 (1)	0 (0)	31 (18)
全体	0 (0)	2 (2)	10 (11)	24 (16)	9 (2)	0 (0)	45 (31)
二 号	0 (0)	0 (0)					0 (0)

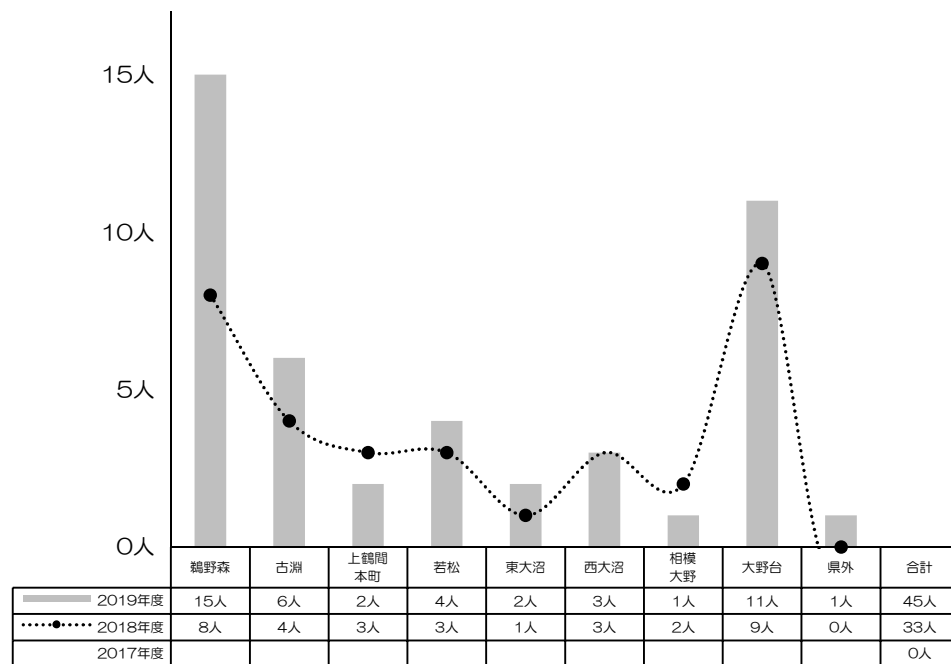
●地域 単位：人（延べ）

地域	男性	女性	合計
相模原市南区	14 (13)	30 (16)	44 (29)
区外	0 (0)	0 (0)	0 (0)
市外	0 (0)	0 (0)	0 (0)
県外	0 (0)	1 (2)	1 (2)
合計	14 (13)	31 (38)	45 (31)

	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男性	99歳 0ヶ月 (90歳 0ヶ月)	61歳 0ヶ月 (69歳 0ヶ月)	80歳 0ヶ月 (78歳 0ヶ月)
女性	98歳 0ヶ月 (96歳 0ヶ月)	69歳 0ヶ月 (66歳 0ヶ月)	85歳 0ヶ月 (81歳 0ヶ月)
全体	99歳 0ヶ月 (96歳 0ヶ月)	61歳 0ヶ月 (66歳 0ヶ月)	83歳 0ヶ月 (81歳 0ヶ月)

※（ ）内は前年度数値

●登録住所



2019年度もほぼ「南区」の方が対象となった。

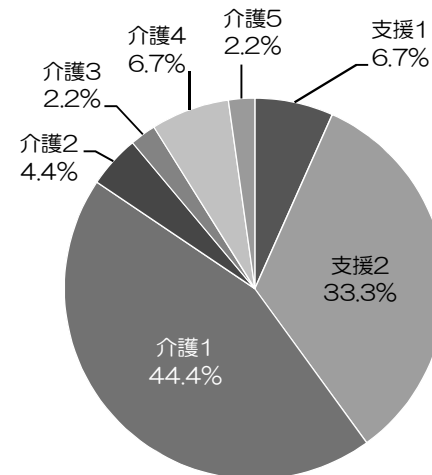
鵜野森 = 34.09%

古淵 = 13.64%

上鶴間本町 = 4.55%

上記3地区（法人事業展開エリア）で52.27%の割合を占めている。

b. 介護度別構成



① 要支援1・2合計

18人 (40.00%)

② 要介護1・2合計

22人 (48.89%)

③ 要介護3・4・5合計

5人 (11.11%)

介護報酬増加の観点からも、上記③の割合を増加させたいところではあるが、ナナの入居者は軽介護度が多く、軽介護度者の受入れは避ける事が出来ない実情がある。

単位：人

介護度	事業対象	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	平均
男性	0 (0)	0 (2)	8 (4)	4 (2)	1 (5)	0 (0)	0 (2)	1 (0)	0.81 (1.38)
女性	0 (0)	3 (3)	7 (4)	16 (5)	1 (1)	1 (0)	3 (2)	0 (1)	1.10 (1.31)
合計	0 (0)	3 (5)	15 (8)	20 (7)	2 (6)	1 (0)	3 (4)	1 (1)	1.01 (1.34)

※ () 内は前年度数値 / 平均：要支援1=0.25・要支援2=0.50 換算で算出

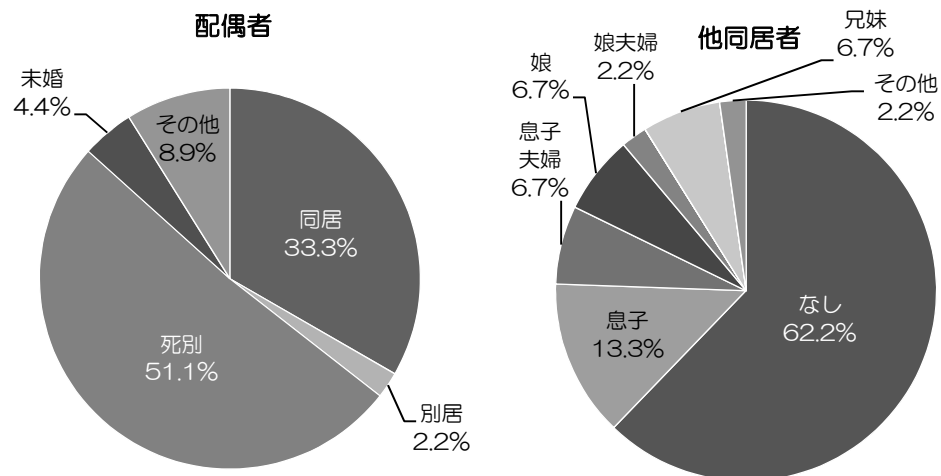
c. 介護保険負担限度額認定

単位：人

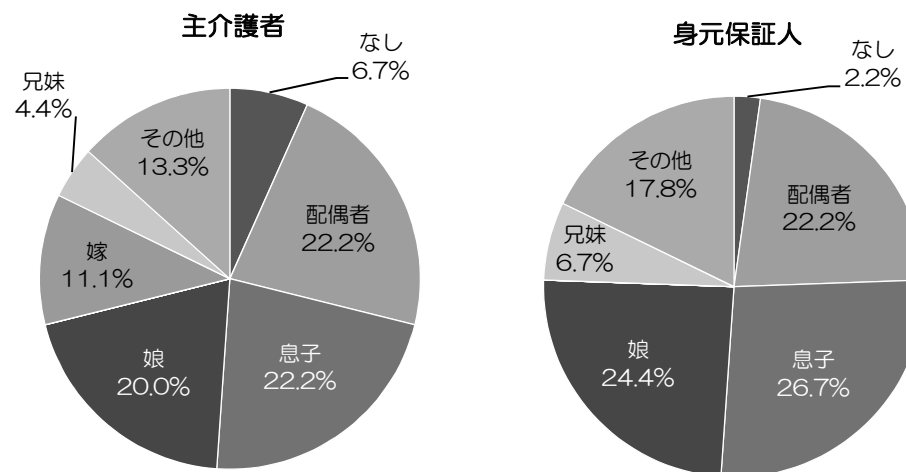
第一段階	第二段階	第三段階	第四段階 (含：未申請)	合計
0 (0)	0 (0)	0 (0)	45 (31)	45 (31)

※ () 内は前年度数値

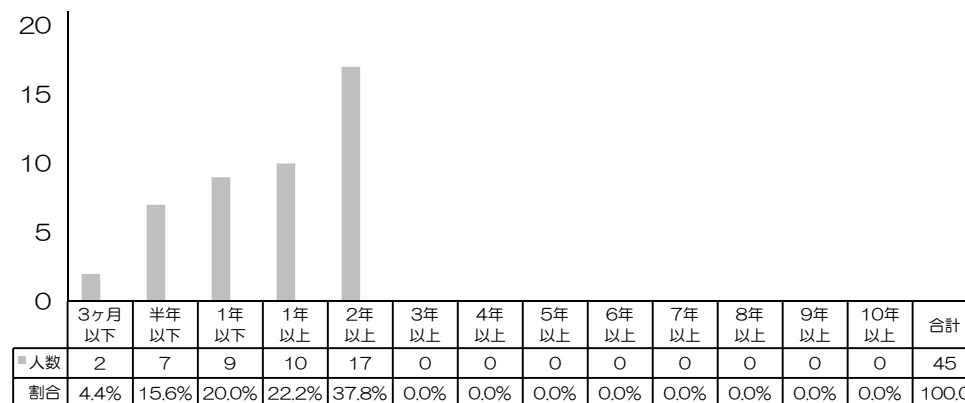
d. 世帯構成



e. 本人支援状況



f. 利用期間



g. 認知症の状況

単位：人

基準	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	不明	合計
男性	2	3	4	4	0	0	1	0	0	14
女性	7	13	7	2	0	0	1	0	0	31
合計	9	16	11	6	0	0	2	0	0	45

※認定調査票・主事意見書取得申請中者を除く

h. 日常生活動作状況

単位：人

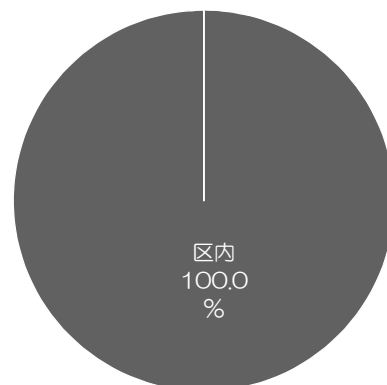
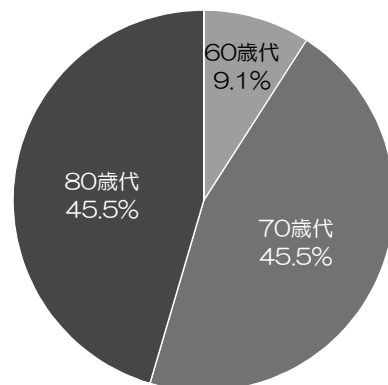
基準	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明	合計
男性	1	2	3	3	3	2	0	0	0	0	14
女性	2	12	7	4	2	2	2	0	0	0	31
合計	3	14	10	7	5	4	2	0	0	0	45

※認定調査票・主事意見書取得申請中者を除く

3. 終了者の状況

a. 年齢・地域別構成

※2019年度終了者：11名に対する値



●年齢構成 単位：人（延べ） / （ ）内は前年度数

	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計
男性	0 (0)	0 (0)	4 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (0)
女性	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	0 (1)	0 (0)	4 (2)
全体	0 (0)	1 (0)	5 (0)	5 (1)	0 (1)	0 (0)	11 (2)
二 号	0 (0)	0 (0)					0 (0)

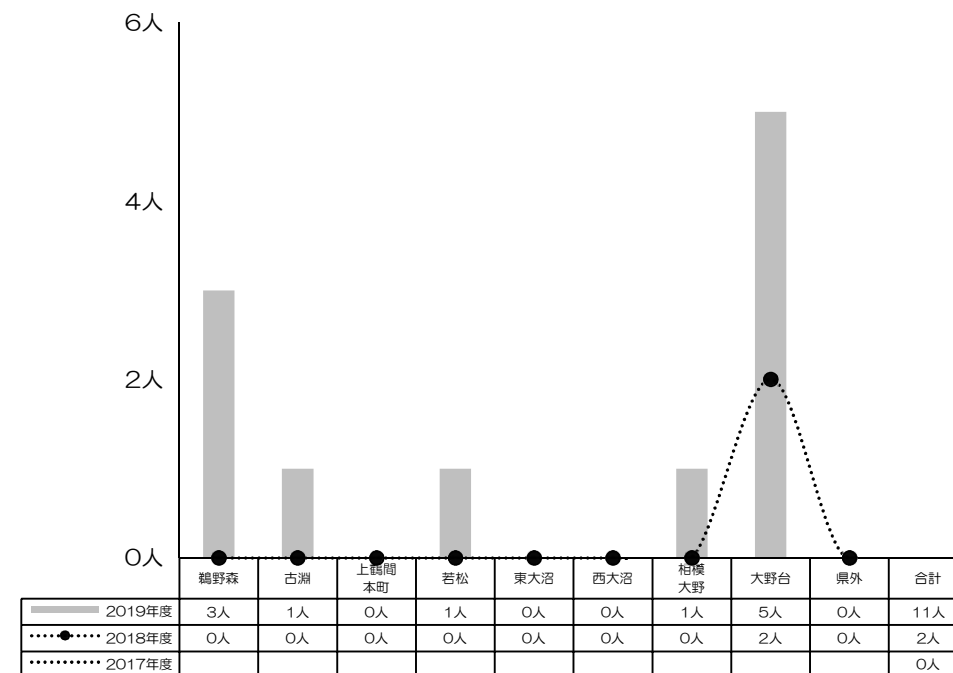
●地域 単位：人（延べ）

地域	男性	女性	合計
相模原 市南区	7 (0)	4 (1)	11 (1)
区外	0 (0)	0 (0)	0 (0)
市外	0 (0)	0 (0)	0 (0)
県外	0 (0)	0 (1)	0 (1)
合計	7 (0)	4 (2)	11 (2)

	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男性	85歳 0ヶ月 (—)	70歳 0ヶ月 (—)	76歳 0ヶ月 (—)
女性	85歳 0ヶ月 (92歳 11ヶ月)	67歳 0ヶ月 (83歳 1ヶ月)	78歳 5ヶ月 (87歳 5ヶ月)
全体	85歳 0ヶ月 (92歳 11ヶ月)	67歳 0ヶ月 (83歳 1ヶ月)	77歳 0ヶ月 (87歳 5ヶ月)

※解約日当日の年齢 / （ ）内は前年度数値

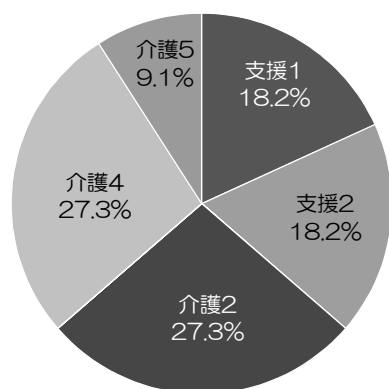
●登録住所



終了者は「南区在住」の方で11名。

開設してから期間が短い為、終了者が少ないが、今後終了が増える可能性もあり、積極的に新規を獲得して、実績の低下を防ぐ必要がある。

b. 介護度別構成



- ① 要支援 1・2 合計
4 人 (36.36%)
- ② 要介護 1・2 合計
3 人 (27.27%)
- ③ 要介護 3・4・5 合計
4 人 (36.36%)

単位：人

介護度	事業 対象	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	平均
男 性	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2.10 (0.00)
女 性	0 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2.40 (0.75)
合 計	0 (0)	2 (0)	2 (1)	1 (1)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	2.31 (0.75)

※ () 内は前年度数値 / 平均：要支援 1=0.25・要支援 2=0.50 換算で算出

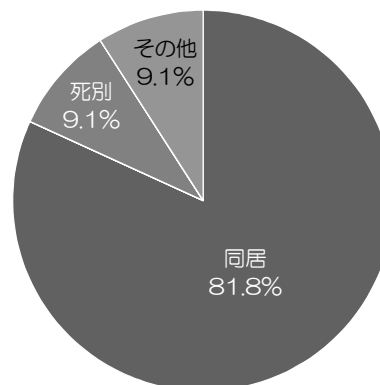
c. 介護保険負担限度額認定

単位：人

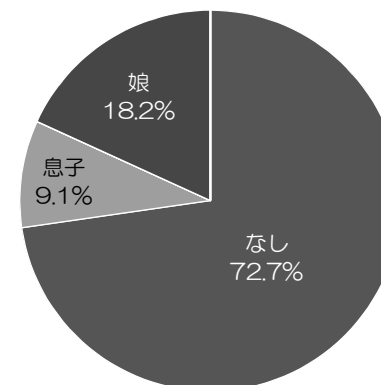
第一段階	第二段階	第三段階	第四段階 (含：未申請)	合計
0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (2)	11 (2)

d. 世帯構成

配偶者

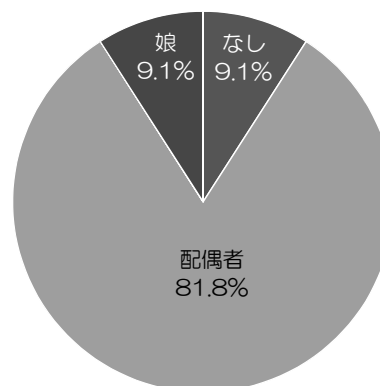


他同居者

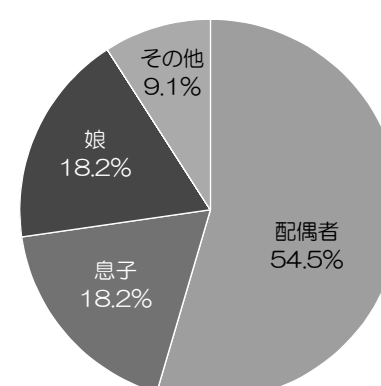


e. 本人支援状況

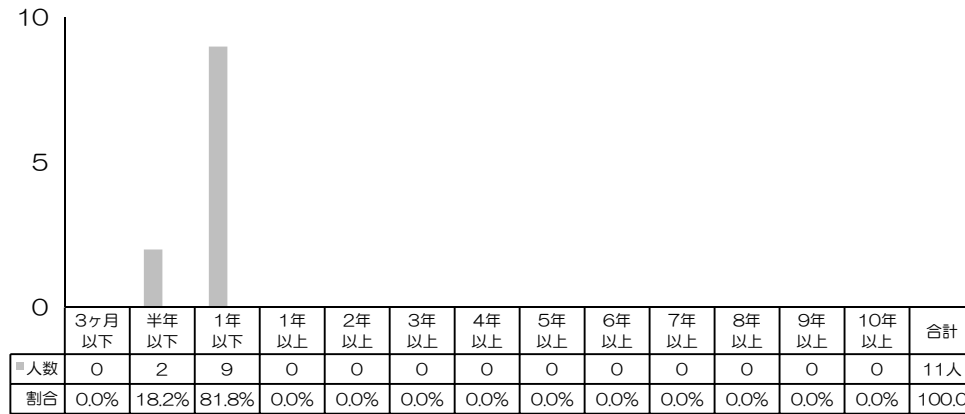
主介護者



身元保証人



f. 利用期間



g. 認知症の状況

単位：人

基準	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	不明	合計
男性	0	0	2	4	0	1	0	0	0	7
女性	1	0	1	1	0	0	1	0	0	4
合計	1	0	3	5	0	1	1	0	0	11

h. 日常生活動作状況

単位：人

基準	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明	合計
男性	0	1	2	3	0	1	0	0	0	0	7
女性	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	4
合計	0	2	2	3	0	2	0	1	0	0	11

4. 介護サービス展開状況 ※2019年度利用者延べ：56名に対する値

a. ケアプラン（居宅サービス計画書）作成

単位：件

職員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A	4	3	2	5	4	3	3	4	7	4	3	3	45
B	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
C	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	4	3	2	5	4	3	3	4	7	4	3	3	45

b. サービス担当者会議

単位：回

職員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A	4	3	2	5	4	3	3	4	7	4	3	3	45
B	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
C	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	4	3	2	5	4	3	3	4	7	4	3	3	45

c. 関連事業所

単位：事業所（数）

	通所介護	福祉用具	訪問介護	短期入居	訪問看護	通所リハ	訪問入浴
事業所	21	17	7	5	3	0	1

d. 個人別契約事業所

単位：人

	利用なし	1 事業所	2 事業所	3 事業所	4 事業所	5 事業所超
事業	0	0	0	0	0	0
支援 1	0	5	0	0	0	0
支援 2	0	10	2	2	1	0
介護 1	0	9	8	3	1	0
介護 2	0	4	1	1	0	0
介護 3	0	1	0	0	0	0
介護 4	0	2	3	1	0	0
介護 5	0	0	0	2	0	0
合 計	0	31	14	9	2	0

e. 複数サービス利用

単位：人

	利用なし	1 種類	2 種類	3 種類	4 種類	5 種類超
事業	0	0	0	0	0	0
支援 1	0	5	0	0	0	0
支援 2	0	10	3	1	1	0
介護 1	0	9	8	2	1	0
介護 2	0	4	1	1	0	0
介護 3	0	1	0	0	0	0
介護 4	0	2	3	2	0	0
介護 5	0	0	2	0	0	0
合 計	0	31	17	6	2	0

f. 自法人併設サービス利用（契約数）

単位：人

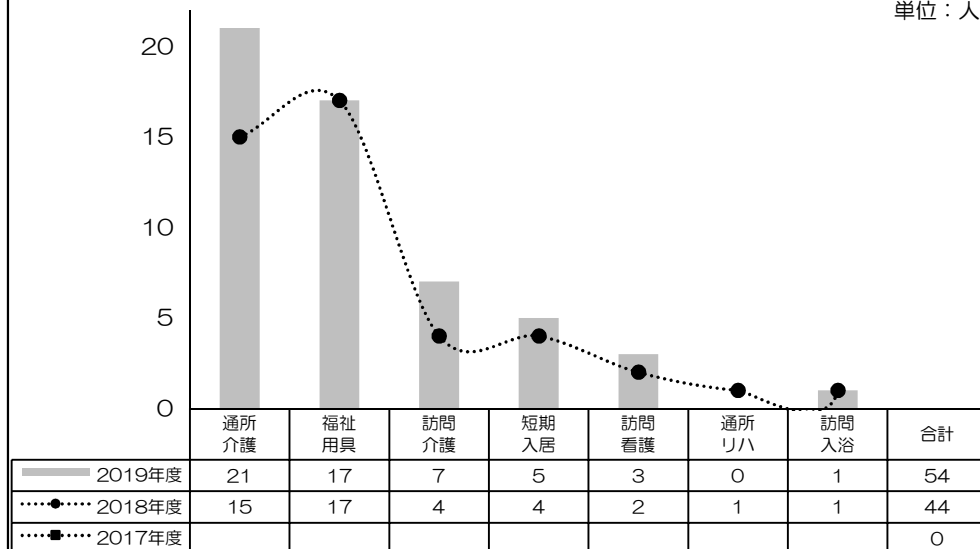
施 設	MOMO						PINO			
種 別	特養		SS	DS	ケア		特養		SS	DS
	申	入			申	入	申	入		
2017 年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2018 年度	2	0	1	5	0	0	1	0	4	1
2019 年度	1	1	0	6	1	0	3	0	4	1

※申＝入居申込のみ

※入＝入居（特養の場合はそれを理由に契約終了となった者）

g. 種類別サービス利用件数

単位：人



h. 月別サービス利用

単位：人

種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	15	21	21	23	23	25	28	27	29	31	32	33	335
福祉用具	19	18	18	22	22	23	23	19	22	17	18	19	240
訪問介護	3	5	5	5	8	12	13	13	16	13	13	12	118
短期入居	5	2	2	3	2	3	3	4	3	4	4	6	41
訪問看護	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	47
通所リハ	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
訪問入浴	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
住宅改修	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2

i. 介護度別サービス利用

単位：人（延べ）

種 類	総合 事業	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計
通所介護	0	3	12	10	1	0	2	1	29
福祉用具	0	0	7	3	3	0	2	1	18
訪問介護	0	0	4	8	0	0	0	0	5
短期入居	0	0	1	1	0	1	2	1	6
訪問看護	0	0	2	1	1	0	1	0	4
通所リハ	0	0	1	0	0	0	0	0	1
訪問入浴	0	0	0	1	0	0	0	0	1
住宅改修	0	0	1	0	1	0	1	0	2

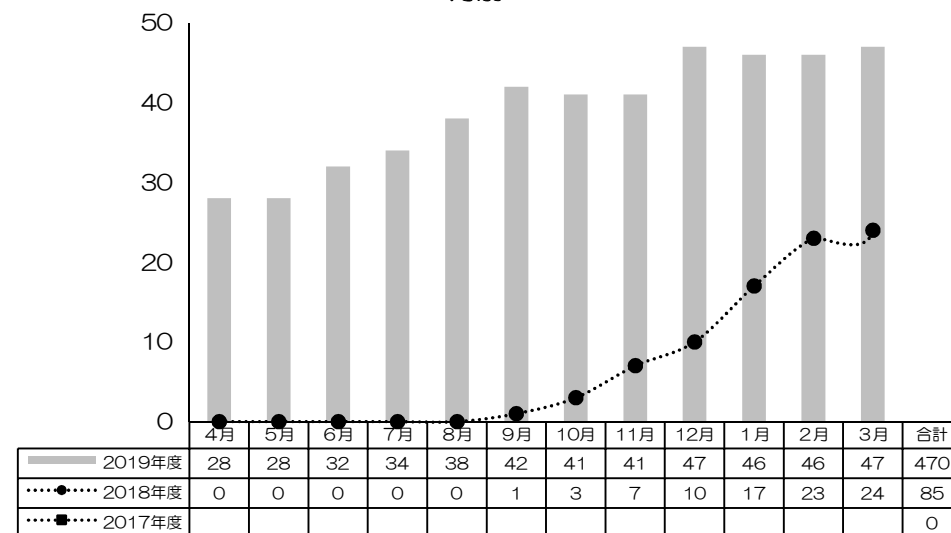
j. 福祉用具品目別利用傾向

単位：人（延べ）

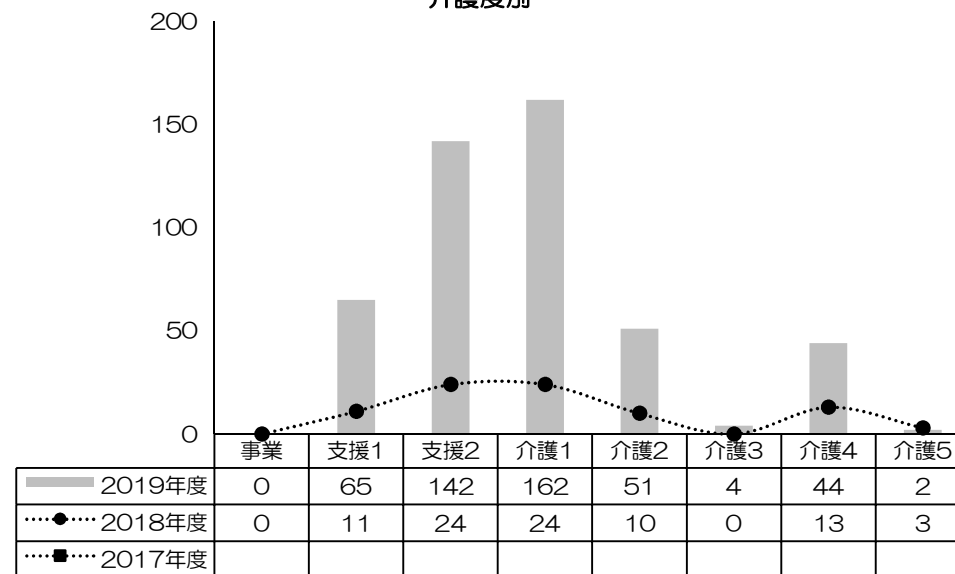
品 目	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
車いす	0	0	3	2	0	2	0	7
車いす附属品	0	0	1	2	0	0	0	3
特殊寝台	0	4	5	1	0	1	1	12
特殊寝台附属品	0	4	5	1	0	1	1	12
床ずれ防止用具	0	0	0	0	0	0	0	0
体位変換器	0	0	0	0	0	0	0	0
手すり	0	4	9	1	0	1	0	15
スロープ	0	0	1	0	0	0	1	2
歩行器	0	3	2	1	0	0	0	6
歩行補助つえ	0	1	2	0	0	0	0	3
徘徊感知機器	0	0	0	0	0	0	0	0
移動用リフト	0	0	0	0	0	0	0	0
自動排泄処理装置	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	16	28	8	0	5	3	60

k. 給付管理実績

月別



介護度別



自法人併設サービス別（利用実績単位数）

施設/月	4月	5月	6月	7月	第 一 期
DSモモ	18201	18914	19677	18351	74543
SSモモ	0	0	0	0	0
DSピノ	4888	6200	4960	8296	24344
SSピノ	3924	3035	3924	3924	14807
合 計	27013	28149	28561	30571	113694
施設/月	8月	9月	10月	11月	第 二 期
DSモモ	19627	16975	22380	23235	82217
SSモモ	0	0	0	0	0
DSピノ	4960	4960	6225	4980	21125
SSピノ	3924	3924	6557	22316	36721
合 計	28511	25859	35162	50531	140063
施設/月	12月	1月	2月	3月	第 三 期
DSモモ	39613	32278	34735	36783	143409
SSモモ	0	0	0	0	0
DSピノ	4,980	4,980	6651	6094	22705
SSピノ	19680	18788	58380	56622	153470
合 計	64273	56046	99766	99499	3195584

施 設	年度合計	年度月平均
DSモモ	300,169 単位 (×10.54 円)	25,014 単位 (×10.54 円)
SSモモ	0 単位 (×10.66 円)	0 単位 (×10.66 円)
DSピノ	68,174 単位 (×10.66 円)	5,681 単位 (×10.66 円)
SSピノ	204,998 単位 (×10.66 円)	17,083 単位 (×10.66 円)
合 計	573,341 単位	47,778 単位

●DS モモの実績は安定して向上傾向が見られている。

ピノのDSが安定していないので、施設外の垣根を越えて実績向上に繋げていけるように調整していく。

1. 緊急一時サービス利用

単位：人

	男性	女性	合計
2017年度	—	—	—
2018年度	0	0	0
2019年度	0	0	0

※月毎の申請件数は後述「8. 代行申請」項参照

m. 住宅改修実施

単位：人

	男性	女性	合計
2017年度	—	—	—
2018年度	1	2	3
2019年度	1	1	2

5. 苦情

2019年度の苦情は0件

6. 相談

新規担当希望は全て受諾。

その他に大きな相談/支援実施は無し。

7. 認定調査

a. 実施数

単位：人

	男性	女性	合計	前年比
2017年度	—	—	—	—
2018年度	0	0	0	—
2019年度	0	0	0	0.0%

b. 依頼保険者

単位：人

	県外	市外	市内	合計
2017年度	—	—	—	—
2018年度	0	0	0	0
2019年度	0	0	0	0

c. 月毎の実施状況

単位：人

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在 宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施 設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内 訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自己担当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相模原市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市外依頼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県外依頼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※公平性・中立性を保つ為、自事業所利用者の調査は行わない予定

d. 実施者プロフィール

単位：人

介護度	性別	年 齢（●●歳代）							割合（%）
		50	60	70	80	90	100	合計	
支援1	男性	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	0	0	0	0	0	0	0	
支援2	男性	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	0	0	0	0	0	0	0	
介護1	男性	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	0	0	0	0	0	0	0	
介護2	男性	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	0	0	0	0	0	0	0	
介護3	男性	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	0	0	0	0	0	0	0	
介護4	男性	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	0	0	0	0	0	0	0	
介護5	男性	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	0	0	0	0	0	0	0	
合計	男性	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	0	0	0	0	0	0	0	
割 合（%）		0	0	0	0	0	0	0	

8. 代行申請

a. 介護保険認定

単位：人（延）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
更新	0	1	0	1	2	1	1	0	1	1	4	1
区変	1	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0
転入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	1	0	1	2	3	1	1	1	3	4	1
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自己担当	1	1	0	1	2	3	1	1	1	2	4	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

※男性： 9名・女性：10名・合計：19名

b. 負担限度額認定

単位：人（延）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
更新	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
再発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
再申	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自己担当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※男性： 0名・女性： 0名・合計： 0名

以下は相模原市独自事業

c. 緊急一時入所利用

単位：人（延）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2~4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※男性： 0名・女性： 0名・合計： 0名

d. 紙おむつ支給

単位：人（延）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自己担当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※男性： 0名・女性： 0名・合計： 0名

※介3： 0名・介4： 0名・介5： 0名

e. 高齢者等移送サービス

単位：人（延）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自己担当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※男性： 0名・女性： 0名・合計： 0名

※介3： 0名・介4： 0名・介5： 0名

C

ommittees

委員会活動

2019年度も、予定されていた委員会が一部開催出来ず、有意義な会議・委員会の開催には至らなかった。

その他、委員会活動及び社内研修会については、年間計画に基づき概ね予定通りの開催（実施）出来たが、社外研修については2018年度に比べて余裕のあるシフト管理が出来ず、受講数減少が続いてしまった。

1. 高齢管理者会議

開 催：毎月第3金曜日（休日調整） 14：30～15：30

内 容：意見交換及び各部署課題に対する検討等

構成員：施設長・副施設長・特養課長・居宅課長・各介護リーダー職
・看護師・相談員・介護支援専門員・栄養士

年度を通して安定した介護職員の確保が難しく、特に老人ホームの管理職がその穴埋めにシフトに入る頻度が高く、ほぼ未開催となってしまった。
介護職員のみならず、看護師も含む現場の人材確保が今後も急務である。

2. 事故防止対策委員会

2019年度は事故総数 205 件で、前年比 95.8%と減少した。

※行政機関への事故報告については相模原市指針に則り対応した

事故再発防止対策を密に行い、心身状態から発生するインシデントの分析を確実に把握し、事故防止に役立てていく。

2020年度も事故防止の基本である見守り・巡回の徹底・職員の意識改革を通して、未然に防ぐことの出来る事故の発生減少に努める。

特別養護老人ホームモモ

事故総数： 77 件（前年比 65.2%：減少）

インシデント：138 件（前年比 24.9%：減少）

毎年度最も転倒事故の多い自力移動時の転倒事故も 50%ほど減少している。職員が少ない中でフロアの見守り強化が出来ている事、新規入居者の ADL が高い事と既存の入居者の ADL 低下により事故リスクが低下している事が要因として考えられる。ただし、入居者の ADL 低下により、食事介助時の誤嚥事故が増えている傾向にもある為、食事に関わらず重度者の事故の無い対応方法の検討が必要かと思われる。

デイサービスセンターモモ

事故総数： 4 件（前年比 66.7%：減少）

今年度は、事故総数も減少しており、事故内容としても転倒事故 2 件・施設外徘徊 1 件と同一利用者による事故が再発されていない為、事故後の対応がしっかりとされているかと思われる。

施設外徘徊に関しては、来訪者と共に施設外へ出てしまったという事例であり、今後も来訪者が施設を出られる際には注意が必要かと思われる。車両事故 1 件と発生しているが、幸いにも乗車中の利用者には怪我などなく経過されている。車両事故は大きな事故に繋がる可能性が大きい為、注意が必要かと思われる。

ケアハウスモモ

事故総数： 15 件（前年比 500.0%：増加）

利用者の ADL の低下から事故増加しており、9 割は転倒事故となっている。

また、ケアハウスの性質上、全てを把握することは困難であるが、外出時の事故也多発している。大きな事故に繋がる恐れもある為、利用者の状態を検討し円滑な対応をしなければならない。

コミュニティホームピノ

事故総数：105 件（前年比 107.1%：増加）

インシデント： 10 件（前年比 66.6%：減少）

骨折に繋がる事故が 4 件発生してしまった。独歩の方が歩行中にバランスを崩しての転倒と自力歩行の出来ない方が車椅子から立ち上がって歩こうとされ転倒、排泄介助中に足に無理な力が掛かってしまったの骨折であった。独歩の方が転倒する予見は難しい部分があるが、出来るだけの対策を取れる様検討して行きたい。インシデントの数は相変わらず少ない。職員がインシデントとして捉えるかどうかの意識の問題が大きく関わっている。限られた環境の中で、リスクとなる要因を見つけ出し、早期に対応へと繋げられる様な意識改革が必要となってくる。

コミュニティセンターピノ

事故総数： 4 件（前年比 200.0%：増加）

4 件とも安全面の確保不足から起きてしまった事故であり、防止できた事故であった。認知症を対象としたデイサービスの活動で、利用者の次の行動が読めない中、起こりうる様々なリスクを職員内で共有し安心且つ安全な居場所を利用者に提供することが大きな課題となる。利用者一人一人に関わる家族、介護支援専門員、他事業所含め連携を密にとり、情報を共有することでより良い環境を提供できるようにしていく。

a. 特別養護老人ホームモモ（短期入所含む）

単位：回

時 間	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
移動介助時									1		1			
自力移動時	2		3	2	2	1	1	2	3	4	4	2	3	2
排泄介助時														
自力排泄時														
食事介助時	1							1		5				
自力摂取時														
入浴介助時						1								
自力入浴時														
誤 薬	1													
原因不明														
そ の 他	4	1	3				1	1	1	3	2	1	1	
合 計	8	1	6	2	2	2	2	4	5	12	7	3	4	2

時 間	22	23	24	1	2	3	4	5	6	7	'19年	'18年	'17年
移動介助時									2		4	4	6
自力移動時		1		2				4	2	3	43	78	75
排泄介助時											7	3	0
自力排泄時											0	0	0
食事介助時											7	4	4
自力摂取時											0	6	27
入浴介助時											1	6	3
自力入浴時											0	0	1
誤 薬											1	10	6
原因不明											0	0	0
そ の 他									3		21	7	9
合 計	0	1	0	2	0	0	0	4	7	3	77	118	131

インシデント集計（短期入所含む）

単位：回

時 間	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
移動関連	2	2	1	1	1	1	3	2		1	2	3	1	3
移乗関連	1	2	1					1	1	2	2	3		
排泄関連		2		1				3		1		3		
食事関連	4			2			1	3	1	2	5	2		
入浴関連														
その他			2	1		2	1	3	1		6	1	1	4
環境不備			2		1	2	1	4				1	4	
薬関連	1	4									3	2	1	
合 計	8	10	6	5	2	5	6	16	3	6	18	15	7	7

時 間	22	23	24	1	2	3	4	5	6	7	'19年	'18年	'17年
移動関連	2	1	1		1		1				29	187	174
移乗関連									1		14	37	43
排泄関連											10	37	52
食事関連										3	23	103	151
入浴関連											0	3	1
その他		1	2	1		1		2	1	1	31	70	122
環境不備			1		1	1	1				19	81	96
薬関連									1		12	35	46
合 計	2	2	4	1	2	2	2	2	3	4	138	553	676

b. コミュニティホームピノ（短期入所含む）

単位：回

時 間	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
移動介助時		1	1											
自力移動時			1	1	3	3	2	2	8		1	6	3	6
排泄介助時					1	2	1		1					
自力排泄時														
食事介助時														
自力摂取時														
入浴介助時			1			1	1			1				
自力入浴時														
誤 薬					1						1			
原 因 不 明		1		1										
そ の 他	4	4	1	1		1	6	4	1	1	3	4	1	1
合 計	4	6	4	3	5	7	10	6	10	2	5	10	4	7

時 間	22	23	24	1	2	3	4	5	6	7	'19年	'18年	'17年
移動介助時											2	7	1
自力移動時	1	2		2	1		3	2	3	2	52	35	43
排泄介助時					1		1				7	2	0
自力排泄時											0	1	0
食事介助時											0	0	1
自力摂取時											0	3	6
入浴介助時											4	7	1
自力入浴時											0	0	1
誤 薬											2	5	13
原 因 不 明									2	1	5	5	0
そ の 他						1					33	33	44
合 計	1	2	0	2	2	1	4	2	5	3	105	98	110

インシデント集計（短期入所含む）

単位：回

時 間	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
移動関連							1		1			1		
移乗関連			1											
排泄関連														
食事関連														
入浴関連						1								
その他												1	1	
環境不備														
薬関連	1		1							1				
合 計	1	0	2	0	0	1	1	0	1	2	0	2	1	0

時 間	22	23	24	1	2	3	4	5	6	7	'19年	'18年	'17年
移動関連											3	3	7
移乗関連											1	0	1
排泄関連											0	0	0
食事関連											0	0	1
入浴関連											1	3	0
その他											2	4	3
環境不備											0	2	3
薬関連											3	3	7
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	15	22

c. デイサービスセンターモモ

単位：回

時 間		9	10	11	12	13	14	15	16	'19年	'18年	'17年
施設内	転 倒						1			1	2	1
	その他				1					1	2	3
送迎時	転 倒								1	1	0	0
	その他								1	1	2	4
合 計					1		1		2	4	6	8

※事故内訳（転倒 2 件・施設外徘徊 1 件・送迎時車両事故 1 件）

d. コミュニティセンターピノ

単位：回

時 間		9	10	11	12	13	14	15	16	'19年	'18年	'17年
施設内	転 倒	1				1	1			3	1	0
	その他							1		1	1	0
送迎時	転 倒									0	0	0
	その他									0	0	0
合 計										4	2	0

軽微な事故ではあるが、職員の対応次第で防止できた事故である。

e. ケアハウス

2019 年度の事故は 15 件である。

施設内：8 件 施設外：7 件

転倒事故：14 件

救急搬送：2 件

1 件目：居室にて下肢強打し強い痛みの為、救急搬送。

2 件目：自転車使用し外出中、車両との接触事故による転倒。
外出先より救急搬送。

2018 年度事故総数 3 件に対して 2019 年度 15 件と、5 倍の事故数となっている。

転倒による事故が殆どであり、入居者の ADL の低下が顕著である。

施設外での事故も 7 件と半数近くを占めており、特定の入居者による事故が目立っている。

ケアハウス職員の介入は困難な施設形態となっているが、施設外での重大事故に繋がりがかねない為、対応方法の検討必要かと思われる。

3. 拘束検討委員会

2018 年 11 月より、身体拘束実施者（4 点柵による身体拘束）が特別養護老人ホームモモにて 1 名継続となっており、2020 年 1 月の指導監査にて要改善事項にも指摘された。

また、2019 年 12 月下旬より、転倒骨折からの退院者 2 名に対する身体拘束（車椅子乗車時のベルト装着）の必要性も生じており、うち 1 件は解除に至るも、残る 1 件は 2020 年 3 月末時点でも継続中。

継続中の 2 件は共に家族の強い希望が背景にあり、本人の状態等を十分に考慮し、家族への説明を経て解除できるようにする。

4. 感染症対策委員会

感染症の一般的基礎知識や高齢者施設におけるリスクを中心に、季節に応じた感染対策を実行出来るよう、委員会では各事業所担当者から各職員へ周知し、職員全体研修では全職員を対象に年間を通じて実施した。

○検討 / 研修会

2019年 7月 「食中毒・感染症について」

2019年10月 「食中毒・感染症について」

5. 褥瘡対策委員会

2019年度は特養課会議内にて褥瘡対策委員会を行ない、利用者の褥瘡予防対策を排泄形態・体位交換・栄養・対処療法等あらゆる角度から検討し、発症者の経過や対策を検討することを実施した。

○褥瘡発症者

- ・モモ ----- 7名（褥瘡まではいかないが、そのままでは褥瘡になってしまう危険性のある状態や、表皮剥離レベル）
- ・ピノ ----- 3名（病院受診を必要とするレベルの褥瘡）
※年度末には全員退居となっている。
2名（褥瘡まではいかないが、そのままでは褥瘡になってしまう危険性のある状態や、表皮剥離レベル）

6. 食中毒対策委員会

管理栄養士が中心となり、関係職において下記の内容について予防策の周知、徹底を図った。（給食会議代替の場合もあり）

○検討 / 講習会

2019年 5月 「最近の食中毒発生状況」

「施設での食中毒対策」

2019年 8月 「最近の食中毒発生事例」

「施設での食中毒対策」

2019年11月 「最近の食中毒発生事例」

「施設での食中毒対策」

2020年 2月 「最近の食中毒発生事例」

「ノロウイルスの事例検討」

7. 看取り実施委員会

2019年度は、嘱託医の変更に伴い看取り実施が可能となった。各関係機関との連携を強化し、看取り対応者を挙げながら対応を検討している。

特別養護老人ホームモモ及びコミュニティホームピノの入居者のうち終末期の12名（モモ8名・ピノ4名）に対して看取り対応を行なったが、看取り計画書の作成をはじめとした諸条件を満たすまでには至らず、2019年度は加算取得には繋がらなかった。。

8. 運営推進会議（地域密着型施設）

地域との連携を確保し、地域に開かれた運営をすることを主とし、地域密着型施設（ピノ拠点）において2ヶ月に1回以上実施した。

※通所介護は6ヶ月に1回以上で可だが同時開催とした。

出席者は、利用者および利用者家族代表、地域住民の代表者（自治会長・長寿会長）、地域包括支援センター職員、施設職員（施設長・副施設長・施設ケアマネジャー・生活相談員・認知症対応型通所介護管理者）であった。

○開催実績/議題

- | | |
|----------------|---|
| 2019年 5月28日（火） | ①施設の現況報告
②平成30年度事業報告
③その他 |
| 2019年 7月25日（木） | ①施設の現況報告
②地域行事予定の確認
③その他 |
| 2019年 9月27日（金） | ①施設の現況報告
②災害時の地域貢献・連携
③その他 |
| 2019年11月19日（火） | ①施設の現況報告
②災害時の地域貢献・連携
③その他 |
| 2020年 1月27日（月） | ①施設の現況報告
②災害時の地域貢献・連携
③その他 |
| 2020年 3月 日（ ） | ①施設の現況報告
※新型コロナウイルス肺炎蔓延
※出席者招集開催を見送り、議事録に
①の内容のみ記述し関係者へ送付。 |

●苦情相談件数集計

各部署の苦情件数を一覧化

※件数＝報告書作成数

施設	部署	件数	概要
モ モ	特 養	1	・原因不明の内出血に起因する苦情。 連絡不行き届きにより「ご家族に不信感を抱かせてしまった」事が主要因。職員の対応がご本人にとって失礼な内容であり、更なる不快感を抱かせてしまった。 家族希望により、当該入居者は外泊を経て退所となった。
	S S	1	・介護職員の言動に起因する苦情。 当該職員は「冗談のつもり」且つ「受け入れられている」と誤認したまま対応を継続。ご自宅に伺い申立人であるご家族に直接謝罪をし、お許しを頂く。
	ケ ア	0	
	D S	0	
	栄養室	0	
	事務室	0	
ピ ノ	居 宅	0	
	特 養	0	行政窓口への相談件数は0件だが、転倒骨折事故に伴い、ご家族に事情説明を行なう必要が2件あった。
	S S	0	
	D S	0	
	栄養室	0	
	事務室	0	
ナ ナ	サ 高	0	
	居 宅	0	
	栄養室	0	

●実習生受入れ及び研修実施状況

a. 実習生受入れ（モモ）

日 程	研修内容	団 体 名	実習者数
7月 ～ 12月	特養・デイ介護実習	津久井高校福祉課程社会福祉実習生、	4
11月	介護施設実習	鶴野森中学校	多数

b. 社外研修（モモ）①

日 程	研修内容	主催者	研修場所	受講者数
5月14日	ケアマネ・包括交流会	大野台高齢者支援センター	大野台高齢者支援センター	1
6月14日	集団指導講習	高齢政策課・指定・指導班	あじさい会館6階	2
6月15日	栄養ケアの可能性	渡辺商事	はまぎんホールヴィアマーレ	1
6月17日	認知症研究会	認知症疾病医療センター	北里大学東病院	1
6月19日	ケアマネジメントに役立つ薬の知識	大野南高齢者支援センター	南保健センター	1
	次期介護保険法改正を見据えた経営改善セミナー	相模原市高齢者福祉施設協議会 特養部会 施設長会	相模原市民会館 2階大会議室	2
	平成30年度介護報酬改定内容	デイサービス部会		1
6月24日	老人福祉施設における経営課題への対応	神奈川県社会福祉協議会	ホテル横浜キャメロットジャパン 5階ジュビリーⅡ	2
6月25日	高齢者福祉施設経営研究会	相模原市高齢者福祉施設協議会	あじさい会館4階	1
7月 2日	第18回かながわ高齢者福祉研究大会	神奈川県社会福祉協議会	パシフィコ横浜	4
7月 3日	食品衛生について	相模原市保健所生活衛生課	ウェルネスさがみはら7階	1
7月 6日	認知症の予防と治療	認知症疾病医療センター	相模原市産業会館	1
7月16日	居宅部会・生活相談員部会合同情報交換会	相模原市高齢者福祉施設協議会	相模原市民会館	4

b. 社外研修（モモ）②

日 程	研修内容	主催者	研修場所	受講者数
7月19日	知っておきたい！障害者相談支援	南十字星ケアマネ・包括交流会	南保健福祉センター 2階	1
7月22日	認定調査員現任研修会	相模原市介護保険課 認定班	ウェルネスさがみはら7階	1
7月23日	第1回 養護・ケアハウス部会「事故防止」	（社）相模原市高齢者福祉施設協議会	ケアハウスこもれび	1
7月30日	労働基準法の改正等に係る労務管理講習会	相模原労働基準監督署	相模原労働基準監督署	1
8月 9日	第2回ケアマネ包括交流会	大野台高齢者支援センター	大野台幸園	1
8月19日	認知症研究会	認知症疾病医療センター	北里大学東病院	1
9月 5日	創立20周年記念特別講演会	アルファ医療福祉専門学校	町田市民ホール	1
	創立20周年記念特別勉強会		ベストウェスタンレンブラントホテル東京町田	1
10月 3日	看取り研修・地域交流会	相愛病院	相愛病院	1
10月16日	生活相談員会	高齢協相談委員会	相模原市民会館	1
10月19日	身体拘束・高齢者虐待	相模原市高齢協	相模原市民会館	1
10月24日	かながわ高齢者福祉研究大会合同会議	神奈川県社会福祉協議会	県社会福祉会館4階	1
10月25日	地域医療連携業務関係職員合同会議	公益社団法人相模原市病院協会	市立男女共同参画推進センター（ソレイユさがみ）セミナールーム1	2
10月28日	認知症研究会	認知症疾病医療センター	北里大学東病院	1
10月29日	養護・ケアハウス部会	（社）相模原市高齢者福祉施設協議会	東林間シニアクラブ	1
11月11日	第4回ケアマネ包括交流会	大野台高齢者支援センター	大野台高齢者支援センター	1
11月12日	2019年度「さがみはら介護の日大会」	相模原市高齢者福祉施設協議会 他	あじさい会館	10
11月18日	認知症研究会	認知症疾病医療センター	北里大学東病院	1
11月20日	デイ相談員会	相模原市高齢者福祉施設協議会	相模原市民会館	1

b. 社外研修（モモ）③

日 程	研修内容	主催者	研修場所	受講者数
11月27日	困っていませんか？ 認知症対応攻撃性のある方の心と関わり方	相陽台ホーム	相陽台ホーム	2
12月 3日	食事摂取基準 2020 年改定について	相模原市健康増進課	あじさい会館	1
12月 9日	北里大学病院 神経 難病研修会	北里大学病院難病治療研究センター	相模女子大学グリーンホール	1
12月11日	経営実態調査フォローアップ研修	相模原市高齢者福祉施設協議会 特養部会 施設長会	相模原市民会館	2
		デイサービス部会	相模原市民会館	1
12月16日	認知症研究会	認知症疾病医療センター	北里大学東病院	1
12月19日	認定調査員スキルアップ研修	相模原市介護保険課	ウェルネスさがみはら	1
1月15日	介護援助員向け「従事者研修会」及び意見交換会	相模原市高齢協	ホテルセンチュリー 相模大野	2
1月16日	介護援助員現場担当者向け「意見交換会」	相模原市高齢協	けやき会館	1
1月20日	認知症研究会	認知症疾病医療センター	北里大学東病院	1
1月22日	意見交換会	相模原市高齢者特養部会栄養士会	市民会館	1
1月25日	認知症研修	認知症疾病医療センター	相模原市産業記念館	3
2月12日	介護援助員 人事労務研修会	相模原市高齢協	ホテルセンチュリー 相模大野	1
2月17日	北里大学地域医療フォーラム	北里大学医学部精神科学 精神科医局	北里大学東病院	1
3月16日	認知症研究会	認知症疾病医療センター	北里大学東病院	1

b. 社外研修（ピノ）①

日 程	研修内容	主催者	研修場所	受講者数
6月12日	介護保険施設等看護研修Ⅰ	(社)神奈川県看護協会	神奈川県ナースセンター	1
6月19日	次期介護保険法改正を見据えた経営改善セミナー	相模原市高齢者福祉施設協議会 特養部会 施設長会	相模原市民会館 2階大会議室	1
	平成30年度介護報酬改定内容	デイサービス部会		1
6月27日	介護保険施設等看護研修Ⅰ	(社)神奈川県看護協会	神奈川県ナースセンター	1
6月28日	介護報酬改定に伴う集団指導研修	相模原市高齢政策課	あじさい会館	1
7月11日	介護保険施設等看護研修Ⅰ	(社)神奈川県看護協会	神奈川県ナースセンター	1
7月16日	居宅部会・生活相談員部会合同情報交換会	相模原市高齢者福祉施設協議会	相模原市民会館	3
7月23日	神奈川県介護支援専門員研修	(公財)総合健康推進財団関東支部	神奈川県民ホール	1
7月27日	介護保険施設等看護研修Ⅰ	(社)神奈川県看護協会	神奈川県ナースセンター	1
7月28日	神奈川県介護支援専門員研修	(公財)総合健康推進財団関東支部	神奈川県総合薬事保険センター	1
8月 4日			ラジオ日本クリエイト	1
8月 8日	救命研修会	(公財)相模原市防災協会	相模原市消防指令センター	3
8月 9日	神奈川県介護支援専門員研修	(公財)総合健康推進財団関東支部	横浜市従会館	1
	救命研修会	(公財)相模原市防災協会	相模原市消防指令センター	2
8月26日	看取り期に望まれる実際のケア	全国高齢者施設看護師協会	板橋区立文化会館	1
	神奈川県介護支援専門員研修	(公財)総合健康推進財団関東支部	横浜市従会館	1
9月 3日	神奈川県介護支援専門員研修	(公財)総合健康推進財団関東支部	ラジオ日本クリエイト	1
9月10日				1
9月21日				1
9月29日				1
10月16日	生活相談員部会	相模原市高齢者福祉施設協議会	相模原市民会館	1

b. 社外研修（ピノ）②

日 程	研修内容	主催者	研修場所	受講者数
11月12日	さがみはら介護の日大会	相模原市高齢者福祉施設協議会	あじさい会館	6
11月20日	デイ相談員会	相模原市高齢者福祉施設協議会	相模原市民会館	1
12月11日	経営実態調査フォローアップ研修	相模原市高齢者福祉施設協議会 特養部会 施設長会	相模原市民会館 2階大会議室	2
		デイサービス部会		1

b. 社外研修（フレイグラントオリーブナナ）

日 程	研修内容	主催者	研修場所	受講者数
6月 3日	食品衛生責任者講習会	相模原市保健所	ウェルネスさがみはら	1
6月20日	栄養士研修会	相模原市高齢者福祉施設協議会	市民会館	1
11月12日	さがみはら介護の日大会		あじさい会館	1

b. 社外研修（ケアステーションナナ）

日 程	研修内容	主催者	研修場所	受講者数
5月15日	認定調査員新規研修	神奈川県	神奈川県総合医療会館	1
8月 9日	ケアマネ包括交流会	大野台高齢者支援センター	大野台幸園	1
11月11日		上鶴間高齢者支援センター	南保険福祉センター2階	1
11月12日	さがみはら介護の日大会	相模原市高齢者福祉施設協議会	あじさい会館	1
2月19日	居宅部会		相模原市民会館	1

c. 社内研修

日 程	研修内容	主催者	研修場所	受講者数
5月17日	第103回 蒼生塾 「事故対策について」	（福）蒼生会 事故対策委員長	デイサービスセンター モモ活動室	11
6月21日	第104回 蒼生塾 「平成30年度事業報告」※全体会議	（福）蒼生会 管理職/各担当		19
7月19日	第105回 蒼生塾 「食中毒について」	（福）蒼生会 講 師 （株）花王プロフェッショナルサービス		9
8月26日	第106回 蒼生塾 「労働基準法のあらまし」	（福）蒼生会 講 師 特定社会保険労務士・行政書士 今村 英治 先生		18
10月11日	第107回 蒼生塾 「食中毒/感染症」	（福）蒼生会 講 師 （株）花王プロフェッショナルサービス	コミュニティセンター ピノ活動室	8
11月11日	看取り研修会	（福）蒼生会 講 師 医療法人社団 おおぞら会 つばさクリニック 鈴木 智広 院長		6
12月20日	第108回 蒼生塾 事故対策について	（福）蒼生会 事故対策委員長	デイサービスセンター モモ活動室	7
2月21日	第109回 蒼生塾 虐待について	（福）蒼生会 居宅課長		7
3月30日	第110回 蒼生塾 「2019年度事業計画」※全体会議	（福）蒼生会 管理職/各担当		11

d. 海外研修

日 程	研修内容	主催者	研修場所	受講者数
実績なし	—	—	—	—

P Relations ublic

パブリック・リレーション

1. 近隣小中学校の総合学習、PTA イベントなどへの協力

- ① PTA 共学体験学習（特別養護老人ホームモモ・デイサービスセンターモモ）
・相模原市立 鶴野森中学校
- ② インターンシップ
・なし
- ③ 教職員研修受け入れ
・なし

2. 介護・看護実習など受け入れ

- ① 神奈川県立 津久井高等学校

3. 他施設との交流

交流施設：「モモ/ピノ合同」「東橋本ひまわりホーム」「中の郷」

- ① 風船バレー交流試合：2019年6月9日（日）
会場：東橋本ひまわりホーム
- ② 施設対抗運動会：2019年10月27日（日）
会場：中の郷

4. 地域との交流

- ① 鶴野森日枝神社大祭「神酒所」会場貸出
2019年9月 8日（日）※特別養護老人ホームモモ駐車場
- ② 大野中地区社会福祉協議会「ふらっと立ち寄りサロン」会場貸出
2019年8月28日（水）※レストランナナ
- ③ 大野中高齢者支援センター「介護予防講座（体操教室）」会場貸出
2019年9月27日（金）※レストランナナ
- ④ 近隣自治会の盆踊り大会などへの参加 ※ケアハウス入居者
2019年7月20日（土）・2019年7月27日（土）
- ⑤ 一般社団法人 相模原市高齢者福祉施設協議会「介護ウィーク」賛同
●シニアのためのスマホ講座
日 時 2019年11月1日（金） 14～16時
内 容 ◆スマホって何？ 触ってみよう、体験してみよう
◆電話、メール、写真、地図の使い方について
講 師 ドコモショップ 相模大野店/小田急相模原店 スタッフ様
会 場 ケアステーション ナナ
定 員 15名【要申込（受付10時～17時）・先着順】
●介護体験（車椅子操作実習・近隣散策）
日 時 A：2019年11月2日（土）
B：2019年11月3日（日） ※各13時30分～15時
内 容 ◆車椅子操作方法の実技講習
◆講習後に施設近隣（屋外）を車椅子介助にて散策
※その他、福祉車輛のリフト昇降体験なども予定
講 師 法人内各事業所の介護職員等
会場A コミュニティホーム ピノ
会場B 特別養護老人ホーム モモ
定 員 各10名【要申込（受付10時～17時）・先着順】

備考：「カシオペア祭」実績は、法人本部事業報告に記述。

